

2025年度 言語聴覚学科 シラバス

目次

1年生 教育課程(カリキュラムマップ)	3
1年生 カリキュラムツリー	4
1年生 年間予定表	6
1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
人間関係論	8	認知・学習心理学	27
英語	9	言語学	28
日本語表現法	10	音声学	29
歴史と文化	11	音声表記・分析学	30
現代の社会	12	音響学	31
法律入門	13	言語発達学	32
学習の基礎	14	言語聴覚療法管理学Ⅰ	33
数的リテラシー	15	失語症概論	34
情報処理	16	脳性麻痺	36
自然科学概論	17	学習障害・発達障害	37
医療概論	18	運動障害性構音障害Ⅰ	38
病理学	19	摂食嚥下障害Ⅰ	39
解剖・生理学	20	成人・小児の聴覚障害	40
小児科学	21	聴力検査Ⅰ	41
臨床歯科医学・口腔外科学	22	視覚聴覚二重障害・重複障害	42
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	23	地域言語聴覚法学Ⅰ	43
聴覚系の構造・機能・病態	24	臨床実習Ⅰ（見学実習）	44
神経系の構造・機能・病態	25	言語聴覚障害学の基礎	45
心理学	26		

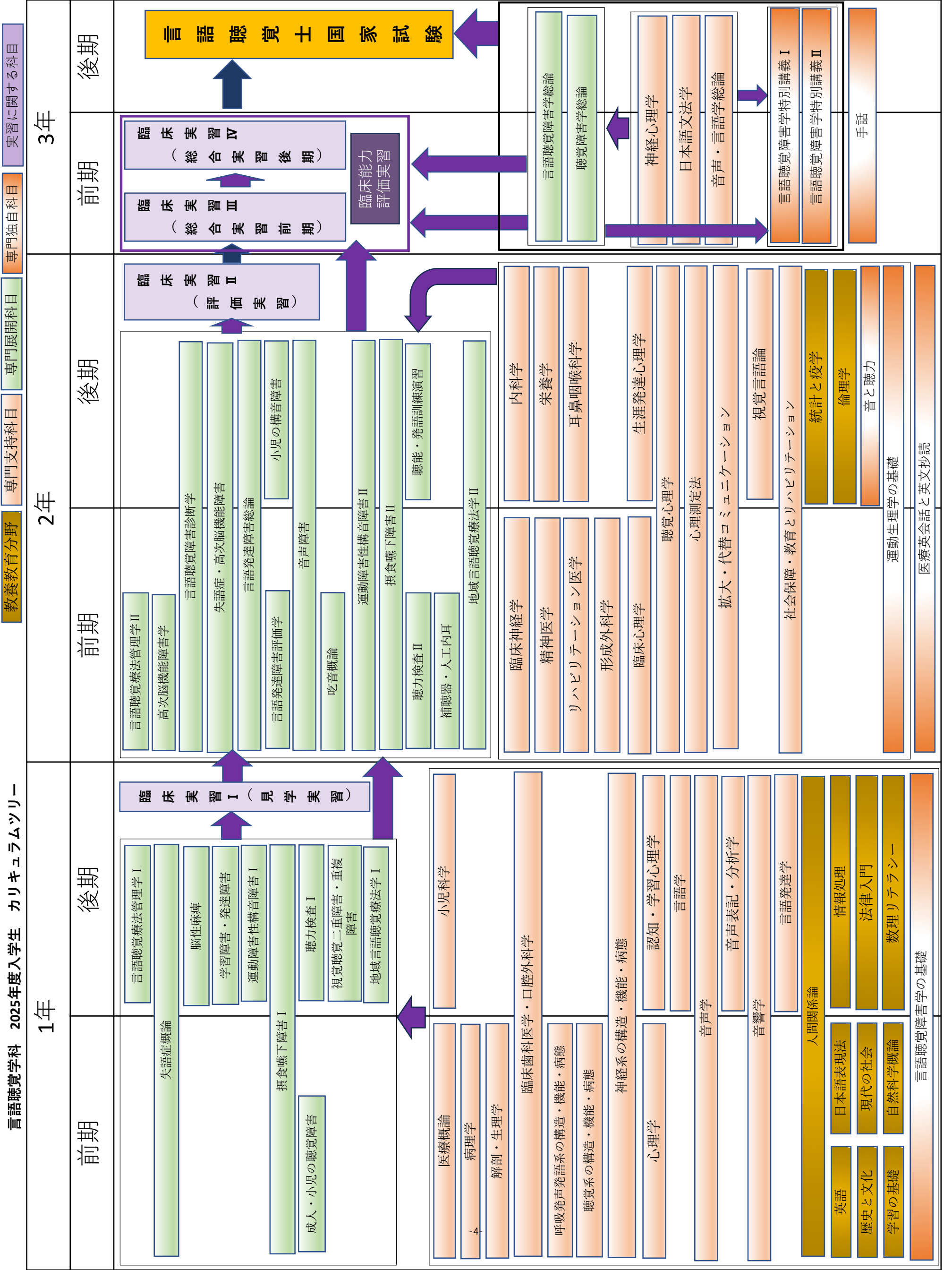
2・3年生 教育課程(カリキュラムマップ)	47
2・3年生 カリキュラムツリー	48
2年生 年間予定表	50
2年生 シラバス	52

開講科目	頁	開講科目	頁
英文抄読	52	言語聴覚障害診断学	67
統計学	53	失語症・高次脳機能障害Ⅱ	68
健康スポーツ学Ⅰ	54	言語発達障害Ⅱ	70
内科学	55	拡大・代替コミュニケーション	72
臨床神経学	56	音声障害	73
精神医学	57	器質性・機能性構音障害	74
リハビリテーション医学	58	運動障害性構音障害Ⅱ	75
耳鼻咽喉科学	59	吃音概論	77
形成外科学	60	摂食嚥下障害Ⅱ	78
生涯発達心理学	61	聴能・発語訓練演習	80
心理測定法	62	補聴器・人工内耳	81
福祉心理学	63	臨床実習Ⅱ（評価実習）	82
聴覚心理学	64	神経の診かた	83
社会保障制度・関係法規	65	動作分析の基礎	84
リハビリテーション論	66	口腔衛生論	85
		保険診療・介護保険制度	86

3年生 年間予定表	88
3年生 シラバス	90

開講科目	頁	開講科目	頁
基礎英会話	90	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	101
健康スポーツ学Ⅱ	91	生命科学の基礎	102
神経心理学	92	口腔顔面の感覚・運動障害総論	103
心理学系総論	93	地域リハビリテーション論	104
日本語文法学	94	認知症のリハビリテーション	105
言語聴覚障害学総論	95	疾病論	106
言語聴覚障害学臨床応用	96	リハビリテーション栄養学	107
高次脳機能系総論	97	視覚言語論	108
聴覚障害学総論	98	補綴・補装具論	109
音と聴力	99	言語聴覚学特別講義Ⅰ	110
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	100	言語聴覚学特別講義Ⅱ	112

ナンバリング	116
教員一覧、オフィスアワー、成績評価	124
実務経験を有する教員の科目一覧	126



言語聴覚学科

1 年生

(2025年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 言語聴覚学科1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 健康診断	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日
5月	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
7月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14 海の日	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2
8月	3	4 定期試験	5 定期試験	6 追試験	7 追試験	8	9
	10	11 山の日	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27 不合格者発表	28	29	30
	31	1	2	3 再試験	4 再試験	5	6
9月	8	8	9	10	11	12	13
	15	15 敬老の日	16	17	18	19	20
	22	22	23 秋分の日	24	25 臨床実習 I	26 臨床実習 I	27
	29	29 臨床実習 I	30 臨床実習 I				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 言語聴覚学科1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 臨床次週Ⅰ	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 スポーツの日	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3 文化の日	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26	27	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1 元旦	2	3
1月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12 成人の日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3 定期試験	4 定期試験	5 定期試験	6 定期試験	7
	8	9 定期試験	10	11 建国記念日	12 追試験	13 追試験	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23 天皇誕生日	24	25 不合格者発表	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10 再試験	11 再試験	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-0-HCU-01				
	●	●	●							
科目名	人間関係論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	患者様、利用者様、他職種との良好な人間関係を構築するためコミュニケーション論を含めた人間関係論を学ぶ。他者と信頼し合える良好な関係を築き継続できること、多様な背景を持つ人や複雑な状況に置かれた人を理解し関わることの重要性を学び臨床に生かす力を醸成する。									
到達目標	人間やコミュニケーションとその環境を考え理解する姿勢ができ、メディカルスタッフとしてまた社会を構成する一員としての土台ができる。									
学修者への期待等	グループワークを多く含む。積極的に参加すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	人間関係とは・・・グループ討議を含む					人間関係について自分の考えをまとめる。30分程度				
2	対人認知の歪みと人間関係・・・グループで課題に取り組む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
3	パーソナリティと人間関係・・・グループ討議を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
4	コミュニケーションについて・・・グループワークを含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
5	感情と人間関係・・・グループ討議を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
6	葛藤と欲求不満・・・グループワークを含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
7	ストレスと人間関係・・・グループワークを含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
8	援助と社会的スキル・・・グループで課題に取り組む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
9	客観的な人間関係の理解・・・グループワークを含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
10	カウンセリング的アプローチ・・・聞く姿勢のトレーニング					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
11	動機づけ（モチベーション）と人間関係・・・グループ討議を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
12	リーダーシップとチーム・・・評価を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
13	コーチングについて・・・コーチング体験を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
14	集団がもたらす影響・・・グループ討議を含む					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
15	人間関係を難しくする障害・・・グループで支援を考える					授業の復習を行い自分の考えをまとめる。30分程度				
教科書	なし									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

講師は臨床現場で言語聴覚士としての経験をもちスタッフや患者・患者家族との関係を構築してきた

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HCU-02						
	●	●										
科目名	英語				単位 認定者	近江 貞子		評 価 の 方 法	試験(筆記・ レポート)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科		必修	1 年	開講時期	前期	単位数		1 単位	授業内 課題等	20	%
							授業時間数		30 時間	受講態度	20	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回			
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話す」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。											
到達目標	学生は当該専門職として必要となる基礎的な読解力を身につけ、一般的なトピックについて英語で話すことができるようになる。											
学修者への 期待等	英語でのコミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を持参して授業に臨むこと。また、授業内で学習した英語表現は普段から繰り返し口に出して覚えて欲しい。											
回	授業計画					準備学修						
1	Orientation: Review of English grammar, structure and pronunciation ; Today's Expression(1)					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
2	Today's Expression(2); Unit 1. General ideas of health and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
3	Today's Expression(3); Unit 1. General ideas of health and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
4	Today's Expression(4); Unit 2. Polyphenol and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
5	Today's Expression(5); Unit 2. Polyphenol and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
6	Today's Expression(6); Unit 3. Reducing your smartphone use and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
7	Today's Expression(7); Unit 3. Reducing your smartphone use and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
8	Today's Expression(8);Unit 5. Japan's school lunch and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
9	Today's Expression(9); Unit 5. Japan's school lunch and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
10	Today's Expression(10); Unit 6. Avoiding foods with hidden sugar and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
11	Today's Expression(11); Unit 6. Avoiding foods with hidden sugar and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
12	Today's Expression(12); Unit 10. Healthcare Policy and other topic					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
13	Today's Expression(13); Unit 15. Vaccination and other topic ①					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
14	Today's Expression(14); Unit 15. Vaccination and other topic ②					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
15	Review and preparation for the exam					単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。(30分程度)						
教科書	A Healthy Life for Today and Tomorrow 英米文化学会 編 朝日出版社											
参考文献												
備考	授業の進行 状況によってシラバスを変更することがある。テキストを全unit学習することは出来ないが、今後英語を読む際に有効なルールを覚えていくので応用できるはずである。定期的に単語、会話表現などの課題を課す。グループに分かれての会話練習、要約発表なども行う予定である。 課題やレポートがある場合は、次の授業内でフィードバックする。											
※以下は該当者のみ記載する。												
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）												

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●							
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		評価の方法	試験(筆記)	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題(課題文1)	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題(課題文2)	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回		受講態度	20 %
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身につける。その上で、書き言葉・話し言葉等のさまざまな表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現のさまざまなスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につけることを目標とする。具体的には、 ・相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた意思の表現・伝達ができるようになる。 ・目的に合わせた文章(文書)作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。									
回	授業計画					準備学修				
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
2	日本文の概要1:現代文の成り立ち [テキスト言葉と表現編]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
3	日本文の概要2:古典文法(漢文、古文) [テキスト言葉と表現編 1.文法(1)古典文法]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
4	日本文の概要3:現代文法 [テキスト言葉と表現編 1.文法(2)口語文法]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
5	日本文の概要4:現代文法つづき(品詞分類) [テキスト言葉と表現編 1.文法(2)口語文法]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
6	現代文の修辞:原稿用紙の使い方など [テキスト言葉と表現編 4.表現(4)] 実践1:課題文を書く(400字)…主題は当日指示					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
7	実践1の添削指導 語彙1:辞書語彙…漢字と対義語・類義語					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
8	現代文の修辞:表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)[テキスト言葉と表現編 4.表現(2)]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
9	文章の作成1:公文作成の考え方					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
10	文章の作成2:文章作成の基本 [テキスト言葉と表現編 4.表現(5)]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
11	文章の作成2:実用文の作成 [テキスト言葉と表現編 4.表現(5)]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
12	敬語1:種類と働き、尊敬語と謙譲語 [テキスト言葉と表現編 4.表現(12)]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
13	800字作成要領 実践2:課題文を書く(800字)…主題は当日指示					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
14	実践2の添削指導 敬語2:謙譲語と丁寧語 [テキスト言葉と表現編 4.表現(12)]					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
15	実践2の添削指導 語彙2:辞書語彙…その他(ことわざ・四字熟語・慣用句)、語彙3:新聞語彙 定期試験説明					当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)				
教科書	『原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料 増補三訂版(シグマベスト)』 国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	「社会人のためのビジュアルカラー国語百科」大修館書店編集部、大修館書店									
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。 授業内課題である課題文(含事後指導)計2種は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(試験は持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーズリーフ等は認めない)。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。 課題やレポートについては、次の授業内で解説指導を行なう。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HCU-02				
	●			●	●					
科目名	歴史と文化				単位 認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		評価の 方法	※詳細は備考欄を参照 すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	言語聴覚士は多くの世代や社会的背景を持つ人々と1対1で対話する機会が多い。良好な人間関係を構築するための基本的な教養として、各国の歴史・文化・思想・宗教を学ぶ。学修を通じ多様な価値観を受け入れるための寛容さを育み、事象を客観的に観察し思考する力と判断力を養い、豊かな人間性を育む基礎とする。									
到達目標	(丸藤)現代の社会を形成した様々な歴史事象を学び、世界や歴史についての知識・関心を育み、社会人としての教養・常識を養うことを目標とする。 (徳田)世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい文化教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。									
学修者への期待等	(丸藤)授業を理解し、目標に到達するために意欲的に授業に取り組んでください。また幅広い人間性と教養を身につけるために、宗教や歴史に対する関心を持つようにしてください。 (徳田)授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史のおよび文化的な事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	ユダヤ教について ー律法の遵守ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)				徳田 幸雄	
2	キリスト教について ー罪からの救いー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)				徳田 幸雄	
3	イスラームについて ー神への服従ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)				徳田 幸雄	
4	仏教について ー苦からの解脱ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)				徳田 幸雄	
5	歴史の学びについて/グローバルエコノミー				配布資料をよく読み、授業内容を理解し課題を完成させる。 (1 時間)				丸藤 准二	
6	科学革命と啓蒙				配布資料をよく読み、授業内容を理解し課題を完成させる。 (1 時間)				丸藤 准二	
7	産業革命と工業化				配布資料をよく読み、授業内容を理解し課題を完成させる。 (1 時間)				丸藤 准二	
8	医療・医学の発展と近代社会				配布資料をよく読み、授業内容を理解し課題を完成させる。 (1 時間)				丸藤 准二	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。									
参考文献	授業において指示します。									
備考	(丸藤)レポート70%、受講態度30%で評価します。 (徳田)授業内課題50%、テスト50%で評価します。 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HS0-03				
	●				●					
科目名	現代の社会				単位 認定者	吉田 理		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		※筆記試験はマークシート（60%）とレポート（20%）を同時 時間内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。	
						授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と歴史)					私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)				
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)					前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)					前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)					前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)					前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)					前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
7	現代の経済社会(特に財政と金融)					前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について) 附、レポート作成に当たって					前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
教科書	『2025小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus』（第一学習社）									
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか』池上彰著（NHK出版(2017)） 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	講義は板書を中心に進めるのでノート（大学ノート推奨）を準備すること。 試験は、同時時間内にマークシート解答とレポート作成を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には試験を中止し、レポートのみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HSO-04				
	●			●						
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価 の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の意味と法律を学ぶ意味					法律に関するイメージを自分なりに持っておくこと (30分程度)				
2	憲法（1）基本的人権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
3	憲法（2）統治機構					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
4	民法（1）総則・物権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
5	民法（2）債権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
6	民法（3）親族・相続					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
7	刑法（1）総論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
8	刑法（2）各論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として上場企業などの法定監査、税理士として税務業務に従事。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HSO-01				
	●	●		●						
科目名	学習の基礎				単位 認定者	櫻庭ゆかり 江畑 綾		評価の 方法	授業内 課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	言語聴覚学を学ぶ大学生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。本学・学科の教育方針の理解、言語聴覚士となる心構え、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、健康にかかわる知識（睡眠・食生活、大学生が会えるところの問題等）の修得、さらには様々な学習法を学びながら各自に最も効果的な学習方法を会得する。									
到達目標	1. 大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2. 大学生活を有意義におくるために知識やスキルを身につける。									
学修者への期待等	大学生活が有意義なものになるように計画された科目である。各自の目標を達成するために積極的に学ぶことを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	大学生活について 建学の精神、本学科の教育方針、学業の到達目標など					学生便覧、シラバスに目を通しておくこと(30分程度)			櫻庭ゆかり	
2	大学での学びについて 何のために学ぶか。授業の受け方、ノートの取り方					事後) 自分なりの勉強の仕方をレポートにして次週提出のこと。(150分程度)			櫻庭ゆかり	
3	大学での学びについて ①レポートのまとめ方②図書館の活用方法の講義と演習					事後) 学んだことをまとめ、次回提出のこと(150分程度)			櫻庭ゆかり 図書室司書	
4	健康にかかわる基礎知識 体の健康について(睡眠・食生活など)					事後) 学んだことをまとめて次回提出のこと(150分程度)			櫻庭ゆかり 保健室	
5	大学生活に関わる基礎知識 大学で会えるところの問題					事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(2時間程度)			学生総合支援 センター	
6	学修の仕方 教科学修の説明、内容、使用方法					事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(2時間程度)			江畑 綾	
7	言語聴覚士になるための心構え 言語聴覚士の仕事内容、チームアプローチについてなど					事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(2時間程度)			江畑 綾	
8	実習に向けて ビジネスマナー					事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(2時間程度)			江畑 綾	
教科書	シラバス、学生便覧、 「2026年版言語聴覚士国家試験過去問題 3 年間の解答と解説」大揚社 2025年7月頃発売予定									
参考文献										
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合がある。課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。□									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HSC-02				
	●	●								
科目名	数理リテラシー				単位 認定者	本田 俊夫 中島 拓		評価 の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	数学の基礎・基本を身につけ、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への 期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	分数や小数の計算・四則計算				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
2	割合と百分率(損益算・仕事算・濃度算)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
3	速さ(速さ・時間・距離、旅人算)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
4	数的推理①(図形)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
5	数的推理②(確率)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
6	統計の基礎①(実数、指数)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
7	統計の基礎②(総量と構成比、増加率)				授業内容をよく復習して理解すること（概ね30分～1時間程度）。				本田 俊夫	
8	生成AIの利用と倫理				参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験				中島 拓	
教科書	特に指定しません。随時プリントを配布します。									
参考文献	第8回講義の事前学習資料： https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/EYpAtrfYN_9Pm8P0ypvj6vsBciJvg-2jFJYcyp2zl5908w?e=JxW4xN									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●									
科目名	情報処理				単位 認定者	氏家 留美子		評価の 方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
					授業時間数	30 時間	受講態度		30 %	
				授業形態		演習	授業回数		15 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使える。グラフを作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し、訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。 さまざまなITツールの活用で、情報を整理・評価し、ICTを活用した情報分析が出来るようになる。									
学修者への 期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。 操作に不慣れな学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。 教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用する。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備しておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	Word（実技）：ビジネス文書の基礎知識 （ビジネス文書の構成と作成方法）					【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。 （30分程度） 【復習について】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。 授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によって、パソコンスキル（技能）は異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。 （各自のスキルにより30分～1時間程度）				
2	Word（実技）：Wordの基本操作（書式設定・印刷設定） 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策									
3	Word（実技）：情報の整理（表を用いた文書作成）									
4	Word（実技）：いろいろな書式設定の活用方法 （段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター）									
5	Word（実技）：文書の表現力アップ （イラスト・写真・ワードアート・図形描画）									
6	Word（実技）：レポートなどの長文作成をサポートする操作 （見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換） 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール									
7	PowerPoint（実技）：プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定									
8	PowerPoint（実技）：アニメーションの設定・図解表現の手法・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成									
9	Excel（実技）：Excelの基本操作 （四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定）									
10	Excel（実技）：数式を効率的かつ正確に作る （相対参照と絶対参照の使い分け）									
11	Excel（実技）：数値を評価するための基本的関数 （MAX・MIN・COUNT・COUNTA）									
12	Excel（実技）：データを視覚的に分析・評価（グラフ作成）									
13	Excel（実技）：基準に基づくデータの整理や抽出 （データベースのしくみ・並べ替え・フィルター）									
14	Excel（実技）：データを条件付きで処理・集計 （IF・COUNTIF・SUMIF関数など） 関数のまとめ①（データの評価・集計するための関数の活用）									
15	Excel（実技）：特定の値を基に検索とデータ取得 （VLOOKUP関数など） 関数のまとめ②（データの整理・分析するための関数の活用）									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子／大澤栄子 著 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					ST-0-HSC-02				
科目名	自然科学概論				単位 認定者	本田 俊夫		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚士にとって欠かすことが出来ない対数、指数、圧力、単位の扱いについて学び音響学の基盤とする。後半では、生理学の基礎となる細胞の性質と代謝、遺伝の概要について解剖・生理の基礎とする。									
到達目標	音響学の基礎概念である力とエネルギー、分子の運動について理解する。また、生体構成物質とそのはたらきについて理解し、生命活動についての知識を深める。									
学修者への 期待等	授業後に理解するよう復習をしてください。理解できないところは積極的に質問し、解決しておくことを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	力と運動Ⅰ 力と質量の単位 静力学					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
2	力と運動Ⅱ 慣性・運動の法則					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
3	仕事とエネルギー、運動量					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
4	圧力の単位 圧力、大気圧、分子運動					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
5	温度と熱 熱と分子運動					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
6	波動 音と分子運動					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
7	記法と指数・対数					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
8	対数の計算					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
9	物質の構造					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
10	溶液 酸と塩基、pHの計算					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
11	溶液と浸透圧					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
12	細胞、生体物質、代謝					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
13	生物体の恒常性Ⅰ 循環器、肝臓・腎臓					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
14	生物体の恒常性Ⅱ 自律神経とホルモン					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
15	生殖と遺伝					授業内容を復習しておくこと (概ね30分程度)				
教科書	特に指定しない									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-01				
	●	●		●						
科目名	医療概論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	医療とは人間の健康の維持や回復、増進を目的とした諸活動を指す。疾病に対する医学を包含し、保健、福祉を含む。本講義では言語聴覚士として医療に従事するにあたり、多職種との協働をかなえるために、病気と医療の歴史、医療行為の概念を含む臨床医学の基礎、健康状態と社会環境、予防医療、感染症対策、人口・保健統計、医療倫理など医療の概要を学ぶ。									
到達目標	医学・医療に関して具体的にふれることにより、専門を学ぶ学習意欲を高めるとともに、将来の基礎を築く。									
学修者への期待等	医療、リハビリテーションに関することについて、自分の具体的なイメージを作り理解を深めていくことを期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	少子高齢化の問題				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				櫻庭 ゆかり	
2	地域医療と介護の問題				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				櫻庭 ゆかり	
3	日本人の死因と要介護の原因				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				櫻庭 ゆかり	
4	障害の概念 ICD・ICIDH				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				櫻庭 ゆかり	
5	障害の概要				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				櫻庭 ゆかり	
6	リハビリテーションとは。ICFの基本的な考え方 適宜グループワークを実施する				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				渡邊 弘人	
7	リハビリテーションとは リハビリにかかわる職種、チームアプローチ 適宜グループワークを実施する				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				渡邊 弘人	
8	医の倫理 守秘義務医療安全・個人情報保護法 適宜グループワークを実施する				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				渡邊 弘人	
9	医の倫理 生命倫理 適宜グループワークを実施する				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				渡邊 弘人	
10	医の倫理 インフォームドコンセント・根拠に基づく医療 適宜グループワークを実施する				関連書籍を読んで講義に臨むこと（1時間程度）				渡邊 弘人	
11	医療安全の推進（グループワーク）				本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね1時間）。				江畑 綾	
12	感染予防の実際（グループワーク）				本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね1時間）。				江畑 綾	
13	健康管理と予防医学 「母子保健」「学校保健」				本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね1時間）。				江畑 綾	
14	健康管理と予防医学「医療制度」				本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね1時間）。				江畑 綾	
15	健康管理と予防医学「福祉制度」				本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね1時間）。				江畑 綾	
教科書	特になし。講義毎に資料を配布。									
参考文献	『言語聴覚士テキスト（第4版）』 大森孝一他 編著 医歯薬出版									
備考	授業課題は、採点后に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて20年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-HDT-02				
	●	●		●						
科目名	病理学				単位 認定者	三木 康宏		評価の 方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	病理学とは、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定することを目的とする分野である。言語聴覚士として、適切なリハビリテーションを提供するためには、患者・利用者の疾病に対する理解が不可欠である。本講義では遺伝疾患、代謝障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などの疾患や障害を取り上げ、それぞれの発生機序や診断について学んでいく。									
到達目標	身体の構図と機能を基本とし、病態におけるその変化について学び、そこから、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。									
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから病態における変化について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次の講義に備えてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	病理学とはなにか。病気の発生要因（病因）について					教科書第1章（病理学とは何か）を読み、具体的な「病因」を考える（概ね1時間）				
2	細胞・組織の変化、特に細胞死について					教科書第2章（細胞傷害と細胞増殖）を読む。（概ね1時間30分）				
3	組織・細胞の修復について					教科書第3章（組織、細胞の修復と再生）を読む。（概ね1時間30分）				
4	萎縮と肥大について					教科書第10章（代謝異常）10-1（細胞傷害に対する細胞の適応）を読む。（概ね30分）				
5	急性炎症と炎症細胞について					教科書第5章（炎症）5-1～5-3を読む。（概ね1時間30分）				
6	慢性炎症・感染症について					教科書第5章（炎症）を復習を含めて全て読む。（概ね2時間）				
7	免疫機構について					教科書第7章（免疫機構の異常）7-1～7-3を読む。（概ね1時間）				
8	免疫と疾患：アレルギーについて					教科書第7章（免疫機構の異常）7-4を読む。（概ね1時間）				
9	免疫と疾患：自己免疫疾患、免疫不全について					教科書第7章（免疫機構の異常）7-5、7-6を読む。（概ね1時間）				
10	腫瘍学の基礎、良性和悪性の違いについて					教科書第9章（腫瘍）9-1～9-7を読む。（概ね2時間）				
11	腫瘍の発生について					教科書第9章（腫瘍）9-12、9-13を読む。（概ね2時間）				
12	局所的循環障害について					教科書第4章（循環障害）4-1を読む。（概ね2時間）				
13	全身的循環障害について					教科書第4章（循環障害）4-2を読む。（概ね1時間）				
14	遺伝子と疾患について					教科書第8章（遺伝と先天異常）8-1～8-4を読む。（概ね2時間）				
15	病理学を再考する					日本人の死因の年次推移に関する資料（7回までに配布）をから、その病因を考える（概ね1時間程度）				
教科書	『シンプル病理学』 笹野公伸他編 南江堂									
参考文献	「疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学」 系統看護学講座-専門基礎分野、大橋健一、医学書院									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

東北大学大学院 医学系研究科 病理診断分野 准教授、東北大学病院勤務

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-03				
	●									
科目名	解剖・生理学				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	授業内課題等	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	臨床現場では患者・利用者に現れる症状を理解することが求められる。本講義では主に人体の循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌、免疫系の構造を含めた人体を、どの場所にありどのような形をしているのかという側面を解剖学的に学び、さらには個々の機能と生理を理解し、人体各部位の相互関係や統合関係を学んでゆく。人体の仕組みと機能について連続的に学修するために解剖学と生理学を統合して学修する。									
到達目標	内臓器官系の役割を理解し、それが如何に人体を支えているかを総合的に捉えることができる。									
学修者への期待等	単なる記憶でなく、具体的なイメージを作り理解を伴った学びを目指すこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	人体の基本構造					教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（1）に対する準備をすること				
2	循環器系（1）；循環器系の構成、心臓の構造と働き									
3	循環器系（2）；血管、血圧とその調節、リンパ管系									
4	呼吸器系；呼吸器系の構造、呼吸ガス交換									
5	消化器系（1）；消化器系の構造と機能									
6	消化器系（2）；栄養素の消化と吸収					教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（2）に対する準備をすること				
7	腎・尿路系；腎臓の構造と尿生成、尿路									
8	自律神経系；自律神経系の構造と機能									
9	内分泌系；内分泌腺とホルモンの働き									
10	運動器系；骨と筋肉									
11	皮膚；皮膚の構造、体温調節					教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。実習において、提出した実習報告書は返還するので、見直すこと（30分）。小テスト（3）に対する準備をすること				
12	生殖器系；性ホルモン、妊娠と出産									
13	生理学実習（1）；皮膚感覚、味覚・嗅覚									
14	生理学実習（2）；血圧、心音、心電図、									
15	生理学実習（3）；呼吸機能検査									
教科書	「なるほどなっとく！解剖生理学（改訂3版）」多久和典子、多久和陽著、南山堂									
参考文献										
備考	小テストは3回に分けて授業時間内に行う。解答用紙を回収後に問題の説明を行い自己採点させる。採点後答案用紙は返却する。60点に満たない学生に対してはその回の小テストの再テストを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-07				
	●	●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	峯岸 直子		評価の方法	試験(レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚士が小児の療育に携わるにあたり、必要な基礎知識を疾患ごとに修得する。小児疾患の原因・病態・診断・検査・治療の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学修する。講義終盤で、小児科学と言語聴覚領域との関連を学ぶ。									
到達目標	小児の成長・発達の状況，小児特有の疾患，小児保健に関する理解を深め，言語聴覚士として必要な小児科に関連する知識を習得する。									
学修者への期待等	言語聴覚士として小児に関わる場面を想像しながら，興味を持って積極的に学習してほしい。									
回	授業計画						準備学修			
1	小児の発達・成長 (小児の特徴、小児期の発達・成長、発達評価について)						予習 テキスト第1章-1, 2 (概ね60分)			
2	小児保健 (育児、乳幼児健診、事故、予防接種、児童虐待について)						復習、予習 テキスト第1章-3 (概ね60分)			
3	小児疾患の診断法 (診断法、問診、診察法、臨床検査、主要症状による鑑別診断について) 遺伝子の基礎知識						復習、予習 テキスト第1章-4, 5A (概ね60分)			
4	遺伝疾患と先天異常 (単一遺伝子病、多因子遺伝病、染色体の異常、先天異常、先天代謝異常について)						復習、予習 テキスト第1章-5 (概ね60分)			
5	新生児疾患 (周産期・新生児期、新生児期の疾患・障害について)						復習、予習 テキスト第1章-6 (概ね60分)			
6	神経・骨・筋肉疾患 (神経系、骨・運動器の主な疾患について)						復習、予習 テキスト第1章-7 (概ね60分)			
7	小児の循環器疾患、感染症						復習、予習 テキスト第1章-8, 10 (概ね60分)			
8	小児の呼吸器・消化器疾患						復習、予習 テキスト第1章-9, 11 (概ね60分)			
9	小児の内分泌・代謝疾患、免疫・アレルギー疾患・膠原病						復習、予習 テキスト第1章-12, 13 (概ね60分)			
10	小児の腎・泌尿器・生殖器疾患、血液疾患・悪性腫瘍						復習、予習 テキスト第1章-14, 15 (概ね60分)			
11	心身症・神経症、眼科・耳鼻科疾患 診療の現場と小児を取り巻く環境						復習、予習 テキスト第1章-16, 17, テキスト第4章、第5章 (概ね60分)			
12	障害学① (障害児を取り巻く環境、脳性麻痺、知的障害)						復習、予習 テキスト第2章-1, 2, 3 (概ね60分)			
13	障害学② 言語障害、感覚器障害、重複障害児、重症心身障害児など						復習、予習 テキスト第2章-4, 5, 6, 7, 8 (概ね60分)			
14	発達障害学① 発達障害とは、ADHD, ASD, SLD, チック症など						復習、予習 テキスト第3章-1 (概ね60分)			
15	発達障害学② 発達障害の評価とその実施法						復習、予習 テキスト第3章-2 (概ね60分)			
教科書	『言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 (第3版)』 宮尾 益知/小沢 浩著 医学書院									
参考文献										
備考	授業内課題は採点後返却し、次の授業内で解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として10年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング						
	●	●		●		ST-1-HDT-12						
科目名	臨床歯科医学・口腔外科学					単位 認定者	川村 仁 小野寺 健		評価の 方法	試験(筆記)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科		必修	1 年	開講時期	通年 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <th>授業内課題等</th> <td>30</td> <td>%</td>	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%
				授業形態			講義 <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <th>受講態度</th> <td>30</td> <td>%</td>	授業時間数		30 時間	受講態度	30
				授業回数	15 回							
授業の概要	顎口腔機能障害を惹起する多彩な口腔病変について、病理学・口腔外科学の観点から体系的に明らかにするために、皮膚と粘膜の構造と機能、顔面・口腔の発生について学ぶ。また口腔組織の構造と機能、歯の発育異常・損傷、智歯、う蝕、歯周病、口腔粘膜病変、口腔腫瘍・嚢胞、口腔奇形、歯列不正・不正咬合、さらに顎の問題として、顎関節疾患、顎変形症の診断と治療について学び、全人的健康のための口腔顎顔面の役割を理解する。講義終盤では顎口腔機能の障害と構音、咀嚼、嚥下障害の関係について学修する。											
到達目標	歯科医学の基礎的知識を習得し、全人的健康における口腔顎顔面の役割を理解し、口腔顎顔面に生ずる病的状態から生ずる構音、咀嚼、摂食障害の機能訓練を行うための基盤を作る。											
学修者への期待等	授業、講義に教科書が利用されています。教科書は基本ですが、その教科書も様々な存在し、教科書のすべてが絶対ではなく、前進の糸口でしかありません。私が学び、皆さんにお伝えすることは、口腔顎顔面領域の問題と認識についての大きな進化の流れをお示しすることであり、皆さんのこれからの前進にお手伝いできればと考えます。教科書に見えない部分も含め、スライド（プリントを準備します）を通し、口腔顎顔面領域の、直面するであろう、想像を超えるであろう様々な問題について、一緒に考えていきます。											
回	授業計画						準備学修			担当		
1	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：口腔の健康を冒す病気と闘う口腔顎顔面外科学						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
2	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：基礎歯科医学&臨床歯科医学						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
3	口腔粘膜疾患・口腔腫瘍&嚢胞の臨床						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
4	虫歯・歯周組織炎・智歯を科学する						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
5	歯列不正。顎関節疾患を科学する						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
6	口腔再建とインプラントの臨床						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
7	口腔顎顔面の奇形&変形の臨床						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			川村 仁		
8	皮膚と粘膜、顔面・口腔の発生						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
9	口腔組織						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
10	歯の発育異常						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
11	う蝕、歯周組織						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
12	口腔粘膜病変						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
13	口腔嚢胞						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
14	口腔腫瘍						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
15	口腔奇形						教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）			小野寺 健		
教科書	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学 口腔外科学（第2版）」 夏目 長門編 医学書院											
参考文献												
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

大学教員として、30年以上口腔科学教育の経験あり。歯科医師として、30年以上臨床の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-13				
	●	●		●						
科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	人間の生命、コミュニケーションに大きくかわる呼吸器・喉頭・咽頭・口腔・舌・下顎の解剖と機能を学修し、音声言語機能障害をきたす疾患の病態を理解する。さらに、診断に要する検査について、その目的・方法を学び、結果が意味するところを理解する。音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。医師が行う薬物治療、手術治療について学修し、施術後に必要となる言語聴覚士によるリハビリテーションについて理解を深める。									
到達目標	音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床の基盤となる教科の一つである。復習を怠らず積極的な受講を期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	呼吸器の構造・気道 適宜グループワークを行う					テキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
2	呼吸器の構造・肺 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
3	胸郭と胸腔一呼吸運動 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
4	喉頭の構造① 喉頭軟骨 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
5	喉頭の構造② 喉頭の筋 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
6	喉頭の機能① 内喉頭筋と外喉頭筋 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
7	喉頭の機能② 声帯の機能 (開大・閉鎖・発声) 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
8	喉頭の神経と血管 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
9	咽頭の構造 概要と咽頭筋 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
10	咽頭の機能 嚥下 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
11	呼吸と発声に関わる検査 適宜グループワークを行う					前回指示したテキストの該当ページを予習すること (30分程度)			櫻庭ゆかり	
12	声帯の隆起性病変					事前に配布したプリントを元に予習すること。(30分程度)			朴澤 孝治	
13	声帯の萎縮性・硬化性病変・機能性発声障害					事前に配布したプリントを元に予習すること。(30分程度)			朴澤 孝治	
14	喉頭疾患の治療					事前に配布したプリントを元に予習すること。(30分程度)			朴澤 孝治	
15	喉頭全摘手術後の代用音声					事前に配布したプリントを元に予習すること。(30分程度)			朴澤 孝治	
教科書	病気がみえる④ 呼吸器 MEDIC MEDIA									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有する

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-14				
	●	●		●						
科目名	聴覚系の構造・機能・病態				単位 認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	人の聴覚器官にはさまざまな役割があり、生活する上で欠かすことができない「音」や「平衡感覚」に深くかかわっている。感受する刺激がどのようなものなのかを知り、聴覚器官内部でどう作用されるのかを理解する。さらに、この作用がうまく働かなくなった場合の影響、難聴・めまいを引き起こす原因となる疾患や病態について学ぶ。特に耳の解剖生理、構造をイントロダクションとし、日常よく耳にする疾患の説明から検査、症状という流れで理解を深めていく。									
到達目標	言語聴覚士に必要な聴覚系リハビリテーションの基礎となる知識を修得する。									
学修者への期待等	聴覚前庭系の解剖と生理は、聴覚系リハビリテーション領域を理解する上で非常に重要な科目であるため、自ら考え学び取る姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	聴覚伝音系の解剖と生理① 外耳と中耳の解剖 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
2	聴覚伝音系の解剖と生理② 外耳と中耳の機能 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
3	聴覚感音系の解剖と生理① 内耳の解剖 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
4	聴覚感音系の解剖と生理② 内耳の機能 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
5	聴覚後迷路系の解剖と生理 聴覚伝導路の解剖と機能 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
6	聴覚前庭系の解剖と生理 総合 外耳から後迷路まで解剖と機能 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
7	聴覚伝音系の病態① 外耳関連疾患 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
8	聴覚伝音系の病態② 中耳関連疾患 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
9	聴覚伝音系の検査 適宜グループワークを実施する					テキスト第4章「2、聴覚機能検査」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
10	聴覚感音系の病態① 内耳系疾患 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
11	聴覚感音系の病態② 聴覚伝導路系疾患 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
12	聴覚感音系の検査 適宜グループワークを実施する					テキスト第4章「2、聴覚機能検査」を予習(30分)、配布資料の復習(1時間)				
13	前庭系の病態 適宜グループワークを実施する					事前に配布された資料を予習・復習(各1時間)				
14	前庭系の検査 適宜グループワークを実施する					事前に配布された資料を予習・復習(各1時間)				
15	聴覚前庭系疾患・検査 総合 適宜グループワークを実施する					テキスト第3章「3、聴覚の病理」、4章「2、聴覚機能検査」、配布資料を予習・復習(各1時間)				
教科書	「病気が見えるvol113 耳鼻咽喉科」 医療情報科学研究所(編) メディックメディア									
参考文献	「言語聴覚士テキスト」(最新版) 大森孝一他(編集) 医歯薬出版									
備考	授業内課題は、採点后返却しフィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-HDT-15				
	●	●		●						
科目名	神経系の構造・機能・病態				単位 認定者	平山 和美		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	リハビリテーションの対象となる中枢神経、末梢神経の生理的機能、解剖、病態について理解する。特に、外来の刺激を受容し中枢に伝え、中枢から効果器への指令を伝える装置である神経ネットワークの経路を中心に、大脳皮質・大脳辺縁系・小脳・脳幹・脊髄、各神経核の機能と構造を理解し、その損傷による身体への影響をリハビリテーションと関連付け、医用画像の評価を学ぶ。さらに身体の状態に強く関与する自律神経系について学修する。									
到達目標	末梢および中枢神経を構成する、重要な細胞、組織、器官（部位）の構造と機能について説明できる。									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修				
1	細胞					教科書 脳・神経 神経系の構造と機能を読んでおくこと（60分程度）				
2	組織・器官					前回の講義内容の復習（30分程度）				
3	発生					前回の講義内容の復習（30分程度）				
4	進化					前回の講義内容の復習（30分程度）				
5	末梢神経（全身）					前回の講義内容の復習（30分程度）				
6	末梢神経（脳神経）（グループワークを実施）					前回の講義内容の復習（30分程度）				
7	脊髄					前回の講義内容の復習（30分程度）				
8	脳幹・小脳					前回の講義内容の復習（30分程度）				
9	視床					前回の講義内容の復習（30分程度）				
10	基底核					前回の講義内容の復習（30分程度）				
11	大脳（後頭葉、側頭葉）					前回の講義内容の復習（30分程度）				
12	大脳（頭頂葉、前頭葉）					前回の講義内容の復習（30分程度）				
13	脳室・膜・血管					前回の講義内容の復習（30分程度）				
14	脳画像の見方					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
15	総括					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
教科書	『病気がみえるvol.7 脳・神経（最新版）』 医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
参考文献										
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-1-WOM-02				
	●	●								
科目名	心理学				単位 認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚療法の現場では自らの気持ちを言語で表現できない利用者と相対し、心と行動を理解することが求められ、心理学の素養はその一助となる。心理学は人の感情や行動の仕組みを科学的に研究する学問であり行動の科学といわれる。授業では、臨床現場で不可欠といえる認知学習心理学、発達心理学、臨床心理学を学ぶための基礎とするため心理学を概観する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	心理学とは（心理学と自然科学）					心を科学的に扱うための工夫，心理学の対象について調べておくこと（1時間程度）				
2	発達1：遺伝と環境					発達における遺伝と環境の影響について調べておくこと（1時間程度）				
3	発達2：発達の基本的諸相					幼児期・児童期の特徴について調べておくこと（1時間程度）				
4	感覚・知覚・認知					感覚・知覚・認知の対象について調べておくこと（1時間程度）				
5	学習					古典的条件づけ・道具的条件づけについて調べておくこと（1時間程度）				
6	記憶					記憶の過程，短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（1時間程度）				
7	パーソナリティ1：パーソナリティの理論					類型論と特性論について調べておくこと（1時間程度）				
8	パーソナリティ2：パーソナリティの測定方法					パーソナリティ検査について調べておくこと（1時間程度）				
9	欲求と動機					自我防衛機制について事前に調べておいてください（1時間程度）				
10	注意					注意の機能について事前に調べておいてください（1時間程度）				
11	情動・感情					感情の機能について事前に調べておいてください（1時間程度）				
12	対人認知					他者をどのように理解するかについて調べておくこと（1時間程度）				
13	説得					説得への抵抗について調べておくこと（1時間程度）				
14	集団					集団の種類，集団規範について調べておくこと（1時間程度）				
15	日常生活上の問題（外見に関する問題）					ルッキズムについて調べておくこと（1時間程度）				
教科書	特に指定しません。資料は配付します。									
参考文献	特になし。									
備考	毎回レスポンスシートへの回答を求め，次の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-WOM-07				
	●	●		●						
科目名	認知・学習心理学				単位認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	認知心理学とは、知覚、記憶、思考、理解など対象を認識する作用や、学修によって得られた知識に基づく行動のコントロールを含めた認知の過程、生体の情報処理過程を明らかにしようとする学問であり、学習心理学とは経験を通して行動を変容させていく過程を研究する心理学の一領域である。本講義では、学習・記憶・認知について基礎的現象を学び、現象の背後にある原理を学修し、さらには言語聴覚領域との深い関連を学ぶ。									
到達目標	「学習」「記憶」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 「感覚・知覚・認知」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 認知心理学のトピックスについて、日常生活と関連づけて説明できるようになる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 理解できなかったこと、疑問に思ったことがあれば授業中に質問すること。 授業内容について、復習を行い、理解できなかった点を明らかにして次回に質問すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	心理学と認知心理学(心理学の研究対象、認知心理学の成立背景)				認知心理学について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
2	学習(古典的条件づけ、強化と消去、連続強化と部分強化)				古典的条件づけ(オペラント条件づけ)について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
3	学習(道具的条件づけ、強化と弱化、強化プログラム)				道具的条件づけ(レスポナント条件づけ)について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
4	技能学習(運動技能学習、認知技能学習、学習曲線)				運動技能学修について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
5	記憶Ⅰ(記憶過程、記憶の測定法、二重貯蔵モデル)				記憶過程と記憶の種類について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
6	記憶Ⅱ(短期記憶、長期記憶、処理水準、意味記憶)				短期記憶・長期記憶の特徴について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
7	記憶Ⅲ(プライミング、日常記憶)				日常記憶について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
8	感覚・知覚・認知(感覚・知覚・認知の区別、感覚の種類、感覚順応、視感覚の仕組み)				感覚順応について事前に調べ、日常生活で見られる感覚順応現象について発表する準備をしてきてください。(1時間程度)					
9	視知覚Ⅰ(恒常性、対比、形の知覚、特徴抽出、図地分離、群化、錯視)				恒常性について事前に調べ、日常生活で見られる恒常性現象について発表する準備をしてきてください。(1時間程度)					
10	視知覚Ⅱ(奥行き知覚、両眼視差、絵画遠近法、運動知覚、実運動、誘導運動、仮現運動)				奥行き知覚と運動知覚について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
11	パタン認知(遮蔽と補完、鋳型照合モデル、特徴分析モデル、視点非依存アプローチ、視点依存アプローチ)				パタン認知について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
12	注意(選択的注意、処理容量、前注意的過程、注意の特徴)				注意の機能について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
13	心的イメージ(心的イメージの個人差、心的イメージと知覚、心的イメージと心理臨床)				日常生活で見られる心的イメージ現象について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
14	感情・情動Ⅰ(情動の種類、情動の理論)				感情の機能について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
15	感情・情動Ⅱ(表情の表出、表情の認知)				表情について事前に調べておいてください。(1時間程度)					
教科書	指定なし。									
参考文献	『学習心理学への招待』 篠原彰一(著) サイエンス社 『新・知性と感性の心理』 行場次朗・箱田裕司(編著) 福村出版									
備考	毎回レスポンスシートへの回答を求め、次の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-1-LAC-01				
	●	●		●						
科目名	言語学				単位 認定者	小泉 政利		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		宿題レポート	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語学・言語心理学の基礎知識を学ぶ。言語の一般的な特徴の概観から、言語の音、単語、文、意味の分析へと進み、音韻論としての音素、モーラ、音節、アクセント、音韻過程を概観する。形態論では形態素と形態過程、活用、日本語の特徴を学び、さらに統語論では文の構成要素、受身と使役、意味論では単語の意味と文の意味、語用論で話者の意味を学ぶ。さらには世界の言語として言語の系統、言語数、話者数、危機言語を学び、音韻・単語・統語解析及び談話理解を通してコミュニケーションの運用を考察する。									
到達目標	言語聴覚士（になるため）に必要な、言語学、日本語学、言語心理学の基礎知識を身につける。また、その基礎知識を使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる（⇒ メタ言語能力・メタ認知能力の涵養）。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読して予習し、授業終了後はすぐに復習して、毎回の授業内容をその日のうちに確実に身につけるようにしましょう。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス・言語と言語学				教科書第1講～第3講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
2	音声学				問題集セクション1で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
3	音韻論1：音素				教科書第4講～第6講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
4	音韻論2：音節				教科書第7講～第9講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
5	音韻論3：韻律				問題集セクション2で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
6	形態論1：形態素				教科書第10講～第12講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
7	形態論2：接辞				教科書第13講～第15講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
8	形態論3：語形成				問題集セクション3で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
9	統語論1：統語構造				教科書第16講～第18講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
10	統語論2：統語分析				問題集セクション4で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
11	統語論3：統語類型				教科書第19講～第21講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
12	意味論1：命題、モダリティー、ヴォイス				問題集セクション5で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
13	意味論2：テンス、アスペクト				教科書第22講～第24講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
14	意味論3：論理関係				問題集セクション6で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
15	語用論				教科書第25講～第26講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね1時間程度）。					
教科書	教科書：『言語学入門』佐久間淳一他著 研究社 問題集：『言語学基本問題集』佐久間淳一（編） 研究社									
参考文献	『ここから始める言語学プラス統計分析』小泉政利（編著） 共立出版									
備考	課題については採点し、授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-03				
	●	●		●						
科目名	音声学				単位 認定者	東ヶ崎 祐一		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、主に調音音声学の原理及び国際音声字母とそれが表す音とを学んだ上で、音声言語の客観的な観察に習熟することがテーマである。音声学概論・各論について講義形式で学んで行くが、併せて国際音声字母の各単音の発音の訓練をする部分も大きな比重を占める。まず音声学の概論として、言語における音声の位置づけ、音声器官の構造とはたらき、国際音声字母と音声記述の原理について概観する。次に、国際音声字母の体系における記述の原理を学び、かつ、個々の音の調音と聴取の訓練を行う。扱う順序は、○母音（第一次基本母音、第二次基本母音、その他の母音）○肺臓気流子音（破裂音、鼻音、摩擦音、その他の子音）○非肺臓気流子音○超分節音である。最後に、音韻論及び音響音声学との関連について概観する。									
到達目標	音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを理解したうえで、世界の言語音(特に日本語)を対象に「聞き取り・国際音声記号（IPA）を用いた書き取り・発音」が出来るようになる。									
学修者への期待等	授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返し行うこと。2回目以降は手鏡を持参すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス、音声学とは一音声産出・音の物理的性質・音の知覚					【事後】講義内容に沿って復習すること（1時間程度）				
2	音声器官と音声産出のメカニズム					【事後】発音して確認すること（1時間程度）				
3	調音位置と調音方法、国際音声記号					【事後】発音して確認すること（1時間程度）				
4	母音体系、国際音声記号					【事後】講義内容に沿って復習すること（1時間程度）				
5	母音の調音					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
6	母音と補助記号					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
7	子音体系、国際音声記号、子音の調音（1）					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
8	子音体系、国際音声記号、子音の調音（2）					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
9	子音体系、国際音声記号、子音の調音（3）					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
10	子音と補助記号					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
11	音声現象					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
12	音声と音素					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
13	音節・モーラ					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
14	アクセント					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
15	イントネーション					【事後】講義内容に沿って発音練習をすること（1時間程度）				
教科書	『たのしい音声学』 竹内京子・木村琢也著 くろしお出版									
参考文献										
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-05				
	●	●		●						
科目名	音声表記・分析学				単位認定者	小松 有希 東ヶ崎 祐一		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		レポート	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	音声を視覚的にとらえる手段のひとつに、音声分析ソフトによるスペクトログラムがある。本演習では、実際にPCを用いてスペクトログラムを作成、観察し、自身の音声の特徴を分析する。さらに、国際音声記号を用いて○母国語としての日本語話者○日本語学修者○器質性構音障がい○機能性構音障がい症例の発音を記述するトレーニングを通し、臨床現場で活用できる速さと正確さを身につける。									
到達目標	・ 音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。 ・ 分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。									
学修者への期待等	スペクトログラムの作成・観察・分析のため、調音位置・調音方法の復習を行うこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	日本語話者の正常構音① 日本語で用いられる単音節				【事前】国際音声記号を復習しておくこと(40分程度)				小松 有希	
2	日本語話者の正常構音② 複数音節～単語の書き取り				【事後】音源を聞きながら単語まで書き取りの練習をしておくこと(40分程度)				小松 有希	
3	日本語話者の正常構音③ 短文の書き取り				【事後】文章レベルでの書き取りの練習をしておくこと(40分程度)				小松 有希	
4	障害音声の記述・分析について				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)				小松 有希	
5	異常構音について① 器質性構音障害にみられる発話とは				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)				小松 有希	
6	異常構音について② 機能性構音障害にみられる発話とは				【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)				小松 有希	
7	異常構音の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語				【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)				小松 有希	
8	異常構音の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)				小松 有希	
9	構音症状の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語				【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)				小松 有希	
10	構音症状の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文				【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)				小松 有希	
11	音声分析方法の概説・ソフトウェアの基本的操作				【事前】指定のソフトウェアをダウンロード・インストールしておくこと(1時間程度)				東ヶ崎 祐一	
12	音響音声学とは(調音音声学と音響音声学)				【事前】音声学および音響学の知識を確認しておくこと(1時間程度)				東ヶ崎 祐一	
13	各母音の音響的特徴と調音位置・調音方法				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)				東ヶ崎 祐一	
14	各子音の音響的特徴と調音位置・調音方法				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)				東ヶ崎 祐一	
15	連続した音声の分析・考察				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)				東ヶ崎 祐一	
教科書	『口蓋裂の構音障害(Audio CD)』企画・監修：日本音声言語医学会 インテルナ出版 『たのしい音声学』竹内京子・木村琢也著 くろしお出版									
参考文献										
備考	(小松)授業内で不定期に小テストを実施します。小テストは採点后返却をしフィードバックを行います。 11回から15回はパソコンを使用する。各自ノートパソコンを持参すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験5年以上の言語聴覚士が担当する

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LAC-06				
	●	●		●						
科目名	音響学				単位認定者	本田 俊夫 矢入 聡		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数			
授業の概要	音響学とは、音に関する学問であり、音声や聴覚を専門とする言語聴覚士はその学修が必須である。音響学の入門は音を物理的な視点から波として考察することで、基本的な運動法則とエネルギーの保存原理に基づいて理解することが必要である。本講義では、基本的な音波の性質、音の強さの尺度（デシベルの定義）、音のスペクトル、閉管の共鳴を理解する。音響学は聴覚を通して人間そのものと密接に結びつく。本講義では音響学Ⅰの知識をもとに、聴覚フィルタ、マスキング、臨界帯域などの聴覚特性、音の大きさ・高さの知覚としての感曲線、ラウドネス、補充現象、心理的尺度、場所説と時間説、空間知覚についても併せて学んでいく。									
到達目標	波の基本的な特性を理解し、デシベルやスペクトルなど、音響関連の用語が説明できる。音声の特性やサウンドスペクトログラムの基礎を理解した上で、音声进行分析する実践的なスキルを得る。									
学修者への期待等	物理、対数を履修していなかった人、理数系が苦手な人にとって音響学は難しいと感じる科目ですが、音は生活の中に溢れています。事前に「準備学修」で指定された箇所を熟読するとともに、関連する身近な例を意識しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	波の基本的性質 波の基本要素、音速と波長・周波数、縦波・横波					教科書 第1章1節「波の基本的性質」で予習・復習すること（概ね1時間）			本田 俊夫	
2	定常波と共鳴 弦の振動、開管・閉管の共鳴、外耳道、声道への応用					教科書 第1章2節「定常波と共鳴」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
3	倍音と階音、うなり、ドップラー効果					教科書 第1章3節「倍音と階音」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
4	回折・反射・屈折 ホイヘンズの原理					教科書 第1章6節「回折」、7節「反射と屈折」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
5	音圧と音の強さ 音の強さと大きさ、音圧、音圧と音の強さの関係、デシベルの式					教科書 第2章1節「音圧と音の強さ」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
6	デシベルの計算 音圧比とデシベル、対数の計算					教科書 第2章2節「デシベル」、第3節「デシベルの計算」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
7	デシベルの基準値					教科書 第2章4節「デシベルの基準値」、5節「デシベルに関する補足事項」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
8	【遠隔（オンデマンド）】純音の式と音の種類					教科書 第3章1節「純音の式」、2節「音の種類」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
9	【遠隔（オンデマンド）】色々な音のスペクトル					教科書 第3章3節「スペクトルの意味と実例」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
10	【遠隔（オンデマンド）】サウンドスペクトログラム					教科書 第3章4節「スペクトル分解の原理」、6節「サウンドスペクトログラム」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
11	【遠隔（オンデマンド）】音のデジタル化					教科書 第3章7節「音のデジタル化」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
12	【遠隔（オンデマンド）】音の大きさと高さの知覚					教科書 第4章1節「音の大きさの知覚」、2節「音の高さの知覚」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
13	【遠隔（オンデマンド）】マスキングと両耳聴					教科書 第4章3節「マスキング」、4節「両耳聴」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
14	【遠隔（オンデマンド）】母音とフォルマント					教科書 第5章1節「母音の生成の仕組み」、2節「母音とフォルマント」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
15	【遠隔（オンデマンド）】音響分析					教科書 第5章6節「総合分析」、7節「構音障害と音響分析」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
教科書	『言語聴覚士の音響学入門（2訂版）』 吉田友敬著、海文堂									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●		●		ST-1-LAC-07				
科目名	言語発達学				単位 認定者	越中 康治		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士において正常の言語発達の理解は必須であり、臨床場面において対象者の症状を分析する上で必要な知識である。本講義は、発達とは何かの問いから始め、言語発達の概観、言語発達の生物学的・認知的基礎、社会性の発達、子育てとことば、幼児期の言葉の実際、小学校における言葉の問題、言語発達支援についての知識・理解を深める。講義は言語聴覚領域と教育学の立場から展開する。									
到達目標	言語発達の基礎的事項について説明できるようになる。									
学修者への期待等	授業の中で自分の考えを書いたり、他の学生と話し合ったりする機会（グループワークやペアワークなど）を設けますので、これらの活動に積極的に取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	発達とは何か？					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
2	発達心理学の基礎的な理論					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
3	言語発達の理論					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
4	言語発達の概観Ⅰ（胎生期・新生児期の発達）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
5	言語発達の概観Ⅱ（乳児期の発達）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
6	言語発達の概観Ⅲ（幼児期前期の発達）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
7	言語発達の概観Ⅳ（幼児期後期の発達）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
8	言語発達の概観Ⅴ（児童期以降の発達）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
9	言語発達の生物学的・認知的基礎					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
10	言語発達と社会性の発達					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
11	子育てと言葉Ⅰ（新生児期・乳児期）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
12	子育てと言葉Ⅱ（幼児期）					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
13	就学前施設における言葉					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
14	小学校における言葉					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
15	言語発達の支援					本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね 1 時間）。				
教科書	なし									
参考文献	『新・プリマーズ／保育／心理 発達心理学』無藤 隆・中坪史典・西山 修（編）ミネルヴァ書房 2010年									
備考	課題やレポートがある場合は、次の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●			ST-2-LHM-01				
科目名	言語聴覚療法管理学Ⅰ				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	より質の高い言語聴覚療法を提供するため、言語聴覚療法を支えるシステムと制度、保健・医療・福祉に関する制度（医療保険・介護保険制度を含む）を理解するとともに組織運営に関するマネジメントを行う心構えを促し、言語聴覚士の倫理、教育についての理解を深める。									
到達目標	質の高い言語聴覚療法を提供するために必要な職場管理や職業倫理などの基本を理解する									
学修者への 期待等	リハビリテーションを含む医療にかかわるものにとって非常に重要な領域となる。リハビリテーションの諸学者の皆さんには、自分が患者として医療施設で受けた診療経験を思い出し、本講義とリンクして理解を深めてほしい									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	リハビリテーションにおける管理運営とは 適宜グループワークを実施する					リハビリに関わる職種と役割について、 関連テキストを読むこと（30分程度）			渡邊弘人	
2	リハビリテーションを実施する組織の管理運営 適宜グループワークを実施する					リハビリ職がいる施設について、関連テ キストを読むこと（30分程度）			渡邊弘人	
3	社会保障制度、医療保険制度とリハビリテーション 適宜グループワークを実施する					社会保障制度、医療保険制度に関連する テキストを読むこと（30分程度）			渡邊弘人	
4	介護保険制度、その他制度とリハビリテーション 適宜グループワークを実施する					介護保険制度に関連するテキストを読む こと（30分程度）			渡邊弘人	
5	組織のマネジメントについて 適宜グループワークを実施する					第1回講義の資料を読んでおくこと（3 0分程度）			中川大介	
6	医療施設の組織マネジメントについて 適宜グループワークを実施する					第2回の講義資料を読んでおくこと（3 0分程度）			中川大介	
7	介護施設の組織マネジメントについて 適宜グループワークを実施する					第5回、第6回講義の資料を読んでおく こと（30分程度）			中川大介	
8	医療専門職の職業倫理とは 適宜グループワークを実施する					医療倫理に関するテキストを読んでおく こと（30分程度）			中川大介	
教科書	指定なし									
参考文献										
備考	授業内課題は、採点後返却し、フィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-AHB-01				
	●	●		●						
科目名	失語症概論				単位認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記・レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	失語症領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。19世紀後半に端を発する失語症候学の歴史を概観し、現在もなお現場で広く用いられている古典分類の考え方について知識を習得する。失語症の諸症状、失語学の歴史及び新古典分類の各失語症タイプ分類の仕方、症状の特徴、病巣について画像を読み解きながら学ぶ。また、特殊な失語型、純粋例や、失語症の言語治療の原則とその様々な治療方法、さらには失語症の回復と地域とのつながり、失語症友の会活動についても学んでゆく。									
到達目標	失語症の基本的な知識を身に着け、失語症者への理解を深める。併せて国家試験必須事項を理解する									
学修者への期待等	教科書だけではなく、様々な関係図書にあたり学修することを望む									
回	授業計画					準備学修				
1	言語と脳、失語症の定義					教科書第1章失語症の定義、第2章言語と脳 1言語の構造を読んでおくこと (30分程度)				
2	言語の神経学的基盤 (左右の半球と脳梁等)					教科書第2章2ABCDを読んでおくこと (30分程度)				
3	言語の神経学的基盤 (その他の言語関連領域)					教科書第2章2EFを読んでおくこと (30分程度)				
4	失語症の原因疾患					教科書第3章失語症の原因疾患を読んでおくこと (30分程度)				
5	失語症の症状 (話す、聴くを中心に行う) 適宜ディスカッションを行う					教科書第4章該当箇所を読んでおくこと (30分程度)				
6	失語症の症状 (読む、書く、計算を中心に行う) 適宜ディスカッションを行う					教科書第4章該当箇所を読んでおくこと (30分程度)				
7	失語症の症状 (近縁症状、随伴しやすい障害)					教科書第4章失語症の症状 近縁症状、随伴しやすい症状を読んでおくこと (30分程度)				
8	失語症候群 (症候群の成り立ち、ブローカ失語)					教科書第5章失語症候群 症候群の成り立ち、ブローカ失語を読んでおくこと (30分程度)				
9	失語症候群 (ウェルニッケ失語)					教科書第5章失語症候群 ウェルニッケ失語を読んでおくこと (30分程度)				
10	失語症候群 (伝導失語、健忘失語) (適宜グループワーク実施)					教科書第5章失語症候群 伝導失語、健忘失語を読んでおくこと (30分程度)				
11	失語症候群 (超皮質性失語、全失語)					教科書第5章失語症候群 超皮質性失語、全失語を読んでおくこと (30分程度)				
12	失語症候群 (交叉性失語、皮質下性失語) (適宜グループワーク実施)					教科書第5章失語症候群 交叉性失語、皮質下性失語を読んでおくこと (30分程度)				
13	純粋型 (純粋語聾)					教科書第5章失語症候群 純粋語聾を読んでおくこと (30分程度)				
14	純粋型 (発語失行)					教科書第5章失語症候群 発語失行を読んでおくこと (30分程度)				
15	純粋型 (純粋失読)					教科書第5章失語症候群 純粋失読を読んでおくこと (30分程度)				

回	授業計画	準備学修
16	純粹型（純粹失書）	教科書第5章失語症候群 純粹失書を読んでもよくこと（30分程度）
17	純粹型（失読失書、小児失語）（適宜グループワーク実施）	教科書第5章失語症候群失読失書、小児失語を読んでもよくこと（30分程度）
18	原発性進行性失語（適宜グループワーク実施）	教科書第5章 原発性進行性失語を読んでもよくこと（30分程度）
19	失語症の言語療法の全体像（適宜グループワーク実施）	教科書第6章を読んでもよくこと（30分程度）
20	失語症の評価・診断と情報収集（適宜グループワーク実施）	教科書第7章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
21	情報の統合と評価のまとめ、鑑別診断（適宜グループワーク）	教科書第7章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
22	失語症の回復過程（適宜グループワーク）	教科書第8章失語症の回復過程を読んでもよくこと（30分程度）
23	言語治療の基本原則（適宜グループワーク）	教科書第9章言語治療の基本原則を読んでもよくこと（30分程度）
24	言語治療の理論と技法（刺激法、行動変容法等）適宜グループワーク	教科書第9章言語治療の理論と技法の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
25	言語治療の理論と技法（認知神経心理学的アプローチ、社会的アプローチ等）	教科書第9章言語治療の理論と技法の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
26	急性期の評価・訓練・支援（適宜グループワーク）	教科書第10章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
27	機能回復訓練（適宜グループワーク）	教科書第10章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
28	活動・参加訓練（適宜グループワーク）	教科書第10章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
29	生活適応期の訓練・支援、社会復帰、地域活動	教科書第10章の該当箇所を読んでもよくこと（30分程度）
30	失語症研究の歴史（適宜グループワーク）	教科書第11章失語症の歴史を読んでもよくこと
教科書	『標準言語聴覚障害学 失語症学（第3版）』藤田 郁代 編 医学書院 『病気がみえるvol.7 脳・神経（第2版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア	
参考文献		
備考	適宜グループワークを行う。講義内で小テストを適宜行う（講義内課題） 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-LDS-04												
	●	●		●	●													
科目名	脳性麻痺				単位 認定者	櫻庭 千木良	ゆかり あき子	評価 の方法	試験(筆記)	70	%							
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20	%							
						授業時間数	15 時間		受講態度	10	%							
				授業形態	講義	授業回数	8 回											
授業の概要	脳性麻痺は運動障害と発達の問題を包含している。本講義では、多様で複雑な障害像を呈する脳性麻痺を理解するために、原始反射・姿勢反応と運動発達との関連などを学修し、言語発達の問題や構音障害をはじめとする言語障害へのアプローチ、及び摂食嚥下障害に対するアプローチについて学ぶ。さらに、口腔ケア、脳画像による評価、喀痰の吸引についても学ぶ。生涯にわたって変化していく障害像に対し、ライフステージに応じた対応や多職種でのアプローチについて紹介し、言語聴覚士としての支援について考える機会とする。																	
到達目標	正常発達を理解したうえで、脳性麻痺の臨床像について説明できるようになる。 健常児と脳性麻痺児の運動の違いを理解し、各類型の姿勢と運動の特徴を説明できるようになる。 障害児(者)の摂食嚥下機能障害に対する評価及び発達療法的対応の基礎知識を習得する。 対象児(者)の生活における困難さを理解し、言語聴覚士としてどんな支援ができるのか考え、表現できるようにする。																	
学修者への期待等	障害児(者)にかかわる言語聴覚士について理解する。																	
回	授業計画					準備学修			担当									
1	脳性麻痺とは① 定義、原因と臨床像					配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			櫻庭 ゆかり									
2	脳性麻痺の臨床的病型① 痙直型・アテトーゼ型 適宜グループワークを行う					配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			櫻庭 ゆかり									
3	脳性麻痺の臨床的病型② 低緊張型・失調型・混合型 適宜グループワークを行う					配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			櫻庭 ゆかり									
4	心身障害児(者)と家族に寄り添う視点					ディスカッション・発表の機会に積極的に取り組んでください。			千木良 あき子									
5	中途障害と心身障害児(者)の違い：形態発育と機能発達、加齢・疾病と機能低下、脳性麻痺の形態発育(口腔)の問題、映像をもとにディスカッションを行う					グループワークに積極的に取り組んでください。			千木良 あき子									
6	摂食嚥下機能の定型発達と発達段階評価：昼食時の演習を通し、障害児(者)の食事を体験する					提示した資料を確認してください(15分程度)。			千木良 あき子									
7	代表的症例(脳性麻痺、知的能力障害、経管依存症、自閉症スペクトラム症)					教科書等を活用し症例について予習してください(30分程度)。			千木良 あき子									
8	脳性麻痺における口腔ケアの重要性と対応の基本、チームアプローチ					口腔ケア、チームアプローチについて調べてください(15分程度)。			千木良 あき子									
教科書	『赤ちゃんが自分で食べていくためのサポートガイド 摂食機能発達のための口・手・こころの育て方』向井美恵、千木良あき子、田村文誉(編著) 医歯薬出版																	
参考文献	『食べる機能の障害』金子芳洋(編)金子芳洋、向井美恵、尾本和彦(著) 医歯薬出版 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』田角勝、向井美恵(編著) 医歯薬出版																	
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。																	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
歯科医師(千木良)と言語聴覚士(櫻庭)として臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-2-LDS-05				
	●	●		●	●					
科目名	学習障害・発達障害				単位 認定者	小松 有希 須賀川 芳夫		評価の 方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、学習障害・発達障害の歴史的背景、診断基準、支援の基本的な考え方を学修する。主に発達障害についての概観、知的発達障害・自閉性障害・学習障害・読み書き障害、算数障害、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)について取り上げ、それぞれの障害について理解を深める。また、臨床に必要な幼児の発達の基礎、言葉の育ちについて学び、幼児支援に対するアセスメントについて講義を通して学び、支援方法を身につける。									
到達目標	学習障害及び発達障害の定義や特性、支援の方法について理解を深める。									
学修者への期待等	講義内で学んだ発達障害・学習障害について基本的な内容を理解し説明することができるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	発達障害の概念・定義								須賀川 芳夫	
2	知的発達障害の診断基準と支援/ダウン症とウィリアムス症候群					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
3	自閉スペクトラム症の基本症状					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
4	自閉スペクトラム症当事者の声 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
5	心の理論について 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
6	自閉スペクトラム症の概念と変遷 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
7	学習障害の定義と下位分類					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
8	読み書きの困難、心理的疑似体験					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
9	読み書きの困難の評価					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
10	読み書きの困難への対応・支援					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
11	算数障害のサブタイプと支援					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫	
12	自閉スペクトラム症児への支援 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
13	ADHDの症状と二次障害 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
14	ADHDの基本的な対応 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
15	幼児の育ち、言葉の育ちに必要なもの・幼児支援のアセスメント 適宜グループワークを行う					授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			小松 有希	
教科書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(最新版)』深浦 順一 / 藤野 博 / 石坂 郁代編 医学書院									
参考文献	参考書：『健診とことばの相談』中川信子(著)ぶどう社 『教師のため合理的配慮の基礎知識』西村修一・久田信行(著)明治図書									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-03				
	●	●								
科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	演習 <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	運動障害性構音障害とは神経系の病変による、発声発語器官の運動障害によって引き起こされる発声発語の障害で、発話は、複雑、微細、敏速な、極めてレベルの高い巧緻動作であり自動的、無意識的な運動である。また発声発語器官の構造が複雑で、その運動が目には見えず、感覚-運動系の連携のみにより成り立つという特徴をもつ。本講義では、運動障害性構音障害のタイプ分類の特徴を、脳の障害部位と関連付けて学ぶ。									
到達目標	神経系の障害に起因する運動障害性構音障害の原因と特徴を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	理解と記憶は一度だけではなく、繰り返し行うことを望む。また毎回、クラスメートとの確認作業を行う。知識の整理と発展、さらには患者様へ説明を行うためのトレーニングを兼ねるので、真剣に参加してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 運動障害性構音障害とは					教科書137ページから139ページまでを読んでおくこと。(40分程度)				
2	発声発語と神経・筋系の仕組み1 神経					教科書27ページから33ページまでを読んでおくこと。(40分程度)				
3	発声発語と神経・筋系の仕組み1 呼吸コントロールの生理					教科書2ページから6ページまでを読んでおくこと。(40分程度)				
4	発声発語と神経・筋系の仕組み2 発声器官の解剖					教科書11ページから18ページまでを読んでおくこと。(40分程度)				
5	発声発語と神経・筋系の仕組み3 発声のメカニズムと調整					教科書5ページから10ページまでと40ページを読んでおくこと。(40分程度)				
6	原因疾患と発話の特徴1 発話症状					教科書140ページから143ページまでを読んでおくこと。(40分程度)				
7	発声発語器官と神経制御の役割					教科書34ページから38ページを読んでおくこと。(40分程度)				
8	神経疾患1 脳血管障害、脳腫瘍、外傷					教科書177ページから178ページを読んでおくこと。(40分程度)				
9	神経疾患2 神経変性疾患					178ページの2) から182ページのbの上までを読んでおくこと。(40分程度)				
10	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 1. 痙攣性構音障害 適宜グループワークを行う					141ページの①②を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
11	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 2. 弛緩性構音障害 適宜グループワークを行う					141ページの③を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
12	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 3. 失調性構音障害 適宜グループワークを行う					141ページの④を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
13	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 4. 運動低下性構音障害 適宜グループワークを行う					142ページの⑤を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
14	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 5. 運動低下性構音障害 適宜グループワークを行う					142ページの⑥を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
15	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 6. 混合性構音障害 適宜グループワークを行う					142ページの⑦を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと (40分程度)				
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学(最新版)』城本修/原由紀編 医学書院 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』廣瀬肇/柴田貞雄/白坂康俊著 医歯薬出版									
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経(第2版)』医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
備考	適宜、資料を配布するので、ファイリングしておくこと。課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。□									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDS-05				
	●	●		●	●					
科目名	摂食嚥下障害Ⅰ				単位 認定者	江畑 綾		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	摂食嚥下障害の理解を深めるため、健常者の正常嚥下の流れを把握し、嚥下障害患者と比較してどこに違いが生じるのか、どうしてそのような運動、症状になるかについて深く考察していく。嚥下障害が引き起こす病態について理解するとともに、機能的・器質的な症状について把握するため、言語聴覚士が行うことのできる検査など演習を通じて評価の目的と概要について学んでいく。嚥下造影検査の読影、内視鏡検査の評価その他、他職種が実施する検査についても理解を広げ、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチの基礎について学ぶ。									
到達目標	・成人領域における摂食嚥下のメカニズム、病態を理解する。 ・摂食嚥下障害の評価方法を習得し、問題点を抽出することができる。									
学修者への 期待等	・成人嚥下において、正しい知識に基づき評価を行うことができる。 ・言語聴覚士として他職種へ情報提供を行うことができ、コミュニケーションが図れる。									
回	授業計画					準備学修				
1	成人領域に対する言語聴覚士の摂食嚥下リハビリテーション。摂食嚥下機能に関わる器官の解剖①					教科書P15～24を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
2	嚥下機能の解剖② (嚥下5期モデルに関わる筋の構成とその機能)					教科書P15～24を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
3	嚥下機能の生理・神経機構 (嚥下5期モデルに関わる神経機構とその機能)					教科書P15～24を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
4	嚥下運動のメカニズム (嚥下反射のメカニズム、嚥下と呼吸の関係)					教科書P10～14を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
5	嚥下障害の症状と原因(摂食嚥下障害を引き起こす疾患とその症状・嚥下障害の2次的問題)					教科書P67～86を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
6	各期での嚥下障害の症状 (嚥下5期モデルにおける嚥下障害の症状と問題)					【事後】講義内容を復習すること (1時間程)				
7	嚥下障害の評価①(評価とは。観察評価の視点。問診/EAT-10、聖隷式嚥下質問紙)					教科書P189～191を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
8	嚥下障害の評価②(実技演習) (嚥下機能に関わる諸器官・機能の評価)					教科書P198～196を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
9	嚥下障害の評価③ スクリーニング評価(実技演習) (RSS T・改定水飲み検査・頸部聴診法)					教科書P191～194を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
10	嚥下障害の評価④(実技演習、グループワーク) (フードテスト、食事場面観察、記録練習など)					【事後】講義内容を復習すること (1時間程)				
11	嚥下障害の評価⑤ (嚥下機能検査/嚥下造影検査)					教科書P203～208を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
12	嚥下障害の評価⑥・グループワーク (嚥下機能検査/嚥下造影検査)					教科書P203～208を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
13	嚥下障害の評価⑦ (嚥下機能検査/嚥下内視鏡検査)					教科書P208～211を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
14	嚥下障害の評価⑧・グループワーク (嚥下機能検査/嚥下造影検査、その他の検査)					教科書P203～217を事前に予習すること。(30分程) 講義内容を復習すること (30分程)				
15	評価のまとめ・検査結果から導出される問題点					【事後】講義内容を復習すること (1時間程)				
教科書	『標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学』 藤田郁代 監修 椎名英貴編著 医学書院									
参考文献										
備考	適時小テストを行います。採点后フィードバックを行い返却します。 授業内容は状況に応じて変更する場合があります。適宜グループディスカッションを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-01				
	●	●		●	●					
科目名	成人・小児の聴覚障害				単位認定者	渡邊 弘人 坂本 幸		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	多様かつ複雑な状況に置かれている聴覚障害児・者及び平衡機能障害者の個々の場合に適切に対応するために必要な知識と技術について学ぶ。特に、近年の極早期の全人的発達支援を目指す乳幼児への対応について多面的に考察する。また、聴覚障害人口の大きな割合を占めながら、その潜在的ニーズに応え切れていない高齢者への対応の必要性についても検討する。聴覚障害者の心理や認知の特性について学び、障害特性及び個々人の実態に適合した対応の方法について考え、発達段階に応じて変化する認知的・心理的特性との関連を学んでいく。									
到達目標	聴覚障害児・者の個々の場合に適切に対応できるよう、知識と技術について学ぶ。特に、全人的発達支援を目指す乳幼児への対応、難聴者・中途失聴者の抱える課題、高齢者への対応も検討する。									
学修者への期待等	聴覚障害は複雑な障害である。内容を深く理解するためには、準備学修を行った上で各回の講義に臨むと効率的に理解できるであろう。自ら学び取って行く姿勢を期待したい。									
回	授業計画					準備学修		担当		
1	聴覚障害とは何か。 適宜グループワークを行う					テキストP7～10まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
2	聴覚の機能 聞こえとことば(聴覚の発達) 適宜グループワークを行う					テキストP2～6まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
3	聴覚リハビリテーションの歴史と現状、課題 適宜グループワークを行う					テキストP14～19まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
4	聴覚障害のリハビリテーションの概要 適宜グループワークを行う					テキストP19～25まで事前に読むこと(60分)		渡邊 弘人		
5	聴覚障害評価の概要(聴覚検査を含む) 適宜グループワークを行う					テキストP70～75まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
6	成人聴覚障害の特徴 適宜グループワークを行う					テキストP282～289まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
7	成人聴覚障害のコミュニケーション障害の改善 適宜グループワークを行う					テキストP290～298まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
8	成人聴覚障害の発症時期別の対応 適宜グループワークを行う					テキストP298～307まで事前に読むこと(30分)		渡邊 弘人		
9	前言語期からの標準的発達の様相と聴覚障害の影響。 聴覚障害が前提となる発達支援とは(適宜質疑を行う)					Text p.246-251 を読んで疑問点をメモしておく(30分)		坂本 幸		
10	乳幼児の全発達の見地から、聴覚障害乳児の持つ課題とその対応、支援上生じる問題について、具体的に考える					Text p.252-279、280-294を通読。聴覚障害児の“課題と支援”を概観する		坂本 幸		
11	前言語～言語初期の伝達の内容・相手・行動の発達と伝達手段との関わり、及び手指メディアについて考える					Text p.294-312を読み、概略を押さえ、疑問点をメモしてみる(適宜質疑)		坂本 幸		
12	聴覚障害の程度・特性と月年齢に見合う諸伝達手段を概観し、場面による選択と組み合わせについて考える					Text p.312～324を事前に通読、聴覚障害への対応上の問題と揺らぎを知る		坂本 幸		
13	幼児後期のコミュニケーションや言語への意欲や興味を育てる遊び・活動について具体的に考えてみる。					自律学習と課題学修について、ことばの発達を例に比較検討してみる(30分)		坂本 幸		
14	書記言語学習に必要な諸能力……一次ことば、音韻体系の概念、心の理論、論理性、文法をどう育てるか					口頭と文字による伝達をグループで比較体験してまとめる(30分)(適宜討論)		坂本 幸		
15	自力で教科学習を進める場合に必要となる技能や、必要な支援をどこでどのように求めるかについて考える					自分自身の学習の進め方について方法を検討してみよう(30分)		坂本 幸		
教科書	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』 藤田郁代(編) 医学書院									
参考文献	『言語聴覚士のための聴覚障害学』 喜多村健(編) 医歯薬出版									
備考	(渡邊)授業内課題は、採点後返却し、フィードバックを行う (坂本)学習すべき内容に比べて授業時間があまり多くないので、積極的な質問・討論を期待しています									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

小児聴覚障害児への直接的支援を30年以上行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-03					
	●	●		●							
科目名	聴力検査Ⅰ				単位認定者	渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %	
						授業時間数	15 時間				
					授業形態	演習	授業回数		8 回		
授業の概要	音声言語の入力経路＝聴覚機能に関する検査について、各種の聴力検査の概要とその目的について知る。聴覚検査の基本である純音・語音聴力検査の実技を、各種の聴覚検査の方法・機能・診断的意義の概要、留意点と問題点の講述、検査デモンストレーションを含めて学ぶ。										
到達目標	言語聴覚士が行う聴力検査の概要・目的・実施手順について理解する。										
学修者への期待等	聴力検査を理解するためには、聴覚系の解剖・生理の理解が求められるため、「聴覚系の機能・構造・病態」の講義内で行った内容を復習しておくこと。										
回	授業計画					準備学修					
1	聴覚検査総論 自覚的検査と他覚的検査					テキスト第1部「聴覚検査の予備知識」を予習・復習すること（1時間）。					
2	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査① 原理と目的 適宜グループワークを実施する					テキスト第Ⅱ部内、「1、純音聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。					
3	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査② オーディオメータの各種機能 適宜グループワークを実施する					テキスト第Ⅱ部内、「1、純音聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。					
4	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査③ 実施手順と 注意点 適宜グループワークを実施する					テキスト第Ⅱ部内、「1、純音聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。					
5	聴覚マスキング 聴力検査用マスキング音の種類と 特性 適宜グループワークを実施する					「1、純音聴力検査」内、「D、マスキング」を予習・復習すること（1時間）。					
6	聴覚検査演習①：純音聴力検査（気導聴力検査） 適宜グループワークを実施する					「1、純音聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。					
7	聴覚検査演習②：純音聴力検査（骨導聴力検査） 適宜グループワークを実施する					「1、純音聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。					
8	聴覚検査演習③：オーディオグラムへの記録方法 検査 結果の解釈 適宜グループワークを実施する					「1、純音聴力検査」内、記録方法について予習・復習すること（1時間）。					
教科書	『聴覚検査の実際（最新版）』 日本聴覚医学会(編) 南山堂										
参考文献	『基本的聴覚検査マニュアル（改訂3版）』 服部浩 金芳堂										
備考	聴覚演習室で講義・演習を行う予定である。授業内課題は、採点した後に返却してフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験10年以上の言語聴覚士が担当する

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-HDS-05										
	●	●		●												
科目名	視覚聴覚二重障害・重複障害				単位 認定者	三科 聡子		試験 (筆記試験)	70 %							
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %						
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %						
				授業形態	講義	授業回数	15 回									
授業の概要	視覚聴覚二重障害及び重複障害の生理・心理・教育についての基本を理解し、その障害特性を踏まえた支援の方法についての基本的視点を習得する。視覚聴覚二重障害や重複障害を有する人への対応（療育・教育）や支援の方法と実際を学ぶ。これらの障害についての生理・心理面における基本的知識、及び教育（療育）的対応における基本事項を理解する。さらに近年の支援状況や今後の課題についても学修する。臨床像を踏まえて、具体的な行動観察、評価の視点、コミュニケーション支援、重度・重複障害者の探索活動の促進への対応を学ぶ。															
到達目標	視覚聴覚二重障害及び重複障害の特性や困難を理解し、説明をすることができる。 臨床の現場では、視覚聴覚二重障害及び重複障害を有する児・者の個々の困難を障害特性との関連から評価・説明ができ、初期対応（療育・教育）ができる。															
学修者への期待等	授業内で配布する資料等を熟読し、不明な点がある場合には、授業の際に質問をするなど解決してください。															
回	授業計画					準備学修										
1	視覚聴覚二重障害の定義															
2	視覚聴覚障害の原因とニーズ					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
3	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（コミュニケーション）					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
4	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（概念形成）					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
5	後天性視覚聴覚二重障害がもたらす生活上の困難（コミュニケーション）					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
6	後天性視覚聴覚二重障害がもたらす生活上の困難（社会参加）					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
7	視覚聴覚二重障害者への教育に関する近年の状況（グループワーク）					前回までの授業の内容を再確認すること（40分程度）										
8	視覚聴覚二重障害者への支援に関する近年の状況（グループワーク）					前回の授業の内容を再確認すること（40分程度）										
9	重度・重複障害の定義					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
10	重度・重複障害の原因と臨床像					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
11	重度・重複障害の評価の視点					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
12	重度・重複障害のコミュニケーション支援					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
13	重度・重複障害の感覚機能の評価と対応					事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）										
14	重度・重複障害者の探索活動の促進（グループワーク）					前回までの授業の内容を再確認すること（40分程度）										
15	重度・重複障害者の支援に関する近年の状況（グループワーク）					前回の授業の内容を再確認すること（40分程度）										
教科書	特に指定はしません。適宜、資料等を配布します。															
参考文献	①『重度・重複障害児の教育 盲ろう児の指導実践に学ぶ』 志村太喜彌 コレール社 1989年 ②『盲ろう者への通訳・介助 光と音を伝えるための方法と技術』 全国盲ろう者協会（編） 読書工房 2008年															
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。															

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

視覚聴覚二重障害児・者及び重度重複障害児・者への教育的な指導及び情報保障を担う通訳・介助員として35年以上携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLH-01				
	●	●		●	●					
科目名	地域言語聴覚療法学Ⅰ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	現在、国は「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」など複数の医療・福祉サービスが連携することで、誰もが安心して自立した暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。このようななか言語聴覚士は地域社会でその人らしい生活ができるよう生活機能の維持・向上を目指し、専門的知識と技術をもって関連職種や地域住民と連携することが求められている。本講義では地域リハビリテーションの社会的背景と意義について学修し、地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度、地域における連携と展開について学ぶ。									
到達目標	地域リハビリテーションの基本を知り、地域リハビリテーションにおける言語聴覚療法と言語聴覚士の役割を学ぶ									
学修者への 期待等	地域リハビリテーションは、在宅生活を送る患者・利用者にとって大変重要である。リハビリテーションの概念を意識し、当事者意識をもって広義に臨んでもらいたい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	地域リハビリテーションの社会的背景と概念、意義、歴史				テキストP2～6を読んでもくこと (1時間程度)				櫻庭 ゆかり	
2	我が国における社会保障制度の変遷				テキストP6～12を読んでもくこと (1時間程度)				櫻庭 ゆかり	
3	地域言語聴覚療法とは 言語聴覚士の役割と地域言語聴覚療法の実際				テキストP14～19を読んでもくこと (1時間程度)				櫻庭 ゆかり	
4	地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度 適宜グループワークを実施する				テキストP19～35を読んでもくこと (1時間程度)				櫻庭 ゆかり	
5	地域における連携 関連職種と言語聴覚士の役割 適宜グループワークを実施する				テキストP35～39を読んでもくこと (1時間程度)				渡邊弘人	
6	地域言語聴覚療法の展開 適宜グループワークを実施する				テキストP39～62を読んでもくこと (1時間程度)				渡邊弘人	
7	地域言語聴覚療法におけるサービス (1) 地域包括 ケア・介護予防 適宜グループワークを実施する				テキストP62～77を読んでもくこと (1時間程度)				渡邊弘人	
8	地域言語聴覚療法におけるサービス (2) 通所・ 入所・在宅 適宜グループワークを実施する				テキストP77～94を読んでもくこと (1時間程度)				渡邊弘人	
教科書	『地域言語聴覚療法学』 編集 半田理恵子 藤田 郁代 医学書院									
参考文献										
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験10年以上の言語聴覚士が担当する

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLT-01				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 小松 有希 江畑 綾		評価 の方法	実習先の評価： 知識・人物・適 性	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		学内の評価： 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、臨床の見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後には実習報告書の作成と報告会を行って、実習を振り返るとともにそれぞれの体験を分かち合う。さらには個人面談において、臨床実習指導者からのフィードバックを行いながら自らの今後の課題と目標を明確にする。									
到達目標	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画										
1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 9月4週～10月1週の間で1週 2. 実習の目的 学内においては、グループワークを通じて、医療従事者としてふさわしい礼節や態度などについて考え、自然にできるよう身に付ける。実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3. 実習の目標（ねらい） 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 4. 実習計画 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。										
教科書	適宜紹介する。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

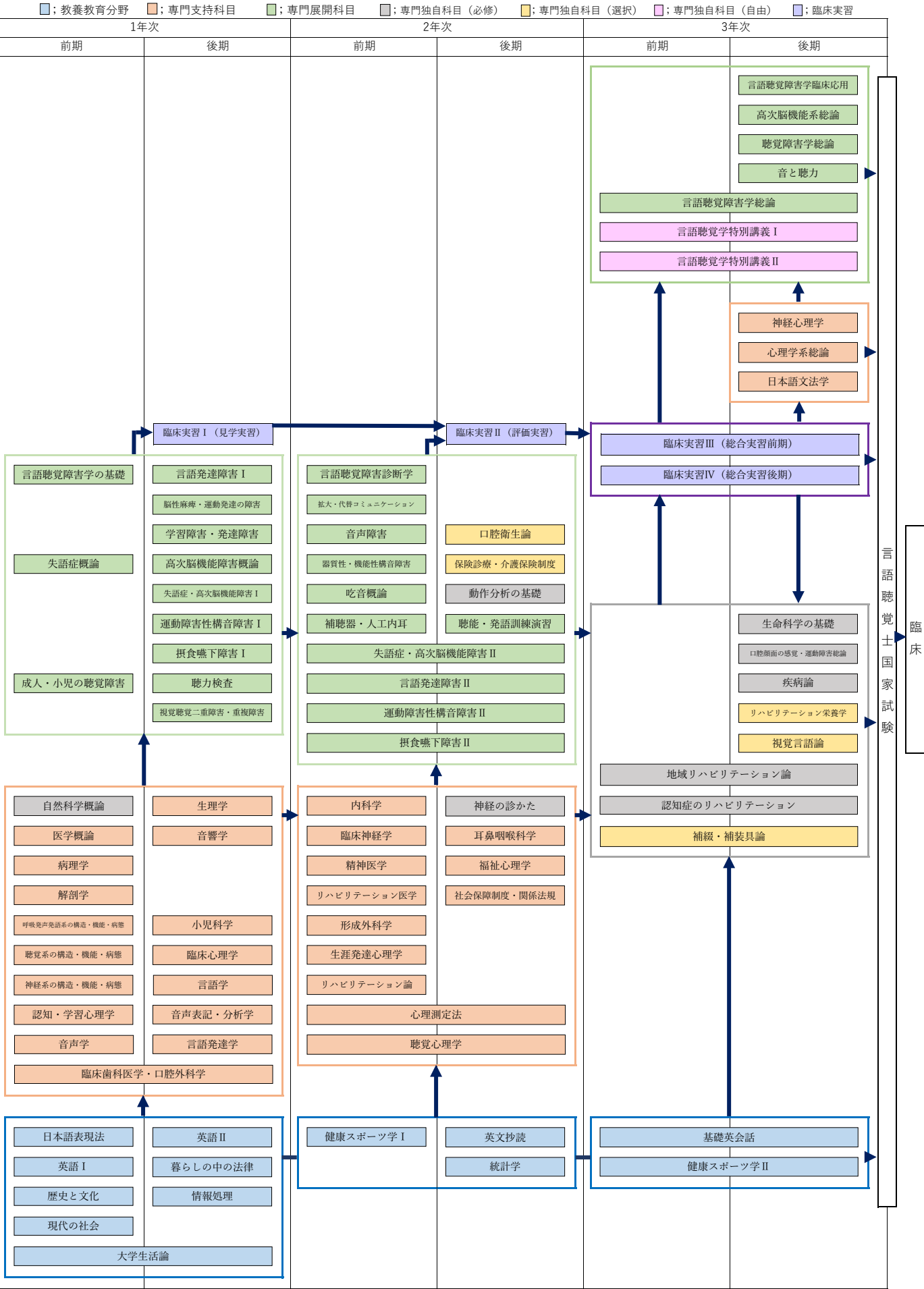
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-07					
	●	●		●							
科目名	言語聴覚障害学の基礎					単位認定者	渡邊 弘人 小松 有希		評価の方法	試験	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位	授業内課題等		15 %	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	受講態度		15 %	
						授業回数	15 回				
授業の概要	医療・教育・福祉の分野に広くかかわる言語聴覚障害について、成人領域、小児領域、聴覚障害領域で大きく分類し、それぞれの特徴と言語聴覚士の専門性について学ぶ。さらに本講義は学生による専門領域別概要レポートの発表を重視することで、自ら調べ考察する姿勢を育成し、主体的な判断と行動する能力を育む基礎とする。										
到達目標	言語聴覚士の全体像を俯瞰することを目的とする。これから3年間で学ぶ領域について知り、3年後に受ける国家試験の内容・難易度を知る。										
学修者への期待等	授業は各グループ（1グループ6～7名）ごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、授業開始時に発表する。グループメンバー内で担当領域についてしっかりと話し合い、協力して進めることを期待したい。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	言語聴覚士の役割について					クリア言語聴覚障害総論の第1・2章を予習・復習すること(1時間)				渡邊 弘人	
2	言語聴覚士の仕事(グループ発表とディスカッション)					クリア言語聴覚障害総論の第1・2章を予習・復習すること(1時間)				渡邊 弘人	
3	言語聴覚障害入門(グループ発表とディスカッション)					クリア言語聴覚障害総論の第1・2章を予習・復習すること(1時間)				渡邊 弘人	
4	聴覚医学総論(グループ発表と担当グループ発表)					言語聴覚士テキスト P319～348を読むこと(3時間)				渡邊 弘人	
5	補聴器・人工聴覚器(グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト P319～348を読むこと(3時間)				渡邊 弘人	
6	成人と小児の構音障害(グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキストP377～395 P404～419を読むこと(3時間)				渡邊 弘人	
7	摂食嚥下障害(グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキストP404～419を読むこと(3時間)				渡邊 弘人	
8	言語発達学 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)P219～224を読んでおくこと(1時間)				小松 有希	
9	言語発達障害 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)P292～317を読んでおくこと(1時間)				小松 有希	
10	聴覚障害・吃音 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)P349～362 P396～403を読んでおくこと(2時間)				小松 有希	
11	失語・高次脳機能系 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)P349～362 P396～403を読んでおくこと(3時間)				小松 有希	
12	音声障害(グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)P366～376を読んでおくこと(3時間)				小松 有希	
13	基礎医学系 解剖・生理学 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)のp8-34を読んでおくこと(2時間)				小松 有希	
14	臨床医学① 耳鼻咽喉科学 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)のp86-102を読んでおくこと(2時間)				小松 有希	
15	臨床医学② 臨床医学 (グループ発表とディスカッション)					言語聴覚士テキスト(最新版)のp103-122を読んでおくこと(2時間)				小松 有希	
教科書	クリア言語聴覚療法1 言語聴覚障害総論 内山 量史 鈴木 真生(編著) 建帛社 『言語聴覚士テキスト(第4版)』大森孝一他 編著 医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版										
参考文献	『明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断』大塚裕一 医学と看護社										
備考	授業は各グループ(1グループ6～7名)ごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、授業開始時に決める。グループ発表をもとにしたレポート作成、小テストを実施する。 小テストは採点したのちに返却して、フィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。



言語聴覚学科 2年生

(2024年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 健康診断	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日
5月	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
7月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14 海の日	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28 定期試験	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2
8月	3	4 追試験	5 追試験	6	7	8	9
	10	11 山の日	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21 不合格者発表	22	23
	24	25	26	27	28 再試験	29 再試験	30
	31	1	2	3	4	5	6
9月	8	8	9	10	11	12	13
	15	15 敬老の日	16	17	18	19	20
	22	22	23 秋分の日	24	25	26	27
	29	29	30				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 臨床次週Ⅰ	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 スポーツの日	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3 文化の日	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26	27	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1 元旦	2	3
1月	4	5	6	7 定期試験	8 定期試験	9 定期試験	10
	11	12 成人の日	13 定期試験	14 定期試験	15 追試験	16 追試験	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28 臨床実習Ⅱ	29 臨床実習Ⅱ	30 臨床実習Ⅱ	31
2月	1	2 臨床実習Ⅱ	3 臨床実習Ⅱ	4 臨床実習Ⅱ	5 臨床実習Ⅱ	6 臨床実習Ⅱ	7
	8	9 臨床実習Ⅱ	10 臨床実習Ⅱ	11 建国記念日	12 臨床実習Ⅱ	13 臨床実習Ⅱ	14
	15	16 臨床実習Ⅱ	17 臨床実習Ⅱ	18 臨床実習Ⅱ	19	20	21
	22	23 天皇誕生日	24	25 不合格者発表	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10 再試験	11 再試験	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HCU-02				
		●		●						
科目名	英文抄読				単位 認定者	江畑 綾		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚療法の臨床や、研究・研鑽の場面で、英語文献が必要になることがある。本科目では、「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」を基礎として、言語聴覚領域の英語論文を読解する能力を身につける。英文に親しむため、前半では健康や医療、身体に関する短文を翻訳する。後半において論文に取り組み、専門用語や論文独特の言い回しを学ぶ。									
到達目標	言語聴覚療法に関連する英語文献の抄録を読むことに慣れる。 専門用語、文法を理解し、要約できる。									
学修者への期待等	英語文献を読むことに興味をもち、英文を読むことに慣れることを期待します。また、それに対して価値を見いだしてもらいたい。グループワークでは、積極的に発言して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	英文抄読の導入；研究論文とは					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
2	課題の単語、文法、イディオムなど(biology)					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
3	課題のreading(biology)					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
4	課題の単語、文法、イディオムなど（viruses ）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
5	課題のreading（viruses）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
6	課題の単語、文法、イディオムなど （simultaneous perception）グループワーク					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
7	課題のreading（simultaneous perception （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
8	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法、イ ディオムなど 聴覚障害 （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
9	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読 聴覚障害 （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
10	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法、イ ディオムなど 嚥下障害 （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
11	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読 嚥下障害 （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
12	言語聴覚療法に関連する英語文献の単語、文法、イ ディオムなど 高次脳機能障害（グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
13	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読 高次脳機能障害 （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
14	読解した文献についてディスカッション （グループワーク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
15	まとめ 単語、文法などの復習 （グループワー ク）					【事後】講義内容を復習すること（1時間）				
教科書	なし									
参考文献	TED-ed, japantoday.comなどネット上の英語記事									
備考	英和辞書を用意すること。課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HSC-01				
		●		●						
科目名	統計学				単位認定者	鈴木 寿則		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	統計学とは、ばらつきのあるデータから、数値上の性質や規則性あるいは不規則性を見いだす学問である。具体的には訓練の効果の有無や、より良いトレーニング法の開発等に用いることができる。研究論文を正確に解釈し、自分の研究の信頼性・妥当性を高めるためにも、統計を理解し、操作できることは大変重要である。本講義では、初歩的な処理として、平均、偏差、標準偏差、度数、分散、相関、回帰などについて学ぶ。									
到達目標	1. 医学系研究に必要な統計学の概要を説明できる。 2. 統計学専視点から研究論文を読み、クリティカルレビューを行うことができる。									
学修者への期待等	授業で取り上げた内容は、その授業の中で理解できるよう集中し、分からない箇所等は質問してください。 また、授業後は各自、ノート等を整理、追加記入をし、復習に重点を置いてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、研究のプロセス				教科書第1章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
2	データの収集・分析方法の決定				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第1章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
3	変数の概要（独立変数・従属変数の考え方）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
4	変数の測定（名義・順序・間隔・比率尺度）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
5	測定値の水準、測定の妥当性・信頼性				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
6	調査の計画と進め方（1）（全数調査と標本調査）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
7	調査の計画と進め方（2）（有意抽出と無作為抽出）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
8	調査の計画と進め方（3）（バイアスの制御）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
9	実験計画の考え方、分散分析				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第4章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
10	1変数の分析（1）（度数分布表の作成）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
11	1変数の分析（2）（平均値、中央値、最頻値）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
12	1変数の分析（3）（分散と標準偏差、面積変換）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
13	2変数の分析（1）（クロス表の集計）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
14	2変数の分析（2）（相関関係、回帰分析）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第6章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
15	分析結果の一般化（統計的仮説の立証）				前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第6章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。					
教科書	『実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方』古野谷亘・長田久雄（ワールドプランニング, 1992）									
参考文献										
備考	課題等を出した場合のフィードバックはメールによって行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-0-HSC-02				
	●	●								
科目名	健康スポーツ学Ⅰ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚士が担当する構音や嚥下は運動である。対象者により良い訓練を提供するためには、運動とは何かを理解している必要がある。本講義では、運動の根本である筋活動からとらえ、筋収縮のメカニズムを、神経、筋組成、呼吸、血液循環及びエネルギー産生の側面から理解する。さらには運動によって身体にどのような変化が生じるのか、運動前と運動後で起きる現象は何かなど、「解剖学」・「生理学」を復習しながらその現象と仕組みについての基本を理解する。									
到達目標	運動を、感覚・神経及び生理学的な側面から説明できる。									
学修者への期待等	学習には、他者への説明や実験的な要素が含まれる。積極的に参加してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	恒常性とスポーツ 神経系と内分泌					教科書の目次に目を通してくること				
2	細胞外液と恒常性 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること。(概ね30分程度)				
3	スポーツ生理学の科学的基礎 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
4	脂質とタンパク質 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
5	ATP合成① 3つのしくみとミトコンドリア グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
6	ATP合成② 合成速度と合成量 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
7	骨格筋の構造と働き① 筋原線維と運動 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
8	骨格筋の構造と働き ② 持久性の高さとATPのつくりかた。筋膜と腱 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
9	呼吸器系とスポーツ 呼吸器の構造 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
10	呼吸器の働き グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
11	循環器系とスポーツ グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
12	心臓と血管の構造 グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
13	心臓と運動トレーニング グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
14	内分泌系とは グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
15	内分泌系と運動トレーニング グループワークを含む					教科書の該当箇所に目をとおしてくること(概ね30分程度)				
教科書	『1から学ぶスポーツ生理学(第3版)』 中里 浩一 ナップ									
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経(第2版)』医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果						科目ナンバリング											
1 基礎力						2 実践力		3 人間関係力		4 生涯学習力		5 地域理解力		ST-1-CLM-01			
						●				●							
科目名		内科学					単位 認定者		鈴木 裕一			評価 の方法	授業内課題 (小テスト)		100 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科		必修		2 年		開講時期		前期		単位数		1 単位				
											授業時間数		30 時間				
							授業形態		講義		授業回数		15 回				
授業の概要		内科学は人体の臓器を対象に、手術をしない方法で診療を行う医学の一分野である。本講義では、診断学総論として内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、治療学総論として、急性・慢性疾患の管理、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患・免疫疾患、血液疾患、消化器疾患、腎臓疾患、内分泌・代謝疾患、感染症、老年病学を取り上げ、リスクを含めた理解を深め、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。															
到達目標		専門分野を実施する上で必要な、さらに医療チームの一員として活躍するのに必要な内科学の知識を得る。															
学修者への期待等		表面的でなく、内容を理解した上での知識を身につけること。															
回		授業計画							準備学修								
1		内科的診断の治療と実際							教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（1）のため準備をすること。								
2		循環器疾患（1）心臓疾患															
3		循環器疾患（2）末梢血管疾患															
4		呼吸器疾患															
5		消化器疾患															
6		肝・胆・膵疾患							教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（2）のため準備をすること。								
7		血液・造血器疾患															
8		代謝性疾患															
9		内分泌疾患															
10		腎・泌尿器疾患															
11		アレルギー疾患							教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（3）のため準備をすること。								
12		感染症															
13		老年病学（1）老化と加齢															
14		老年病学（2）認知症															
15		老年病学（3）フレイルとサルコペニア															
教科書		Crosslink basicリハビリテーションテキスト「内科学」角田亘、岡崎史子編、メジカルビュー社															
参考文献																	
備考		小テストは3回に分けて授業時間内に行う。解答用紙を回収後に問題の説明を行い自己採点させる。採点後答案用紙は返却する。60点に満たない学生に対してはその回の小テストの再テストを行う。															

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-02					
		●		●							
科目名	臨床神経学					単位認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患（一部損傷含む）を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知り、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。脳血管障害、外傷、脳腫瘍、感染症、変性疾患、遺伝性疾患に大別して学んでいく。										
到達目標	重要な神経症候や、疾患の特徴・病態について説明できる。										
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。										
回	授業計画					準備学修					
1	神経解剖の総復習（神経系の部品、脳の発生と区分、脳幹の3つの縦の系、各部位固有の機能）					教科書2-67ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
2	神経解剖の総復習（交叉の問題、脊髄、血管系、抑制の消失と下位中枢神経機能の発現）					教科書2-67ページに再度、目を通しておくこと（30分程度）。					
3	症候学 病歴・意識・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア					教科書548-559ページ、182-189ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
4	症候学 脳神経					教科書242-279ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
5	症候学 運動					教科書190-217ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
6	症候学 体性感覚・自律神経系					教科書218-241ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
7	脳血管障害					教科書56-147ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
8	脳腫瘍・頭部外傷					教科書496-547ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
9	神経変性疾患（筋委縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症）					教科書330-371ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
10	神経変性疾患（Parkinson病など）					教科書330-371ページに再度、目を通しておくこと（30分程度）。					
11	認知症（脳血管性認知症・Alzheimer病など）					教科書424-443ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
12	認知症（Lewy小体型認知症・前頭側頭型認知症など）					教科書424-443ページに再度、目を通しておくこと（30分程度）。					
13	末梢神経・筋・神経筋接合部の疾患					教科書294-317ページ、および372-398ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
14	中枢性脱髄疾患・感染性疾患					教科書318-329ページ、および402-423ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
15	代謝性疾患、総括					教科書398-401ページ、486-495ページ、および402-423ページに目を通しておくこと（30分程度）。					
教科書	『病気がみえる 脳・神経 vol.7』医療情報科学研究所 著 メディックメディア										
参考文献											
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-1-CLM-04				
科目名	精神医学				単位 認定者	菊地 史子		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、領域が広い。脳血管障害の患者の20%以上がうつ状態に陥ることが分かってきた。リハビリテーションの対象として、さらには現代の疾病構造の変化の側面からも、その理解は重要である。本講義では、精神医学の概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について学び、利用者の理解に必要な基本的事項及び言語聴覚療法の臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。									
到達目標	医療専門職の一員であることを意識し、精神医学の基礎知識が理解できるようになる。また、精神医学に対する関心を深め、精神疾患を持つ方々について考え、理解する姿勢を身につけられるようになる。									
学修者への期待等	1. 精神医学に対して苦手意識を持たず、授業に臨んで欲しい。2. シラバスに基づき、事前に教科書の次回授業範囲を一読しておくことを希望する。3. 国家試験および定期試験に関連する事項や近年の精神医学の動向については授業中に繰り返し述べるので、この点を集中して把握し、理解すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	精神医学の歴史 西洋の歴史、日本の歴史					教科書p1～7を読む（30分程度）				
2	精神医学の概念 精神医学の定義、精神障害の成因と分類					教科書p19～25を読む（30分程度）				
3	精神医学の診断1 診断の手順と方法					教科書p27～35を読む（30分程度）				
4	精神医学の診断2 精神症状と状態像					教科書p35～42を読む（30分程度）				
5	精神医学の診断3 身体検査と心理検査					教科書p42～53を読む（30分程度）				
6	代表的な精神疾患1 器質性精神障害：主な症状と状態、治療および経過と予後					教科書p59～71を読む（30分程度）				
7	代表的な精神疾患2 精神作用物質使用による精神および行動の障害					教科書p71～83を読む（30分程度）				
8	代表的な精神疾患3-1) 統合失調症：主な症状と定義					教科書p86～86を読む（30分程度）				
9	代表的な精神疾患3-2) 統合失調症：診断と治療、経過と予後					教科書p86～99, p187～202を読む（30分程度）				
10	代表的な精神疾患4-1) 気分（感情）障害：主な症状と診断					教科書p99～108を読む（30分程度）				
11	代表的な精神疾患4-2) 気分（感情）障害：病型と分類、治療および経過と予後					教科書p108～110, p187～202 を読む（30分程度）				
12	代表的な精神疾患5 神経病性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害：主な症状と状態、治療および経過と予後					教科書p110～126を読む（30分程度）				
13	代表的な精神疾患6 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害 主な症状と状態、治療および経過と予後					教科書p127～132を読む（30分程度）				
14	代表的な精神疾患7 神経系の疾患：てんかん：概念と分類、症状と診断、治療と予後					教科書p180～186, p202を読む（30分程度）				
15	精神科医療における人権擁護 メンタルヘルスケア、精神科リハビリテーション					教科書p205～229, p295～314を読む（30分程度）				
教科書	『改訂精神保健福祉士養成セミナー 精神医学－精神疾患とその治療』 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）へるす出版									
参考文献	特になし 講義時に資料配付									
備考	特になし									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として臨床5年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-05				
		●		●						
科目名	リハビリテーション医学				単位認定者	水尻 強志		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	リハビリテーション医学の歴史と定義、全人的復権に関する理念を学修し、各論では脳損傷（脳血管障害、頭部外傷）、神経筋疾患、脊椎損傷、肩関節疾患などの各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらには痙縮、疼痛、褥瘡などの合併症の管理方法やリハビリテーション栄養、神経学的評価、リハビリテーション科で行う生理的検査（神経伝送検査、筋電図など）について学び、リハビリテーション専門職として、また言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身につける。									
到達目標	1. 第一線医療機関で必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身に付ける 2. 嚥下障害の診断と治療を理解する									
学修者への期待等	リハビリテーション科専門医が、日常診療で重要だと考えている内容について講義をする。せっかくの機会であり、遠慮せずに質問をして欲しい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	リハ医学総論1 高齢社会と高齢者医療				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。（30分程度）				水尻 強志	
2	リハ医学総論2 リハビリテーション医学の歴史と定義 生活機能と障害				テキスト第1章 II リハビリテーション医学総論 参照。（30分程度）				水尻 強志	
3	リハ医学総論3 廃用症候群とフレイル、運動学習				テキスト第1章 II リハビリテーション医学総論 参照。（30分程度）				水尻 強志	
4	各種疾患のリハビリテーション1 中枢神経障害の評価(脳血管障害など)				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。（30分程度）				水尻 強志	
5	リハ医学総論4 超高齢社会における医療倫理の諸課題－終末期医療、リスクマネジメントと身体抑制				テキスト第4章 脳卒中医療に関係する倫理的問題、第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）				水尻 強志	
6	各種疾患のリハビリテーション2 神経筋疾患、末梢神経障害、小児疾患、脊髄障害、骨関節疾患、義肢・装具支給制度				配布資料で復習をすること。（30分程度）				水尻 強志	
7	嚥下障害について（嚥下障害）				スライド＋動画で説明予定。当日配布のスライド資料で復習すること。（30分程度）				金成 建太郎	
8	嚥下障害について（胃瘻と流動食）				スライド＋動画で説明予定。当日配布のスライド資料で復習すること。（30分程度）				金成 建太郎	
9	嚥下障害について （誤嚥性肺炎とリハビリテーション栄養）				スライド＋動画で説明予定。当日配布のスライド資料で復習すること。（30分程度）				金成 建太郎	
10	各種疾患のリハビリテーション4 切断、義肢・装具				配布資料で復習をすること。（30分程度）				江原 昌宗	
11	各種疾患のリハビリテーション5 救命救急				配布資料で復習をすること。（30分程度）				江原 昌宗	
12	合併症管理（痙縮、疼痛、褥瘡）				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）				阿部 理奈	
13	ICF（国際生活機能分類）による全人的評価・症例を用いたグループワーク				配布資料で復習すること。（30分程度）				藤原 大	
14	リハビリテーションで行う検査（頭部画像、血液、神経生理学検査など）				配布資料で復習すること。（30分程度）				藤原 大	
15	リハビリテーションにおける栄養管理				配布資料で復習すること。（30分程度）				藤原 大	
教科書	『脳卒中リハビリテーション』第3版 水尻強志・富山陽介（編） 医歯薬出版									
参考文献										
備考	講義は対面授業で行う予定。ただし、状況によってはオンライン授業に変更することもあり。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として、臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-06				
		●		●						
科目名	耳鼻咽喉科学				単位認定者	松谷 幸子		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	15 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題等	5 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	耳鼻咽喉科学領域の耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・気管・食道の解剖と生理について理解を深める。耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・気管・食道などの疾病について、その病態や検査・治療法を学ぶ。音、音声の受容器である聴覚前庭系、共鳴腔としての鼻・副鼻腔、口腔、音響エネルギーの導出源として喉頭・気管など発声・発話・構音及び摂食・嚥下など言語聴覚士として必要な耳鼻咽喉科学の基礎を身につける。									
到達目標	1) 耳鼻咽喉科学領域の基本的解剖名は漢字で書ける。2) 代表的な疾患の病態と検査法、治療法を覚える									
学修者への期待等	耳鼻咽喉科領域の構造と働きを学ぶことは患者各々の病態を理解するための基礎です。また検査や治療方法を学ぶことにより患者へのアプローチ方法を考える基礎力を培います。専門用語はあいまいにせず確認し、不明点は積極的に質問する態度を身につけましょう									
回	授業計画					準備学修				
1	耳科学(1) 聴覚系の解剖と生理 外耳と中耳					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p12-14(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
2	耳科学(2) 聴覚系の病態 外耳と中耳の疾患					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p86-87(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
3	耳科学(3) 聴覚系の解剖と生理 内耳・後迷路					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p14-21(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
4	耳科学(4) 聴覚系の病態 内耳・後迷路の疾患					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p87-88(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
5	耳科学(5) 前庭系の解剖と生理 前庭機能、眩暈					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p14-21、24-25(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
6	耳科学(6) 前庭系の病態 内耳・後迷路の疾患					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p89-90(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
7	鼻科学(1) 鼻系の解剖と生理					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p96-103(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
8	鼻科学(2) 鼻系の病態 鼻・副鼻腔の疾患					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p90-93(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
9	口腔・咽頭科学(1) 口腔・咽頭系の解剖・生理					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p120-128(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
10	口腔・咽頭科学(2) 口腔・咽頭系の病態					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p93-98(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
11	喉頭科学(1) 喉頭の解剖と生理					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p156-165(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
12	喉頭科学(2) 呼吸発声系の病態 喉頭の疾患					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p98-100(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
13	気管・食道科学(1) 気管・食道の解剖と生理					予習:「耳鼻咽喉科第2版」p192-201(概ね15分)授業後は参考文献などで確認してください				
14	気管・食道科学(2) 気管・食道の疾患、嚥下障害					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p100-101(概ね10分)授業後は参考文献などで確認してください				
15	気管切開、耳鼻咽喉科のまとめ					予習:「言語聴覚士テキスト」耳鼻咽喉科、p101-102(概ね10分)今までの授業の中で不明な点は質問してください				
教科書	言語聴覚士テキスト第4版 大森孝一他 医歯薬出版									
参考文献	『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科 第2版』編集 鳥山稔、田内光 医学書院									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として、臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●		●		ST-1-CLM-07					
科目名	形成外科学					単位 認定者	佐藤 顕光		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度		20 %	
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に正常な状態に復して、形態と機能、並びに精神的にもQOLを高め、社会復帰に益することを目指す。本講義では、唇裂口蓋裂、頭頸部がん、開口障害をきたし得る外傷や熱傷、骨折、疾患による顎顔面変形など、治療対象疾患についての診断、治療原理や術式について学んでいく。さらには、言語聴覚士による手術前後のリハビリテーションについて、構音障害と摂食嚥下障害の評価と訓練を学修する。										
到達目標	頭頸部がんの治療における適切な再建手術について説明できる、口唇裂・口蓋裂について起こりえる障害を説明でき、成長期までに必要な手術について順次説明することが出来る。口蓋裂を呈する先天性疾患を挙げることが出来る。開口障害を呈する頭部顔面外傷を挙げることが出来る。										
学修者への期待等	教科書の記載のみでは理解しづらい形成外科の疾患に関して多くの臨床写真を呈示して理解を深めてもらいたい。資料では写真は十分に示せません。授業中に集中して勉強しましょう。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	形成外科総論 形成外科とは、創傷治癒と再建外科の基礎知識					特にありません			後藤 孝浩		
2	頭頸部癌総論 (癌治療の基礎知識、頭頸部再建の基本)					前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
3	頭頸部再建① (口腔・中咽頭の再建)					前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
4	頭頸部再建② (下咽頭その他の再建)					前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
5	唇裂口蓋裂総論① 唇顎口蓋裂総論と疫学、発生学について					事前に配布される資料に目を通して おいてください。(20分程度)			佐藤 顕光		
6	唇裂口蓋裂総論② 学童期までに行われる治療について(唇裂手術,口蓋裂手術,顎裂部骨移植)					前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておくこと。(30 分程度)			佐藤 顕光		
7	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について(鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術)					前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			佐藤 顕光		
8	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について(鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術)					前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			佐藤 顕光		
9	唇裂口蓋裂総論④ 宮城県こども病院での口唇口蓋裂治療					特にありません			真田 武彦		
10	唇裂口蓋裂総論⑤ 社会的問題、合併症の問題、親の心理的問題などについて					特にありません			真田 武彦		
11	口蓋裂を有する頭蓋顎顔面異常について 頭蓋顎顔面異常をきたす先天異常とその治療について					特にありません			真田 武彦		
12	頭蓋顎顔面外科・後天的顎顔面変形 頭蓋顎顔面外科についてと、開口障害をきたしうる外傷や熱傷について					前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			佐藤 顕光		
13	口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常 ・口蓋裂に伴う顎発達異常と歯の異常について					事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
14	咬合異常、顎変形症について					事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
15	人工材料による機能回復について					事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 器質性構音障害 道健一・今井智子・高橋浩二・山下夕香里 編著 医歯薬出版										
参考文献	『標準形成外科学 第6版』平林慎一、鈴木茂彦(著) 医学書院 『嚥下障害の臨床ーリハビリテーションの考え方と実際』小椋脩(著) 医歯薬出版 『口唇裂・口蓋裂治療の手引』昭和大学(著) 金原出版										
備考											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
医師として、臨床に10年以上携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●	●	●		ST-1-PCL-02					
科目名	生涯発達心理学					単位 認定者	中川 大介 小松 有希		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度		30 %	
					授業形態 <td>講義</td> <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td></td>	講義	授業時間数			30 時間	
							授業回数			15 回	
授業の概要	生涯発達心理学は、生涯を通じて成長・発達し続ける人間の誕生から死までの変化の特徴や、その過程の理解を目指す。本講義では、各発達段階(乳児期・幼児期・思春期・青年期・成人初期・中年期・老年期)における心理特性について知る。生涯発達という視点を重視し、多様な年齢層にある対象者を理解する一助とする。										
到達目標	人間は、一生を通じて成長発達し続ける。誕生から死までの人生を変化の特徴や、その過程を理解する。										
学修者への期待等	それぞれの過程の発達と課題を説明することができるようになってほしい。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	生涯発達心理学とは					【事前】生涯発達心理学について簡単に調べておく。(1時間)			小松 有希		
2	乳児期 ① (胎児・新生児・乳児の能力、乳児の自己感の発達) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
3	乳児期 ② (アタッチメントと母子関係の発達、基本的信頼感、乳児期の発達のつまずきとケア) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
4	幼児期 ① (身体能力・身体機能の発達 母親からの分離－個体化 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
5	幼児期 ② (対人関係の発達、幼児の遊びの意味、幼児期の発達の課題) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
6	児童期 ① (社会性、学校、発達のつまずき) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
7	児童期 ② (読み書きの能力と計算、足場かけ) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
8	思春期 (心と身体の変化、親子関係、友人関係) 適宜グループワークを実施する。					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			小松 有希		
9	青年期 ① (アイデンティティの模索と確立、時間的展望)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
10	青年期 ② (社会に出るための模索、発達のつまずきとケア)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
11	成人初期 (仕事、結婚、親になる、親になれない親)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
12	中年期 (クライシス、親子関係の変化、女性のライフサイクル)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
13	老年期 ① (心と身体の変化、生きがいと幸福感、死をどう受け止めるか)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
14	老年期 ② (家族・社会関係、認知症、施設入所高齢者の心理とケア、ライフレビュー)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
15	まとめ (発達可塑性、パーソナリティーの変化、ライフサイクルと家族)					【事後】配布資料を復習しておくように (1時間)			中川 大介		
教科書	『言語聴覚士国家試験必修ポイント2025年ST基礎科目』医歯薬出版										
参考文献	『言語聴覚士のための心理学(第2版)』 山田弘幸(編) 医歯薬出版										
備考	国家試験過去問題を常から予習・復習しておくことをお勧めします。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-1-PCL-04				
科目名	心理測定法				単位 認定者	真覚 健 渡邊 弘人 小松 有希		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	心理測定法とは、心理現象を把握するために用いる研究手法である。本講義では、心理測定の基礎について、測定対象、測定方法、恒常誤差、尺度水準、尺度構成法、テスト理論、調査法、データ解析法について学修し、心理測定法に関する知識を身につける。講義後半には言語聴覚領域との関連の深い事例について、測定の実践を通して理解を深める。									
到達目標	心理学において用いられる主な測定法とデータ解析法の特徴を知る									
学修者への期待等	質疑応答の機会を設けますので、わからないことがありましたら遠慮なく質問してください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	心理測定の基礎					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			真覚 健	
2	測定の水準					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね2時間)			真覚 健	
3	誤差					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね3時間)			真覚 健	
4	精神物理学的測定法					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね4時間)			真覚 健	
5	尺度構成法					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね5時間)			真覚 健	
6	検査の妥当性と信頼性					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね6時間)			真覚 健	
7	質問紙調査					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね7時間)			真覚 健	
8	多変量解析と統計的検定					配布資料について事前に学修し、授業内での質問に答えられるようにしておくこと(概ね8時間)			真覚 健	
9	言語聴覚療法における研究(1) 心理統計と言語聴覚療法 グループワーク					言語聴覚療法に関わる論文を読むこと(概ね60分)			渡邊 弘人	
10	言語聴覚療法における研究(2) データ収集と統計の実践					前回の講義資料を読むこと(概ね60分)			渡邊 弘人	
11	言語聴覚療法における研究(3) 研究に使用されるデータとは グループワーク					論文を読み、データについて考察すること(概ね60分)			渡邊 弘人	
12	聴覚領域検査における研究(4) 研究におけるデータをまとめる グループワーク					言語聴覚療法に関わる論文を読むこと(概ね60分)			渡邊 弘人	
13	言語聴覚療法研究法 精神物理学的測定法の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)					言語聴覚療法に関連する資料の復習(概ね60分)			小松 有希	
14	言語聴覚療法研究法 尺度構成法の各実験手法の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)					言語聴覚療法に関連する資料の復習(約60分)			小松 有希	
15	言語聴覚療法研究法 データ解析の理解 (過去問題の実施・適宜グループワーク)					言語聴覚療法に関連する資料の復習(約60分)			小松 有希	
教科書	指定なし									
参考文献	参考書：『心理測定法への招待：測定からみた心理学入門』市川伸一編著 サイエンス社									
備考	授業内課題は、採点后に返却しフィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PCL-05				
		●	●	●						
科目名	福祉心理学				単位 認定者	中川 大介 小松 有希 江畑 綾		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>受講態度</td> <td>30 %</td>	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数		15 回	
授業の概要	福祉心理学は応用心理学であり、主な対象と考えられる社会的養護を受ける児童、障害児・者、高齢者と、その保護者・介護者等に対する理解と適切な支援を行うために心理学の面から考える学問である。他の専門職者と連携し、個人とその環境へ働きかけをすることが、福祉心理学の立場からの援助方法として考えられる。コミュニケーションが相互間で成り立つ以上、「心理的支援」と「環境の活用・整備」の在り方から言語聴覚士が学べることは多い。本講義では、社会的に弱い立場におかれがちな対象者の心理傾向を学び、その援助について考える。									
到達目標	①児童、障害児・者、高齢者と、その保護者・介護者等の課題を理解し説明できる。 ②支援に際しての多職種連携について理解する。									
学修者への期待等	各障害別に課題、現状を理解し、必要な心理支援を検討できるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	心理学における福祉心理学とは (支援について考えていく)					【事前】福祉心理学について調べておくこと(約30分)			小松 有希	
2	各種障害についての理解・支援(知的能力障害) (発表・グループディスカッションを行う)					発表班は知的能力障害について調べておくこと。(約30分)			小松 有希	
3	各種障害についての理解・支援(学習障害) (発表・グループディスカッションを行う)					発表班は学習障害について調べておくこと。(約30分)			小松 有希	
4	各種障害についての理解・支援(ASD) (発表・グループディスカッションを行う)					発表班はASDについて調べておくこと。(約30分)			小松 有希	
5	各種障害についての理解・支援(ADHD) (発表・グループディスカッションを行う)					発表班はADHDについて調べておくこと。(約30分)			小松 有希	
6	福祉心理学におけるSTの役割、意思決定支援					【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)			江畑 綾	
7	児童福祉分野の活動(児童福祉施設、児童相談所等子どもに関わる福祉分野について学ぶ)					【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)			江畑 綾	
8	家庭福祉分野の活動(貧困・ひとり親など家庭に関する福祉分野について学ぶ)					【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)			江畑 綾	
9	社会的養護の課題と支援					【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)			江畑 綾	
10	夫婦間・カップル間暴力への支援					【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)			江畑 綾	
11	高齢者福祉における制度と背景(適宜グループワークを行う)					【事後】配布資料を復習すること(1時間)			中川 大介	
12	高齢者福祉心理(適宜グループワークを行う)					【事後】配布資料を復習すること(1時間)			中川 大介	
13	認知症者の理解(適宜グループワークを行う)					【事後】配布資料を復習すること(1時間)			中川 大介	
14	認知症者の理解 評価バッテリーを通して①HDS-R(適宜グループワークを行う)					【事後】配布資料を復習すること(1時間)			中川 大介	
15	認知症者の理解 評価バッテリーを通して②MMSEその他(適宜グループワークを行う)					【事後】配布資料を復習すること(1時間)			中川 大介	
教科書	特定の教科書は使用しない。適宜資料を配布する。									
参考文献	『福祉心理学総説』佐藤泰正・中山哲志・桐山宏行(編著) 田研出版 『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』田中農夫男・木村進 福村出版									
備考	適宜グループディスカッションを行う。課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-ACS-02				
		●		●						
科目名	聴覚心理学				単位認定者	渡邊 弘人 矢入 聡		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	音を認識するための聴覚系の処理について、事例を通して理解を深める。音の性質には、物理的側面と心理的側面 がある。音の大きさ、高さ、音色は音の3要素と呼ばれ、音を聞くことは、その3要素について心で感じる こと、思う ことであり、心理尺度となる。これに対して音の強さ、音圧、周波数、スペクトルなどは音の物理的な性質を表すため物理量となる。本講義では、特に聴覚的に感じる大きさ・強さ・高さ（フォン/son・mel）と、物理的な大きさ・強さ・高さ（dB SPL・Hz）との違いについて理解を深める。他の聴覚系授業とのつながりも強いことから、それぞれの関連性を重視し、理解を深めていく。									
到達目標	事例を通して、人間が感じる音の特性にどのようなものがあり、物理的な特性とどう関係するかを理解する。									
学修者への期待等	1年次の科目を含む他の聴覚系授業とのつながりが強い科目です。適宜事例を示しながら授業を進めていきますので、他で学んだ内容の理解を深めたり、ここで学んだ内容を他の科目に応用したりできるよう、興味を持って取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	知覚表象形成と音の強さ 聴覚における知覚表象形成、音の強さの表現					【事後】授業の内容を踏まえdBの計算ができるようにすること（60分程度）			矢入 聡	
2	音の大きさの知覚 音の大きさの表現、音の大きさに影響する要因					【事後】音の大きさの表現を整理しておくこと（60分程度）			矢入 聡	
3	音の高さの知覚① 音の周波数と高さの対応、音の高さ知覚の理論、音の高さを表現する尺度					【事後】場所説と時間説についてそれぞれ整理しておくこと（60分程度）			矢入 聡	
4	音の高さの知覚② 音の高さに影響する要因、音楽の高さ、音律					【事後】音律について授業で紹介した以外のものを調べてみること（60分程度）			矢入 聡	
5	マスキングと聴覚フィルタ マスキングの種類と特徴、臨界帯域と聴覚フィルタ					【事後】マスキングの種類について整理しておくこと（60分程度）			矢入 聡	
6	音色と楽器音 音色の定義、協和度、楽器音の特徴					【事前】身近な楽器を1つあげ、どのようにして音が出るか考えてみること（60分程度）			矢入 聡	
7	音の定位 音源方向の知覚、音の広がり感、両耳聴の効果					【事前】日常の音やその到来方向を意識して1日を過ごしてみること（60分程度）			矢入 聡	
8	聴覚心理のメカニズム 音の選択的聴取、視聴覚相互作用					【事後】取り上げた種々の視聴覚相互作用について整理しておくこと（60分程度）			矢入 聡	
9	聴覚心理と言語聴覚療法の関係（1）聴覚解剖と生理 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
10	聴覚心理と言語聴覚療法の関係（2）聴覚検査の構成 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
11	聴覚心理と言語聴覚療法の関係（3）聴覚検査におけるSPL、HL、SLの関係 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
12	聴覚心理と言語聴覚療法の関係（4）聴覚検査における音の大きさの知覚 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
13	聴覚心理と言語聴覚療法の関係（5）聴覚検査における音の高さの知覚 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
14	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（6）聴覚補償機器との関係 グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
15	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（7）まとめ グループワークを適宜実施する					1年次の聴覚関連講義の復習（60分程度）			渡邊 弘人	
教科書	指定なし									
参考文献	『音響学入門（音響入門シリーズ）』鈴木陽一ほか コロナ社									
備考	第1回～第8回講義は遠隔（オンデマンド）で実施する。 授業内課題は採点後に返却し、フィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-SWE-01				
				●	●					
科目名	社会保障制度・関係法規				単位認定者	熊沢 由美		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	個人の責任や努力だけでは対応できないリスクに対して、相互に連帯して支え合い、それでもなお困窮する場合には必要な生活保障を行うのが社会保障制度の役割であり、医療・福祉・教育の現場で従事する言語聴覚士は、その基本を理解しておく必要がある。本講義では、社会保障制度の具体的な側面である「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「保健医療・公衆衛生」について法的な根拠も含めて学修する。さらに、現場で協働する医療関係職の身分法、医療・保険制度、障害者支援・福祉制度並びに介護保険法など関連する法規を理解する。									
到達目標	国家試験対策として、社会保障の基礎的な知識を身につけること。 自分と社会保障との関わりについて理解を深めること。									
学修者への期待等	授業内容をよく復習してください。社会保障についての報道に関心を持つようにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	社会保障とは何か					社会保障のイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
2	社会保障の方法と財源構成					国の予算についてのニュースを確認しておくこと。(30分程度)				
3	社会保障の歴史(1) 欧米①救貧法など					近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。(30分程度)				
4	社会保障の歴史(2) 欧米②社会保障法など					近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。(30分程度)				
5	社会保障の歴史(2) 日本					近代以降の日本史を大まかに確認しておくこと。(30分程度)				
6	社会保険(1) 年金保険①制度体系など					自分の年金がどのようなになっているのか確認しておくこと。(30分程度)				
7	社会保険(2) 年金保険②給付など					年金についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
8	社会保険(3) 医療保険					自分の保険証がどのようなになっているのか確認しておくこと。(30分程度)				
9	社会保険(4) 介護保険					介護保険についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
10	社会保険(5) 雇用保険					雇用保険についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
11	社会保険(6) 労働者災害補償保険					労災についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
12	公的扶助					生活保護についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
13	社会福祉(1) 福祉六法、障害者福祉など					社会福祉、ノーマライゼーションについてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
14	社会福祉(2) 児童福祉、高齢者福祉など					社会福祉についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
15	社会手当と公衆衛生					社会手当と公衆衛生についてのイメージを確認しておくこと。(30分程度)				
教科書	使用しません。講義資料を配付します。									
参考文献	『社会保障[第2版](新・社会福祉士シリーズ12)』阿部裕二・熊沢由美編 弘文堂									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。 課題やレポートがある場合は、次回以降の講義内で適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-SWE-02						
		●		●								
科目名	リハビリテーション論				単位認定者	渡邊 弘人 小松 有希		評価の方法	試験(筆記)	100 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位					
						授業時間数	30 時間					
				授業形態	講義	授業回数	15 回					
授業の概要	リハビリテーションの歴史的背景、理念と対象について理解を深める。リハビリテーションの理念は、心身の障害により社会の不利益を被った人間の全人的復権であり、障害者の能力を最大限に発揮させ、その自立を支援する全過程にかかわる。本講義では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念並びに生活機能とその障害について学ぶ。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。											
到達目標	リハビリテーションの歴史、意味を理解でき、携わる障害について知識を深めることができる。											
学修者への期待等	リハビリテーションの概念についてしっかりと理解し、言語聴覚士として求められるものは何があるのか考えて受講してください。											
回	授業計画				準備学修				担当			
1	リハビリテーション概論 理念について 適宜グループワークを行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
2	医療・保健・社会リハビリテーションの関わり方 多職種 連携を中心に 適宜グループワークを行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
3	リハビリテーションの実施課程① 情報収集 評価 グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
4	リハビリテーションの実施課程② 訓練プログラム立案 訓練実施 グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
5	ADLとは 日常生活活動とその評価 グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
6	ADLの評価方法 FIM グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
7	疾病モデル・障害モデル① ICD-10 ICIDH グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
8	疾病モデル・障害モデル② ICF グループディスカッションを適宜行う				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
9	障害モデル① 問題点抽出 目標設定 適宜グループワークを行う。				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
10	疾患別リハビリテーション① 事例検討(失語症) グループディスカッションを中心に展開する				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
11	疾患別リハビリテーション② 事例検討(嚥下障害) グループディスカッションを中心に展開する				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
12	地域リハビリテーションと地域包括システム				【事前・事後】関連するテキスト、文献に 目を通すこと。(概ね60分)				渡邊 弘人			
13	小児に対するリハビリテーションについて ①リハビリテーションの種類、注意点				【事前】成人・小児のリハビリとの違いに ついて調べておくこと。(約60分)				小松 有希			
14	小児に対するリハビリテーションについて ②重症心身障害児(脳性麻痺) グループディスカッションを適宜行う。				【事前】重症心身障害児のリハビリにつ いて調べておくこと(約60分)				小松 有希			
15	小児に対するリハビリテーションについて ③知的障害、発達障害(自閉症、注意欠如・多動性 障害、学習障害) グループディスカッションを適宜行う。				【事前】知的障害・発達障害に関する小 児リハビリについて調べておくこと(約60 分)				小松 有希			
教科書	特になし											
参考文献	講義内で紹介する。											
備考	授業内課題は、採点後返却し、フィードバックを行う											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LSG-02				
		●		●						
科目名	言語聴覚障害診断学				単位認定者	櫻庭ゆかり 渡邊弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	言語聴覚士が対象者と相対したときの基本的観察点を身につけ、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。本講義の前半では、初回面接において収集すべき情報と観察の視点、面接の方法、初診時評価の対象、障害範囲の絞り込みと全体像の把握、言語機能の観察としてはインプットとアウトプットの掴み方、及び観察所見の書き方を学修し、後半では聴覚系、高次脳機能系、言語発達系、運動系の各系ごとの言語病理学的な診断について学んでいく。									
到達目標	言語聴覚士が患者様と相対したときの基本的観察点を身に付け、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。									
学修者への期待等	基礎知識を基に、障害に応じて評価を行い、適切に検査を選定、実施できるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	評価・診断の基本概念 言語聴覚障害を診るとは					【事後】講義内容について30分間教科書を読んでおくこと			櫻庭ゆかり	
2	評価・診断における臨床推論					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
3	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈①					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
4	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈②					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
5	評価・診断の流れ 観察法・質問紙法・検査法・機器を用いた検査 評価プランの立て方					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
6	スクリーニング 成人の言語聴覚障害のスクリーニング					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
7	具体的診断の技術：失語症以外の言語障害と認知症の鑑別のポイント					【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり	
8	具体的診断：面接法と評価の倫理					【事後】講義内容について30分復習すること			櫻庭ゆかり	
9	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価 ① 医学的評価（呼吸・循環・理学所見など）					【事前】摂食嚥下障害での講義資料を予習しておくこと（1時間）			江畑 綾	
10	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価/診断 ② VF読影（グループワーク）					【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾	
11	成人領域の摂食嚥下障害の評価/診断 ③ VE読影（グループワーク）					【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾	
12	言語発達障害児に関する評価					【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾	
13	言語発達障害児に関する評価・分析					【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾	
14	聴覚系の評価（検査結果分析） グループワークを適宜行う					【事後】講義内容を復習すること（1時間）			渡邊 弘人	
15	聴覚系の評価（聴覚補償機器の適応基準） グループワークを適宜行う					【事後】講義内容を復習すること（1時間）			渡邊 弘人	
教科書	「言語聴覚士国家試験 必修ポイント 2025 ST専門科目」 医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験 必須ポイント 2025 ST基礎科目」 医歯薬出版 「2026年版言語聴覚士国家試験 過去問題 3年間の解答と解説」 大揚社 2025年7月頃発売予定									
参考文献										
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●	●		ST-2-AHB-04				
科目名	失語症・高次脳機能障害Ⅱ				単位 認定者	中川 大介		評価の 方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年 <th>単位数</th> <td>2 単位</td> <td></td> <td></td>	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	「失語症・高次脳機能障害Ⅰ」で学んだ内容を踏まえて、複合的障害についての介入方法について学修する。併せて、発話症状の書き取り方、所見報告書の書き方についての演習を行う。検査プロフィールから症例の言語症状を分析して聴く、話す、読む、書く、計算する機能の介入方法や訓練立案を学ぶ。また、検査プロフィールだけではとらえきれない重症度によった訓練方法や、失語症者の心理面、社会復帰についても学ぶ。症例報告書の書き方、観察のポイントなども学修する。1年次に引き続いて高次脳機能障害の各検査演習を行う。									
到達目標	根拠に基づいた訓練法を立案することができ、且つ謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指す。									
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解する。自主的に検査演習に取り組み検査の意義や目的、検査結果から症例を分析してまとめることができることを望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	高次脳機能障害のリハビリテーション					高次脳機能障害学（第3版）第1章を読む（約30分）				
2	面接、観察、検査における情報収集					前回の復習（約30分）				
3	問題点の抽出と目標設定					前回の復習（約30分）				
4	訓練の実施と再評価					前回の復習（約30分）				
5	スクリーニング検査					前回の復習（約30分）				
6	MMSE、HDS-R、FAB等の検査について					前回の復習（約30分）				
7	高次脳機能障害の検査の概要、種類					前回の復習（約30分）				
8	知能検査 WAIS-IV 目的、概要、積木模様～行列推理					前回の復習（約30分）				
9	知能検査 WAIS-IV 単語～知識					前回の復習（約30分）				
10	知能検査 WAIS-IV バランス～絵の完成					前回の復習（約30分）				
11	注意・意欲検査 CAT/CAS 意欲について					前回の復習（約30分）				
12	注意・意欲検査 CAT/CAS Span～SDMT					前回の復習（約30分）				
13	注意・意欲検査 CAT/CAS 記憶更新検査～CPT					前回の復習（約30分）				
14	注意検査 TMT-A・B、仮名ひろい検査					前回の復習（約30分）				
15	記憶検査 WMS-R 情報と見当識～視覚性記憶範囲					前回の復習（約30分）				

回	授業計画	準備学修
16	記憶検査 WMS-R 論理的記憶Ⅰ～視覚性再生Ⅱ	前回の復習（約30分）
17	記憶検査 三宅式記銘力検査、レイの複雑図形検査など	前回の復習（約30分）
18	記憶検査 AVLT、ベントン視覚記銘検査	前回の復習（約30分）
19	記憶検査 リバーミード行動記憶検査 姓名～物語	前回の復習（約30分）
20	記憶検査 リバーミード行動記憶検査 絵～持ち物	前回の復習（約30分）
21	視空間認知検査 VPTA	前回の復習（約30分）
22	視空間認知検査 BIT行動性無視検査	前回の復習（約30分）
23	遂行機能検査 BADS 規則変換カード～鍵探し検査	前回の復習（約30分）
24	遂行機能検査 BADS 時間判断検査～DEX	前回の復習（約30分）
25	言語機能検査 掘り下げ検査 SALA、TLPA	前回の復習（約30分）
26	高次脳機能障害、失語症者とのコミュニケーション	前回の復習（約30分）
27	高次脳機能障害訓練①（記憶障害、注意障害、社会的行動障害）	前回の復習（約30分）
28	高次脳機能障害訓練②（遂行機能障害、視空間認知障害、失行）	前回の復習（約30分）
29	言語機能訓練①（重度失語症～軽度失語症）適宜グループワークを行う	前回の復習（約30分）
30	言語機能訓練②（認知神経心理学モデル）適宜グループワークを行う	前回の復習（約30分）
教科書	『標準言語聴覚障害学 失語症学（第3版）』 藤田 郁代編 医学書院 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学（第3版）』 藤田 郁代、阿部 晶子 編 医学書院 『なるほど！失語症の評価と治療』 小嶋知幸（編著） 金原出版	
参考文献	『失語症の障害メカニズムと訓練法』 小嶋知幸他著 新興医学出版社	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、臨床に15年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-LDS-02				
		●	●	●						
科目名	言語発達障害Ⅱ				単位 認定者	小松 有希		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	「言語発達障害Ⅰ」を基に、小児を対象とした言語療法について演習を通して学ぶ。本講義では対象児に対し、個別自立課題等の適切な教材を考え作成できることを目標に、講義・演習を行っていく。療育に必要な訓練知識・技術の修得を目指す。									
到達目標	小児領域で必要な諸検査の実施・評価・そこから支援への分析ができるようになる。									
学修者への期待等	積極的に演習に参加し、検査法や訓練法をしっかりと身につけていってください。									
回	授業計画					準備学修				
1	検査法 1 質問応答関係検査(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
2	検査法 2 質問応答関係検査(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
3	検査法 3 PVT-R (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
4	検査法 4 PVT-R (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
5	検査法 5 グッドイナフ人物画知能検査					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
6	検査法 6 KABC 2 (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
7	検査法 7 KABC 2 (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
8	検査法 8 KABC 2 (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
9	検査法 9 KABC 2 (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
10	検査法 1 0 KABC 2 (実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
11	検査法 1 1 WISC-V(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
12	検査法 1 2 WISC-V(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
13	検査法 1 3 WISC-V(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
14	検査法 1 4 WISC-V(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				
15	検査法 1 5 WISC-V(実技と採点練習)					【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)				

回	授業計画	準備学修
16	検査法 1 6 田中ビネー知能検査V(検査概要と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
17	検査法 1 7 田中ビネー知能検査V(検査概要と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
18	検査法 1 8 LC-R、LCSA(検査概要と国家試験問題)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
19	検査法 1 9 発達検査(遠城寺式など) (検査概要と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
20	検査法 2 0 S-M社会生活能力検査(検査概要と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
21	支援法 1 インリアルアプローチ	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
22	支援法 2 インリアルアプローチ	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
23	支援法 3 A B A (応用行動分析)	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
24	支援法 4 A B A (応用行動分析)	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
25	支援法 5 マカトン法	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
26	支援法 6 マカトン法	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
27	訓練法 1 S-S法に基づく訓練の進め方	【事前】言語発達障害についてこれまでの資料をもとに復習しておく。(約1時間)
28	訓練法 2 S-S法に基づく訓練の進め方	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
29	訓練法 3 S-S法に基づく訓練の進め方	【事後】授業の内容を復習する。(約30分)
30	訓練法 4 症例検討	【事前】これまでの内容を復習する。(約1時間)
教科書	配布資料を中心に授業を行っていきます。	
参考文献	特になし	
備考		
※以下は該当者のみ記載する。		
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)		
言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。		

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-05				
		●	●	●						
科目名	拡大・代替コミュニケーション				単位認定者	江畑 綾 寺本 淳志		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	拡大・代替コミュニケーション（AAC）とは、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションに障害のある人が、言語・非言語問わない残存能力とテクノロジーの活用によって、自分の意思を相手に伝える技法のことを指し、大きく分けてノンテク、ローテク、ハイテクの3つがある。本講義では、拡大・代替コミュニケーションの概要を学び、言語聴覚士として適応の判断と提案、活用の支援に至るまでの能力を身につける。									
到達目標	AACの基本的な考え方を理解し、その適用方法について実践事例を通して理解を深める。 パソコン教材等の作成やローテク、ハイテクなツールの実演を通して、具体的な支援の在り方について知る。									
学修者への期待等	事前に各回のトピックに関する参考文献などを読んで学習しておくこと。 授業後は配付資料やノートにより講義で得た知識の確認をすること。また、授業で示された補足資料等に目を通し学びを深めること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	コミュニケーションの困難とAACの役割について				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
2	AACの定義と変遷				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
3	AACの対象及びAACシステムの概要				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
4	AACシステムの構成要素 1：形式				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
5	AACシステムの構成要素 2：シンボル				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
6	AACシステムの構成要素 3：選択手法				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
7	AACシステムの構成要素 4：方略				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
8	ノンテク/ローテク/ハイテクコミュニケーション：技法やツールの紹介				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
9	各種コミュニケーション方法の適用事例の紹介				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
10	ノンテク/ローテク・コミュニケーションに関する演習				演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んで授業に臨むこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
11	ハイテク・コミュニケーションに関する演習とコミュニケーションソフト作成体験				演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んでおくこと。また、事前にPowerPointの基本的な使用方法を確認しておくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
12	コミュニケーションソフト作成体験				発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
13	コミュニケーションソフトの発表とディスカッション				発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
14	成人領域のツールの紹介、STによるAAC導入調整について（AAC導入のために行う評価）				配布資料を復習しておくこと。（概ね1時間）				江畑 綾	
15	症例検討（グループワーク）				事前に配布資料を復習すること。基礎知識を基に患者像を描けるように学習すること（1時間）				江畑 綾	
教科書	なし									
参考文献	『言語聴覚療法シリーズ16 改訂 AAC』 久保健彦 編著（2012） 建帛社 『言語聴覚士のためのAAC入門』 知念洋美 編著（2018） 協同医書出版社									
備考	(寺本) 第11回からのコミュニケーションソフト作成体験では「PowerPoint(microsoft社)」を使用してソフトを作成してもらいます。課題のフィードバックは、講義内あるいは紙面上で行う。 (江畑) 課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDY-01				
		●		●						
科目名	音声障害				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	音声障害は、声の障害（voice disorder）であり、話し言葉の障害（speech disorder）とは異なる。喉頭の異常によってのみ起こる声の異常であり、共鳴器官の異常である開鼻声などは含まない。話し手の性別や年齢、社会的背景（仕事、地位）から考えて社会通念上妥当でない声、本人のニーズや社会的要請に声が合わない場合も音声障害ととらえられる。それぞれの障害はその病態から、器質性障害・神経学的障害・機能的障害に分類される。本講義では、それぞれの音声障害の特徴と治療法について、さらに無喉頭音声の種類と代替音声について学修する。									
到達目標	それぞれの音声障害の成り立ちについて理解し、検査や評価、プログラムの立案、訓練を行うことができる。									
学修者への期待等	予習と復習を繰り返し行うこと。授業は演習を含むので、積極的に参加することを望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	音声障害の発生メカニズムと分類（発声器官の解剖・生理・声帯振動と呼吸様） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページの目次を確認しておくこと。（概ね30分）				
2	器質性音声障害 1（声帯結節・声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯溝症他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
3	器質性音声障害 2（声帯のう胞、喉頭肉芽腫・喉頭乳頭腫、喉頭がん他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
4	神経学的音声障害 1（喉頭麻痺・痙攣性発声障害他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
5	神経学的音声障害 2（神経変性疾患・脳血管障害に伴う音声障害） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
6	機能的音声障害（過緊張性発声障害・心因性失声症・音声衰弱症・変声障害他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
7	喉頭所見をとる検査（喉頭鏡、ストロボスコーピー、高速度撮影他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
8	生理学的検査 1 電気声門図 空気力学的検査（平均呼気流量率、MPT、発声指数） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
9	生理学的検査 2（強さの検査 声門下圧） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
10	音声の評価法（GRBAS尺度、モーラ法、VHI） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
11	気管切開の音声障害（気管切開のメカニズム・スピーチカニューレ） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
12	無喉頭音声 1 人工喉頭（笛式人工喉頭、電気式人工喉頭） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
13	無喉頭音声 2（食道音声・気管食道瘻） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
14	症状対処的音声治療（プッシングメソッド・声の配置法・外喉頭筋へのアプローチ他） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
15	包括的音声治療（アクセント法・共鳴強調訓練・発声機能拡張訓練） グループ学習を含む					【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）				
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学』城本 修、原 由紀 編 医学書院									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDY-02				
		●		●						
科目名	器質性・機能性構音障害				単位認定者	小松 有希 須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	器質性構音障害とは形態的異常に基づいて生じる構音障害である。機能性構音障害とは口腔・鼻腔・口唇などの構音諸器官の形態や機能に異常がないにもかかわらず、構音に異常が認められる障害である。本講義では、口腔顔面の解剖と定型的な顎顔面形態発育とその異常について学修し、器質性構音障害を呈す口唇口蓋裂・口唇裂児についての基礎知識と構音の評価・訓練、支援方法を修得する。機能性構音障害では定型的な小児の構音能力の発達について学び、異常な構音の評価と、その具体的指導技術について学修する。									
到達目標	器質性構音障害、機能性構音障害の病態について理解し、評価・訓練の実施が可能になる。									
学修者への期待等	器質性構音障害、機能性構音障害の特徴を押さえ、内容を深く理解することができることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	機能性構音障害とは／日本語の語音 機能性構音障害の概念、特徴／日本語の語音の表記法 (音声記号)					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
2	構音障害の種類 機能性構音障害でみられることが多い構音障害等					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
3	構音のための検査 1 新版構音検査 (単語検査)					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
4	構音のための検査 2 新版構音検査 (単語検査のまとめ)					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
5	構音のための検査 3 新版構音検査 (音節検査、音検査、類似運動検査など)					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
6	訓練 1 基本的な訓練の流れ					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
7	訓練 2 語音別の訓練法					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
8	幼児の指導・訓練の流れ					配布された資料を復習すること。 (約30分程度)			須賀川 芳夫	
9	器質性構音障害の基礎知識 定義と疾患 適宜グループワークを行う					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
10	口蓋裂の基礎知識(疫学と言語障害) 適宜グループワークを行う					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
11	口唇口蓋裂の問題点 適宜グループワークを行う					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
12	舌・口唇の形態異常と機能障害 適宜グループワークを行う					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
13	治療方針・手術 適宜グループワークを行う					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
14	口腔腫瘍 1 口腔腫瘍の治療と問題点、リハビリテーション評価					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
15	口腔腫瘍 2 口腔腫瘍術後のリハビリテーションとその注意点					授業内で呈示した教科書のページと配布資料を復習しておくこと。(約1時間程度)			小松 有希	
教科書	『STクリア言語聴覚療法5 小児発声発語障害』 佐藤亜紀子 緒方祐子 著 建帛社 『STクリア言語聴覚療法6 成人発声発語障害』 椎名英貴 中山剛志 著 建帛社									
参考文献	『わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法』 山下夕香里ほか(著) 学苑社 『構音障害の臨床-基礎知識と実践マニュアル-』 阿部雅子(著) 金原出版									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-VDY-04				
		●	●	●						
科目名	運動障害性構音障害Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	運動障害性構音障害について、タイプ別の訓練法を学び、訓練法の修得を目指す。姿勢の変化による発話への影響を知るため、寝返りから座位、さらには移乗動作も同時に演習する。「運動障害性構音障害Ⅰ」で学修した知識を基に、症例の問題点を整理し、訓練プログラムを立案、運動生理学の知識を取り入れ、訓練プログラムの実施へとつなげていく。さらに学生間において訓練の実際を演習する。									
到達目標	各タイプごとの特徴を理解し、タイプに沿った訓練を実施できる。									
学修者への期待等	演習を含む。実技は繰り返しの練習がすべてであるので、怠らずに行ってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	運動障害性構音障害の分類と特徴1（運動低下性構音障害）					1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）				
2	運動障害性構音障害の分類と特徴2（運動低下性の特徴と訓練）					配布物に目を通すこと（概ね30分）				
3	運動障害性構音障害の分類と特徴3（運動過多性）					1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）				
4	運動障害性構音障害の分類と特徴4（運動過多性の特徴と訓練）					1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）				
5	運動障害性構音障害の分類と特徴5（混合性）					1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）				
6	運動障害性構音障害の分類と特徴6（混合性の特徴と訓練）					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
7	発声発語器官の検査1（演習）呼吸に関わる検査					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
8	発声発語器官の検査2（演習）発声発語器官の範囲に関わる検査					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
9	発声発語器官の検査3（演習）発声発語器官の速さに関わる検査					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
10	発声発語器官の検査4（演習）発声発語器官の筋力に関わる検査					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
11	発声発語器官の検査5（演習）発声発語器官の反射・筋緊張に関わる検査					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
12	発声発語器官の検査6（演習）SLTA - STの演習と記録					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
13	異常構音のディクテーション グループワークを行う					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
14	検査結果の分析1 全体評価から読み取れる問題点の抽出					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				
15	検査結果の分析2 全体評価から読み取れる問題点のまとめ					テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）				

回	授業計画	準備学修
16	機能訓練法 1 機能訓練の意義と原則 痙性の障害 弛緩性の障害 演習	前回の復習（概ね30分）
17	機能訓練法 2 機能訓練の意義と原則 失調性の障害 運動低下性 運動過多性 演習	前回の復習（概ね30分）
18	機能訓練法 3 各器官の粗大運動の機能訓練 呼吸訓 練 演習	前回の復習（概ね30分）
19	機能訓練法 4 各器官の粗大運動の機能訓練 口唇 演習	前回の復習（概ね30分）
20	機能訓練法 5 各器官の粗大運動の機能訓練 下顎 演習	前回の復習（概ね30分）
21	機能訓練法 6 各器官の粗大運動の機能訓練 舌 演習	前回の復習（概ね30分）
22	機能訓練法 7 筋緊張のコントロール（手技）演習	前回の復習（概ね30分）
23	機能訓練法 8 構音動作訓練（破裂音、摩擦音） 演習	前回の復習（概ね30分）
24	機能訓練法 9 構音動作訓練（破擦音、鼻音、接近 音） 演習	前回の復習（概ね30分）
25	機能訓練法10 音の産生 演習	前回の復習（概ね30分）
26	発話訓練 1 統合般化 演習	前回の復習（概ね30分）
27	発話訓練 2 プロソディー訓練 演習	前回の復習（概ね30分）
28	発話訓練 3 発話速度の調節法 演習	前回の復習（概ね30分）
29	代償的手段の紹介 ノンテクとローテク 演習	前回の復習（概ね30分）
30	代償的手段の紹介 ローテクとハイテク 演習	前回の復習（概ね30分）
教科書	『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学（最新版）』城本 修、原 由紀 編 医学書院 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』廣瀬肇他著 医歯薬出版	
参考文献	『スピーチ・リハビリテーション第1巻～第5巻』 西尾正輝編 インテルナ出版	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDY-05					
		●	●								
科目名	吃音概論					単位認定者	藤島 省太		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内課題等		30 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度		20 %	
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	吃音とは、発話障害のひとつで、音のくりかえし(連発)、引き伸ばし(伸発)、言葉を出せずに間があく(難発、ブロック)など、流暢性に問題がある話し方のあるものを指す。本講義では、吃音の基礎的知識を得るとともに、原因論及び吃音の指導・訓練法(環境調整法、遊技療法、流暢性促進訓練など)について学修し、実践的能力の修得を目指す。										
到達目標	吃音の基礎的知識を得るとともに、吃音の諸相に応じた対処について説明ができるようになること。また、将来吃音のある方に遭遇した場合を想定して、言語聴覚士としてどのようなアドバイスや対処を行なうかを具体的に説明できるようになること。										
学修者への期待等	日頃から社会の動向を注視するとともに、身近な「ことば」に関する話題(音声言語・非音声言語、またヒトの言語・ヒト以外の動物の言語を問わず)について思索を深めておくこと。その上で、①「ヒトが話す」ということの意味は？②「ことば」にしよういがあるということはどういうことか？③言語聴覚士として『ことば』の仕事に携わる」際に、自分が何を大切に仕事をしなくてはならないか？ということを決えず自問自答してほしい。今年度は学修者との対話を積極的に採り入れていきたいと考えているので、自発的な発言を期待している。										
回	授業計画					準備学修					
1	吃音のアウトライン(「ヒトが『話す』という行為」の意味について。『吃音』とは何か？)					何故ヒトは「話すという行為」をするのか？話せることのメリット・デメリットについて事前に考えてくること。(約1時間)					
2	吃音の歴史(人類の歴史における吃音観の変遷について)					古代から現代にいたるまでの歴史の中で、吃音に関連する人物や出来事について学習しておくこと。(約1時間)					
3	吃音の諸相(『吃音』とはどのような状態か？)					一般的な「話しにくさ」と「吃音」という事象の違いについて考えておくこと。(約1時間)					
4	吃音の発生のメカニズム(吃音研究における原因に関する諸説)					ヒトはいつ・どのようなときに『吃音』という事象に遭遇するのかということについて考えておくこと。(約1時間)					
5	吃音の捉え方(吃音研究における鑑別・診断に関する諸説)					『吃音』がある」という場合の基準について、自分なりの判断基準を考えておくこと。(約1時間)					
6	幼児期の吃音の諸相①(幼児期の吃音とは)					乳幼児期の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。(約1時間)					
7	幼児期の吃音の諸相②(幼児期の吃音への具体的対処)					乳幼児期の発達過程において生じ得る言語やコミュニケーション上の問題について学習しておくこと。(約1時間)					
8	学童期の吃音の諸相①(学童期の吃音とは)					学童期の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。(約1時間)					
9	学童期の吃音の諸相②(学童期の吃音への具体的対処)					学童期の発達過程において生じ得る言語やコミュニケーション上の問題について学習しておくこと。(約1時間)					
10	中高生期の吃音の諸相					中高生期(思春期)の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。(約1時間)					
11	成人期の吃音の諸相					現代社会における成人期の人(社会人)がかかえる諸課題について、情報収集を行なっておくこと。(約1時間)					
12	セルフ・ヘルプについて					『セルフ・ヘルプ』とはどのような事象を指すのかや『セルフ・ヘルプ・グループ』成立の歴史的背景等について学習しておくこと。(約1時間)					
13	言友会について					吃音のある人の自助(セルフ・ヘルプ)グループである『言友会』について、インターネット等を通して情報収集しておくこと。(約1時間)					
14	言友会活動とセルフ・ヘルプ					自助(セルフ・ヘルプ)グループの活動として、『言友会』以外にどのようなものがあるかを情報集しておくこと。(約1時間)					
15	まとめ(吃音問題の今後の展望)					将来言語聴覚士として仕事をする場合、吃音のある方と接する際に大切にしたいと思うことや、どのような具体的なアドバイスや対処を行なうかなどを事前に考えておくこと。(約1時間)					
教科書	なし(随時資料を配布する)										
参考文献	・『吃音臨床入門講座；心理・医療・教育の視点から学ぶ』早坂菊子ほか 学苑社 ・『学齢期吃音の指導・支援 改訂第2版』小林宏明 学苑社 ・『吃音の基礎と臨床』バリーギター著、長澤泰子監訳 学苑社										
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教育相談業務、スーパー・バイズおよび吃音者のセルフ・ヘルプ・グループの立ち上げから運営まで長年携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-VDY-07				
		●	●	●						
科目名	摂食嚥下障害Ⅱ				単位 認定者	江畑 綾		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	対象者の問題を、摂食嚥下機能検査・食事場面の観察・診療情報・他部門情報など総合的・包括的にとらえる。さらに対象者の問題点を整理し、予後を見据えた訓練プログラムの立案が行えるよう理解を深める。そのために必要な訓練手技について、目的・方法・対象・注意点を、講義と演習を通して修得する。嚥下障害に対する手術的な治療法についても触れ、言語聴覚士が行う術後のリハビリテーションについて学ぶ。									
到達目標	対象者の問題を、総合的かつ包括的に抽出し、対象者に適した訓練プログラムを立案することができる。摂食嚥下障害の治療の知識、リハビリテーション手技を獲得する。									
学修者への期待等	各手技に対してリスク管理を行いながら、実施できる。そして、各病態を理解し、個々のケースに合わせて、代償法や訓練プログラムなどを立案し実施できることを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	嚥下に関連する筋の解剖、神経生理、メカニズムの復習					【事前・事後】テキストP10～28、65～109を読んでおくこと（概ね60分）				
2	嚥下機能評価①（嚥下造影検査・画像の評価）グループワーク					【事前・事後】関連配布資料、テキストP203～208を読むこと（概ね60分）				
3	嚥下機能評価②（嚥下内視鏡検査）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP208～212を読むこと（概ね60分）				
4	嚥下機能評価③（嚥下内視鏡検査・画像の評価）グループワーク					【事前・事後】関連配布資料、テキストP208～212を読むこと（概ね60分）				
5	嚥下機能評価④（その他の検査）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP213～216を読むこと（概ね60分）				
6	評価内容の解釈、訓練の考え方、組み立て					【事前・事後】関連配布資料、テキストP217～224を読むこと（概ね60分）				
7	間接練習①（口唇、舌、咀嚼筋の機能訓練）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
8	間接練習②（アイスマッサージ（咽頭、皮膚））					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
9	間接練習③（Pushing ex 嚥下体操）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
10	間接訓練④（嚥下反射誘発手技 ブローイング訓練 頭部拳上訓練）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
11	直接訓練①（直接訓練実施の留意点）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
12	直接訓練②（姿勢調整・介助法）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
13	直接訓練③（頸部回旋 頭頸部屈曲位）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
14	直接訓練④（交互嚥下 複数回嚥下 息こらえ嚥下）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				
15	直接訓練⑤（増粘剤入水分について）					【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）				

回	授業計画	準備学修
16	直接訓練⑤（嚥下食、段階的摂食訓練）	【事前・事後】関連配布資料、テキストP292～299を読むこと（概ね60分）
17	摂食・嚥下指導① （家族指導 患者・家族に対するカウンセリング）	【事前・事後】関連配布資料を読むこと（概ね60分）
18	摂食・嚥下指導② 高齢者嚥下障害の症状特徴と訓練実施時の注意点	【事前・事後】関連配布資料、テキストP99～104、338～346を読むこと（概ね60分）
19	摂食・嚥下障害の手術（手術式の紹介とその目的、適応）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
20	各疾患別対応方法①（脳血管疾患）	【事前・事後】関連配布資料、テキストP67～75、307～316を読むこと（概ね60分）
21	各疾患別対応方法②（神経筋疾患）	【事前・事後】関連配布資料、テキストP76～85、317～328を読むこと（概ね60分）
22	各疾患別対応方法③（器質性疾患）	【事前・事後】関連配布資料、テキストP86～93、329～337を読むこと（概ね60分）
23	各疾患別対応方法④（肺葉症候群、気管切開患者）	【事前・事後】関連配布資料、テキストP130～138を読むこと（概ね60分）
24	吸引について、呼吸リハビリテーションについて	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
25	症例検討①（脳血管疾患）	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
26	症例検討②（脳血管疾患）グループディスカッション1	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
27	症例検討③（脳血管疾患）グループディスカッション2	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
28	症例検討④（神経筋疾患）	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
29	症例検討⑤（神経筋疾患）グループディスカッション1	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
30	症例検討⑥（神経筋疾患）グループディスカッション2	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
教科書	『標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学』椎名英貴/倉智雅子編 医学書院	
参考文献		
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合があります。課題についてのフィードバックは、採点后、口頭や課題上に記載する形で行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-HDS-05				
		●		●						
科目名	補聴器・人工内耳				単位認定者	松谷 幸子 渡邊 弘人		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
					講義	授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	聴覚障害は生じる時期に必要な支援が異なる。聴覚障害児については精神発達を理解し、発話機能も含めた教育的配慮を学修する必要がある。補聴器と人工内耳の仕組みについて学修を進め、その臨床応用を学ぶ。具体的には、聴覚障害児・者、高齢者など使用する対象者を考慮し、補聴器・人工内耳を装着するまでの検査、評価の流れを学修し、装着を開始してからの必要な支援について理解を深める。									
到達目標	補聴器および人工内耳の仕組みとその臨床応用について理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が取り扱う専門領域の一つになる。聴覚障害領域の各講義との関連が深いので結び付けながら学習すること									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	聴覚障害とリハビリテーション。聴覚障害とは？リハビリテーションの概要と言語聴覚士の役割					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
2	聴覚スクリーニング 新生児聴覚スクリーニング、乳幼児健診					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
3	小児聴覚障害の検査と評価（1） 聴覚障害の評価の概要と検査の種類					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
4	小児聴覚障害の検査と評価（2） 乳幼児・学童の聴覚検査、言語・発達の評価					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
5	補聴器（1） 補聴器の仕組み 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
6	補聴器（2） 補聴器の適合 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
7	人工内耳（1） 人工内耳の仕組み					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
8	人工内耳（2） 人工内耳のマッピングとリハビリテーション					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
9	人工聴覚器 骨導インプラント、人工中耳、脳幹インプラントなど					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
10	小児聴覚障害の指導・訓練（1） 小児の発達と学習方法、プログラム立案					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
11	小児聴覚障害の指導・訓練（2） 乳児期、幼児期、学童期の指導 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
12	重複障害 視覚聴覚二重障害、重複障害の概要と評価・指導 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
13	拡大代替コミュニケーション 読話、キューサイン、指点字 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
14	成人聴覚障害の聴覚評価、管理 成人の選別聴力検査、評価、聴覚管理 適宜グループワークを行う					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			渡邊 弘人	
15	成人聴覚障害の特徴と支援、情報保障					関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。(120分)			松谷 幸子	
教科書	なし									
参考文献	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』第2版 中村 公枝 他著 医学書院 『言語聴覚士のための聴覚障害学』 喜多村健(編) 医歯薬出版									
備考	授業内課題は、採点后に返却し、フィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として、臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLT-02				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾 小松 有希		評価 の 方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位		学内評価： 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	135 時間			
					授業形態	実習	授業回数		- 回	
授業の概要	学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。 実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。									
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。									
授業計画										
1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月3週の間で3週 2. 実習の目的 学内において、言語聴覚障害の状態を把握するための評価方法などをグループワークなどを通じて学修を深める。実習施設において、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。 4. 実習計画 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。										
教科書	特に指定しない。									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-06				
		●		●						
科目名	神経の診かた				単位 認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	さまざまな症状を呈する脳・神経の病気は、症状の診かたを知らずにリハビリテーションを行うことはできない。脳・神経の病気によりどんな症状が出るか、その症状をどのように観察すれば良いか。どのような症状を見つければ脳・神経系のどこに、どんな病気があると分かるのかを知り、評価と訓練の立案につなげる。本講義では、運動機能、反射、感覚、脳神経、神経状態、不随意運動、意識障害を取り上げ、学生相互の演習を交えながら学修する。さらには、MRI、CTを読影する際のリハビリテーションに生かすポイントについて学修する。									
到達目標	主要な神経診察法を実演できる。									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い、グループワークで体験し、十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修				
1	神経解剖の総復習					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
2	脳画像の見方（大脳の脳葉、基底核、視床、脳幹の各部位の同定、脳画像の種類）					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
3	脳画像の見方（重要な脳回や構造の同定、病変の映り方）					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
4	脳神経の診かた（嗅神経・視神経）（講義、グループワーク、実技）					教科書8-15ページを読んでおくこと（30分程度）。				
5	脳神経の診かた（動眼神経・滑車神経・外転神経）（講義、グループワーク、実技）					教科書16-31ページを読んでおくこと（30分程度）。				
6	脳神経の診かた（三叉神経・顔面神経・内耳神経）（講義、グループワーク、実技）					教科書32-53ページを読んでおくこと（30分程度）。				
7	脳神経の診かた（舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）（講義、グループワーク、実技）					教科書54-61ページを読んでおくこと（30分程度）。				
8	病歴から分かること（グループワーク）					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
9	筋力・筋トウスの診かた（講義、グループワーク、実技）					教科書62-97ページを読んでおくこと（30分程度）。				
10	生理的反射の診かた（講義、グループワーク、実技）					教科書126-141ページを読んでおくこと（30分程度）。				
11	病的反射の診かた（講義、グループワーク、実技）					教科書126-141ページを再度、読んでおくこと（30分程度）。				
12	不随運動の診かた					教科書98-109ページを読んでおくこと（30分程度）。				
13	体性感覚の診かた（講義、グループワーク、実技）					教科書142-173ページを読んでおくこと（30分程度）。				
14	姿勢・歩行・平衡・協調運動の診かた（講義、グループワーク、実技）					教科書110-125, 174-189ページを読んでおくこと（30分程度）。				
15	総括					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
教科書	『改訂第3版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ』 鈴木 則宏編 メジカルビュー社									
参考文献										
備考	課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-S0C-07				
		●		●						
科目名	動作分析の基礎				単位認定者	櫻庭 ゆかり 中川 大介 小松 有希		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、身体運動を自然科学的観点から学修する。患者の動作を観察し、動作の遂行能力を調べることは臨床現場で大変重要だが、どこを見、どのように解釈し、どのようにプログラムにつなげるかを修得することは容易ではない。本講義では身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動を学び、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。さらに互いの運動観察や、動画を用いた対象者の運動分析を通し、結果を表現する能力を身につける。									
到達目標	それぞれの動作と動作分析のポイントが説明できる。観察する目を養い、自分で分析・考察する力を持つようになる。									
学修者への期待等	この講義の中では、自分で考えることや他者と話し合うことが多くあります。自分の意見を形にし、深いディスカッション・考察ができることを期待しています。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	動作分析の基本 身体重心とその分析 グループワークを含む					【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
2	床反力ベクトルと身体 グループワークを含む					【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
3	関節トルク・慣性の法則 グループワークを含む					【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
4	運動量と力積 グループワークを含む					【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
5	姿勢制御 グループワークを含む					【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
6	摂食嚥下の生理・解剖(復習)．食事姿勢、食事動作について① (適宜グループワークを行う)					【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介	
7	食事姿勢、食事動作について②(適宜グループワークを行う)					【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介	
8	食事姿勢の介入方法、評価 (適宜グループワークを行う)					【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介	
9	姿勢と嚥下評価と嚥下機能の分析① (適宜グループワークを行う)					【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介	
10	姿勢と嚥下評価と嚥下機能の分析② (適宜グループワークを行う)					【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介	
11	発声発語に関連する解剖と機能					【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)			小松 有希	
12	正常例の発声・発話時の分析①【観察・グループ発表】					【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)			小松 有希	
13	正常例の発声・発話時の分析②【評価・グループ発表】					【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約30分)			小松 有希	
14	症例の発声・発話時の分析①【観察・グループ発表】					【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約30分)			小松 有希	
15	症例の発声・発話時の分析②【評価・グループ発表】					【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約30分)			小松 有希	
教科書	『動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析』上杉雅之(監修)・西守隆(編著) (医歯薬出版)									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	口腔衛生論				単位認定者	中川 大介 江畑 綾 花渕 静		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	口腔の運動能力が低下している対象者は口腔衛生に大きな問題を抱える場合が多い。本講義では、生涯を通じて常在菌とのより良い共生関係を維持し健康に寿命を全うするために、口腔内の衛生状態と健康の関係について、さまざまなデータを通して知識を得る。さらにはその具体的な対策として、口腔ケアの演習を行う。口腔の感覚・運動機能の維持向上を担当する言語聴覚士が、口腔ケアの側面から知識と技術を持つことは重要である。医歯連携による口腔衛生の一翼を担う専門職として、その基礎を学ぶ。									
到達目標	言語聴覚士として、口腔衛生と健康の関係性や口腔清掃の目的を理解する。その知識をもとに評価を行い適切に対応ができるようになる。									
学修者への期待等	口腔内環境を整えることや医歯連携の重要性を理解し、患者に合わせて口腔ケア、対応できるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	口腔衛生学の定義、口腔保健について 口腔の機能（解剖、生理学）					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介	
2	全身状態との関連性（呼吸器感染症、心血管性疾患との関連性）					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介	
3	口腔衛生と摂食嚥下障害					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介	
4	成人の口腔機能評価					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介	
5	機能的口腔ケアとは					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介	
6	機能的口腔ケア（筋刺激法）					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
7	口腔の発育・発達と機能					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
8	小児の口腔評価・口腔清掃					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
9	乳幼児と口腔衛生（乳児の歯と口腔の疾病・異常）					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
10	学齢期の歯科疾患の現状と動向、学校保健に関係する人々					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
11	障がい者の口腔衛生					【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾	
12	各種口腔清掃用品（歯ブラシ／フロス／歯間ブラシ） 基礎知識 口腔清掃自習法					【事前】現在使用している口腔清掃用品の種類、購入理由などを調べておくこと（30分） 【事後】配布資料を復習すること（50分）			花渕 静	
13	特殊口腔清掃用品（舌ブラシ／タフトブラシ／スポンジブラシ）基礎知識 口腔清掃自習法								花渕 静	
14	口腔ケア演習（１）					【事前】シラバス１２回目・１３回目の授業プリントおよび各種口腔清掃用品の操作方法について復習しておくこと（30分） 【事後】配布資料を復習すること（40分）			花渕 静	
15	口腔ケア演習（２）								花渕 静	
教科書	教科書の指定は無し 配布資料、授業内で紹介する									
参考文献	『口腔衛生学 2020』 松久保 隆・八重垣 健他監修 一世出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修 高阪利美著 合場千佳子編 医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会著、編集 医歯薬出版株式会社									
備考	シラバス１２・１３回目、シラバス１４回目・１５回目を連続授業とし、８階歯科演習室使用する。 課題・小テストは、採点后に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として15年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●		●		ST-3-SOC-11					
科目名	保険診療・介護保険制度					単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 小松 有希 江畑 綾 佐々木 仁		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	日本の国民皆保険制度を維持する仕組みの中で重要な位置を占める診療報酬制度から、リハビリテーションの経済的側面について学ぶ。さらに、要介護・要支援に対する介護保険、児童福祉法を根拠法とした小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度、難病法による難病医療費助成制度についても学び、対象者を支える制度への理解を深める。										
到達目標	① 言語聴覚士が病院経営にどのように貢献しているかを理解し、業務へのやりがいを見出す。 ② 医療費のしくみ理解することにより、患者様に寄り添った対応につなげる。 ③ 暮らしに役立つ医療費のしくみと保険制度への理解。										
学修者への期待等	国試のためだけでなく、理解することで自分の暮らしを豊かにする知識も含まれています。自分が患者様やそのご家族になった場面をイメージしながら受講してください。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	障害者総合福祉法による自律支援給付と地域生活支援事業について 適宜グループワーク実施					【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人		
2	身体障害者福祉法による身体障害者手帳、身体障害者更生相談所の支援について 適宜グループワーク実施					【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人		
3	地域生活支援 【生活期リハビリテーションと地域生活支援】					【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾		
4	慢性疾患・難病患者における支援【リハビリテーション、難病医療費助成制度 など】					【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾		
5	地域包括ケアシステムと在宅医療					【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾		
6	高齢者の地域生活支援(1)【介護、施設サービスなど】					【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			小松 有希		
7	高齢者の地域生活支援(2)【訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション など】					【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			小松 有希		
8	小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度					【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			小松 有希		
9	介護保険の基本					【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
10	介護保険のしくみ					【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
11	介護保険のスタッフと事業所					【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
12	1. 医療費のしくみと診療報酬制度 2. 言語聴覚士の業務と診療報酬					【事後】配布資料を復習すること(30分程度)			佐々木 仁		
13	3. 診療報酬の改定と医療機関の経営 4. 医療機関による医療費の違い					【事後】配布資料を復習すること(30分程度)			佐々木 仁		
14	5. 医療保険の種類と医療費 6. 高額療養制度と保険外併用療養費					【事後】配布資料を復習すること(30分程度)			佐々木 仁		
15	7. 公費負担医療制度 8. 介護保険制度					【事後】配布資料を復習すること(30分程度)			佐々木 仁		
教科書	『世界一わかりやすい介護保険のきほんとしきみ 2024-2026年度版』イノウ著 ソシム										
参考文献											
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

言語聴覚学科

3年生

(2023年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 健康診断	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日
5月	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10
	11	12	13	14 臨床実習Ⅲ	15 臨床実習Ⅲ	16 臨床実習Ⅲ	17
	18	19 臨床実習Ⅲ	20 臨床実習Ⅲ	21 臨床実習Ⅲ	22 臨床実習Ⅲ	23 臨床実習Ⅲ	24
	25	26 臨床実習Ⅲ	27 臨床実習Ⅲ	28 臨床実習Ⅲ	29 臨床実習Ⅲ	30 臨床実習Ⅲ	31
6月	1	2 臨床実習Ⅲ	3 臨床実習Ⅲ	4 臨床実習Ⅲ	5 臨床実習Ⅲ	6 臨床実習Ⅲ	7
	8	9 臨床実習Ⅲ	10 臨床実習Ⅲ	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25 臨床実習Ⅳ	26 臨床実習Ⅳ	27 臨床実習Ⅳ	28
	29	30 臨床実習Ⅳ	1 臨床実習Ⅳ	2 臨床実習Ⅳ	3 臨床実習Ⅳ	4 臨床実習Ⅳ	5
7月	6	7 臨床実習Ⅳ	8 臨床実習Ⅳ	9 臨床実習Ⅳ	10 臨床実習Ⅳ	11 臨床実習Ⅳ	12
	13	14 海の日	15 臨床実習Ⅳ	16 臨床実習Ⅳ	17 臨床実習Ⅳ	18 臨床実習Ⅳ	19
	20	21 臨床実習Ⅳ	22 臨床実習Ⅳ	23 臨床実習Ⅳ	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
8月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 山の日	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21 不合格者発表	22	23
	24	25	26	27	28 再試験	29 再試験	30
	31	1	2	3	4	5	6
9月	8	8	9	10	11	12	13
	15	15 敬老の日	16	17	18	19	20
	22	22	23 秋分の日	24	25	26	27
	29	29	30				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 臨床次週Ⅰ	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 スポーツの日	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3 文化の日	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26	27	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17 定期試験	18 定期試験	19 定期試験	20
	21	22 定期試験	23 定期試験	24 追試験	25 追試験	26	27
	28	29	30	31	1 元旦	2	3
1月	4	5	6	7	8 不合格者発表	9	10
	11	12 成人の日	13	14	15 再試験	16 再試験	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11 建国記念日	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						ST-0-HCU-03				
	●	●		●						
科目名	基礎英会話				単位 認定者	相田 明子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題 （小テスト、 発表）等	40 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	言語聴覚療法の現場や国際学会、海外の講師を招いた研修会など、英会話が必要となる場面がある。本科目では、英語でのあいさつや、基本的な会話、医療場面における会話のモデルなど、ロールプレイを通してヒアリングとスピーチの能力を高める。									
到達目標	日常シーンから医療の現場まで、種々の場面で必要とされる基礎英会話力を養成する。 ゆっくりであれば、公共の場面で必要な英語を、聴いたり話したりすることが出来るようになる。 医療英語の基礎的な語彙や対話文を習得し、活用できるようになる。									
学修者への 期待等	毎回の授業に集中し、90分間のうちに問題を解決しましょう。グループ・ワークやロール・プレイなどの場面では、臆せず英語を声に出す姿勢を期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業のイントロダクション、英語での挨拶表現の復習Unit 1:電話での受診予約 単語① Body Parts					本シラバスを読む。英語での日常的な挨拶の表現について考えておく（概ね30分間）				
2	Unit 1の完成（リスニング・グループワーク） 単語①テスト 単語② Symtoms and Injuries					単語テストの準備、Unit1の和訳を完成させる（概ね60分間）				
3	Unit 2：病院への登録、既往歴 現在完了形の復習 単語②テスト					単語テストの準備、Unit2の指定された箇所について調べる（概ね60分間）				
4	Unit 2の完成（リスニング・グループワーク） 英語で問診票を書く 単語③Department					Unit2の和訳を完成させる、指定された練習問題を解く（概ね60分間）				
5	Unit 3:問診、医師による診察 単語③テスト					単語テストの準備、Unit3の指定された箇所について調べる（概ね60分間）				
6	Unit 3の完成（リスニング・グループワーク） 単語④薬の種類と関連語					Unit3の和訳を完成させる（概ね60分間）				
7	Unit 4：薬の服用、処方箋を読む（リスニング・グループワーク）単語テスト④					単語テストの準備、Unit4の指定された箇所について調べる（概ね60分間）				
8	Unit 8:術前・術後（リスニング・グループワーク）					Unit 8の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる（概ね60分間）				
9	Unit 10:清拭（リスニング・グループワーク）					Unit 10の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる（概ね60分間）				
10	Unit 11: リハビリ（リスニング・グループワーク）					Unit 11の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる（概ね60分間）				
教科書	Introduction to Medical English(医療英語入門)、稲富百合子、Dion Clingwall著 松柏社									
参考文献	教員が作成したプリントを配布する等、講義の都度提示する。									
備考	授業中はスマートフォンを使用しないこと。 授業開始10分以内までを遅刻とし、以降は欠席扱いとなりますが、小テスト受験などは認めます。 課題や小テストは、次の授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-0-HSC-03				
		●		●						
科目名	健康スポーツ学Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり		評価の 方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	健康増進や体力増進等に関する運動の効果とその方法について、データと生理学から学ぶ。また、生活習慣病と運動や食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などに関しても具体的に学んでいく。さらに、運動療法の背景として運動学習の基礎について学ぶ。またリズム運動や軽度な運動を自ら体験し、介護予防の場面で運動指導を行えるよう、留意点も踏まえて学修する。									
到達目標	運動の効果を理論的に理解し、説明ができる。また、介護予防の場面で適切な運動を提案できることを目標とする。									
学修者への 期待等	運動にかかわるセラピストの一人としての実感を持ってほしい。積極的な参加を望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	体液・血液とスポーツ グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
2	血液の成分と働き グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
3	ウェイトコントロール 身体組成 グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
4	減量と増量 グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
5	暑熱, 寒冷と運動 グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
6	高地とスポーツ グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
7	加齢に伴う身体機能の変化 グループ討議を含む					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
8	不活動に伴う身体諸機能の変化					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
9	介護予防と運動① 筋力・範囲・スピードトレーニング グループ討議による計画作成					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
10	介護予防と運動② 嚥下体操の実際 グループ活動					【受講後】学んだ内容の復習をすること (30分程度)				
教科書	1から学ぶスポーツ生理学 第3版 中里 浩一 ナップ									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PCL-03				
	●	●		●						
科目名	神経心理学				単位認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	大脳の構造（脳溝・脳回・脳葉とその細部）と機能について学ぶ。画像を撮影する装置（CT、MRI、SPECTなど）の特徴を知る。言語聴覚療法を行う上で、直面する頻度の高い、脳画像の読影の知識を修得する。正常例を基に水平断、冠状断、矢状断から部位を同定できるよう学ぶ。脳画像に関しては、各高次脳機能障害、各失語症に対応する画像の見方について学修し、実際の同定を行う。									
到達目標	リハビリテーション実施に必要な脳・神経の症状、症状の観察ポイント・観察方法、評価・分析、訓練、予後予測などにつなげるための考え方について理解を深める									
学修者への期待等	2年次に学んだ「神経の診かた」から各脳画像（CT、MRI）の特徴や各障害や症状がどのように現れるかを理解する。医療職として広い分野に関連する重要な科目である。しっかり復習して臨んでほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	中枢神経系の構造・機能①（大脳）適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
2	中枢神経系の構造・機能②（脳葉） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
3	中枢神経系の構造・機能③（間脳、視床など） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
4	中枢神経系の構造・機能④（大脳基底核など） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
5	中枢神経系の構造・機能⑤（大脳辺縁系など） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
6	小脳の構造・機能、脳神経（Ⅰ-Ⅵ） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
7	脳神経（Ⅶ-Ⅻ） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
8	脳血管（灌流域、走行） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
9	脳画像（1）CT、MRIの特徴 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
10	脳画像（2）水平断①（健常例の読影、病巣） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
11	脳画像（3）水平断②（病巣と症状） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
12	脳画像（4）冠状断①（健常例の読影、病巣） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
13	脳画像（5）冠状断②（病巣と症状） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
14	脳画像（6）矢状断①（健常例の読影、病巣） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
15	脳画像（7）矢状断①（病巣と症状） 適宜グループワークを行う					【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）				
教科書	『CD-ROMでレッスン 脳画像の読み方（最新版）』石原 健司著 医歯薬出版 『病気がみえるvol.7 脳と神経（最新版）』医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
参考文献										
備考	授業内で実施した課題については、採点后に返却し、フィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
言語聴覚士として、15年以上の臨床経験あり。										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-1-PCL-07				
科目名	心理学系総論				単位 認定者	渡邊 弘人 小松 有希		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト （中間）	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	心理学は行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は極めて多様であるために心理学の領域も広汎であり、多くのアプローチが存在する。言語聴覚士は心理的な葛藤や、脳損傷による知覚・認知・学習の困難、発達に問題を抱えるさまざまな年齢層の人々を担当する職業であることから、心理学の素養が欠かせない。生涯発達心理学や臨床心理学をはじめ、福祉心理学、高次脳機能の基盤となる脳の領域に踏み入った神経心理学、知覚、学習と記憶、思考、理解等を研究する認知心理学、さらには心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法を学ぶ心理測定法など、これまで学んできた心理学を包括的に概観し、それぞれのポイントと相互関連性について学修する。									
到達目標	心理学は多岐にわたる領域である。特に言語聴覚士が理解しておかなければならない生涯発達心理学、認知学習心理学、聴覚心理学、心理測定法などについて再度確認し、学修を深める。									
学修者への 期待等	国家試験にも出題される重要な分野であるため、1.2年生で学んだ本領域の知識を再確認し、理解を深めてほしい。									
回	授業計画					準備学修		担当		
1	認知学習心理学① 古典的条件付けと道具的条件付け 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
2	認知学習心理学② 学習と思考 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
3	認知学習心理学③ 知覚 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
4	認知学習心理学④ 記憶 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
5	聴覚心理学① 音の心理学単位 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
6	聴覚心理学② 音の心理的現象 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
7	心理測定法① 測定法 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
8	心理測定法② 尺度 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人		
9	生涯発達心理学① 研究法 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
10	生涯発達心理学② 研究法と新生児期 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
11	生涯発達心理学③ 幼児期・児童期 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
12	生涯発達心理学④ 青年期から老年期 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
13	臨床心理学① 心理検査 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
14	臨床心理学② 行動療法・認知行動療法 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
15	臨床心理学③ 心理療法 グループワーク・ディスカッション					国家試験過去問題を復習すること。 約60分		小松 有希		
教科書	『2026年版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』言語聴覚士国家試験対策委員会 大揚社 2025年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版									
参考文献										
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-LGS-02					
		●		●							
科目名	日本語文法学				単位認定者	阪口 慧		評価の方法	試験(筆記)	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	失語症や言語発達など、言語の障害と発達のリハビリテーションのために、日本語文法の理解は欠かせない。本講義では、言語学で学んだ統語論を、日本語に特化して学んでいく。言葉の単位として文章―段落―文―文節―単語を学び、文や文節の成分がどのように関わり合っているのかを学修する。品詞は、動詞（活用や種類を含む）、形容詞、形容動詞、名詞（代名詞）、副詞、連体詞、接続詞及び感動詞、さまざまな助動詞については、その意味や活用、接続の仕方を学修する。助詞は格助詞、接続助詞、副助詞及び終助詞の四種類に分類し、品詞の見分けがつきにくい語については、特にその判別の仕方を学ぶ。さらに敬語について、尊敬語、謙譲語及び丁寧語の三種の種類に分けて学んでいく。										
到達目標	日本語文法を中心に学習し、言語学、音声学の総体的な知識を習得する。										
学修者への期待等	・日本語を中心に日本語の文法、言語学的知識、音声学の知識を習得することを目指す。言語聴覚士国家試験で出題されるトピックを中心に、問題を解くために必要な言語学的・音声学の知識がどのようなものかを説明する。また、概念の理解度を確認するために、アクティブラーニングの一環としてペアワーク、グループワークを行うため、学修者には積極的な議論への参加を通して、言語学・音声学の理解度を高めることが期待される。 ・前回授業の復習と次回授業の予習、1～2年次で学習した内容の振り返りで60分程度の準備学修を期待する。										
回	授業計画					準備学修					
1	ガイダンス 言語聴覚士に必要な日本語文法・言語学・音声学の知識					(準備) 言語学・音声学に関して自身の苦手な箇所・トピックを確認する (60分程度)					
2	日本語の音声学・音韻論(1) (音素・異音)					(準備) 音素・異音に関して予習すること (60分程度)					
3	日本語の音声学・音韻論(2) (モーラ・音節)					(準備) モーラ・音節に関して予習すること (60分程度)					
4	日本語の音声学・音韻論(3) (アクセント)					(準備) アクセントに関して予習すること (60分程度)					
5	日本語の音声学・音韻論(4) (音韻現象)					(準備) 音韻現象に関して予習すること (60分程度)					
6	日本語の形態論・語構成(1) (形態素・複合語)					(準備) 形態素・複合語に関して予習すること (60分程度)					
7	日本語の形態論・語構成(2) (語構成のプロセス)					(準備) 語構成のプロセスに関して予習すること (60分程度)					
8	日本語の形態論・語構成(3) (品詞)					(準備) 品詞に関して予習すること (60分程度)					
9	日本語の文法(1) (活用・音便)					(準備) 活用・音便に関して予習すること (60分程度)					
10	日本語の文法(2) (助詞・節)					(準備) 助詞・節に関して予習すること (60分程度)					
11	日本語の文法(3) (敬語・正用と誤用)					(準備) 敬語・正用と誤用に関して予習すること (60分程度)					
12	言語学的知識の補完(1) (理論言語学・社会言語学)					(準備) 理論言語学・社会言語学に関して予習すること (60分程度)					
13	言語学的知識の補完(2) (認知言語学・カテゴリ)					(準備) 認知言語学・カテゴリに関して予習すること (60分程度)					
14	言語学的知識の補完(3) (言語学一般)					(準備) 言語学一般に関して予習すること (60分程度)					
15	全体総括と復習 (及び模擬試験解説と検討)					(準備) 模擬試験・国家試験で解けなかった問題を準備して授業時に質問できるようにしておくこと (60分程度)					
教科書	プリントにて対応										
参考文献	・言語学基本問題集 (佐久間淳一編 研究社) ・これから始める人のための入門書 言語学入門 (佐久間淳一・加藤重広・町田健 著 研究社)										
備考	授業の進度や学修者の理解状況で順序や内容を変更することがあります。 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LSG-03				
		●		●						
科目名	言語聴覚障害学総論				単位認定者	渡邊 弘人 中川 大介 小松 有希 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	実習を経て評価の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、その評価に必要な知識を総括する。本講義では、原疾患である神経疾患、呼吸器・循環器疾患、悪性新生物、遺伝子疾患などの病態理解とともに、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、構音障害の言語病理学的症状、聴覚障害や摂食嚥下障害について、検査法の基本的な名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施できる知識を横断的にとらえ直す。									
到達目標	言語聴覚士の専門領域について、臨床実習で経験した内容と知識を結び付け、理解を深める。									
学修者への期待等	患者、利用者から学ばせてもらったことを最大限活かせるよう、積極的に講義に臨んでもらいたい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	障害を引き起こす疾患① 脳血管障害 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
2	脳血管障害が引き起こす言語聴覚障害の概説 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
3	障害を引き起こす疾患② 神経変性疾患 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
4	神経変性疾患が引き起こす言語聴覚障害の概説 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
5	障害を引き起こす疾患③ 悪性新生物 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
6	悪性新生物が引き起こす運動系障害の概説 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
7	障害を引き起こす疾患④ 遺伝子疾患 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
8	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義① 実施方法について（適宜グループワーク・ディスカッション）					国家試験過去問題を復習しておくこと（60分）			小松 有希	
9	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義② 実施方法について（適宜グループワーク・ディスカッション）					国家試験過去問題を復習しておくこと（60分）			小松 有希	
10	言語発達障害に対する検査の名称と意義① 実施方法について（適宜グループワーク・ディスカッション）					国家試験過去問題を復習しておくこと（60分）			小松 有希	
11	言語発達障害に対する検査の名称と意義② 実施方法について（適宜グループワーク・ディスカッション）					国家試験過去問題を復習しておくこと（60分）			小松 有希	
12	言語発達障害に対する検査の名称と意義③ 実施方法について（適宜グループワーク・ディスカッション）					国家試験過去問題を復習しておくこと（60分）			小松 有希	
13	遺伝子疾患が引き起こす聴覚障害の概説と検査 適宜ディスカッションを行う					【事前】該当テキストを復習しておくこと（30分）			中川 大介	
14	発声発語に対する検査の名称と意義、実施方法（グループワーク、ディスカッション）					【事前】該当テキストを復習しておくこと（30分）			中川 大介	
15	嚥下障害に対する検査の名称と意義、実施方法（グループワーク、ディスカッション）					【事前】該当テキストを復習しておくこと（30分）			中川 大介	
教科書	なし									
参考文献	① 『言語聴覚士国家試験必修ポイント2025 ST専門科目』 医歯薬出版株式会社 ② 『言語聴覚士国家試験必修ポイント2025 ST基礎科目』 医歯薬出版株式会社									
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LSG-04				
		●		●						
科目名	言語聴覚障害学臨床応用				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	実習を経て訓練の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、訓練に必要な知識を総括する。本講義では、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、発声発語障害などの言語病理学的な症状や摂食嚥下障害について、対応し得る訓練法の名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施するための知識と手技をとらえ直す。									
到達目標	臨床実習で経験したリハビリテーション方法について、各専門領域ごと訓練法の知識と結び付け、理解を深める。									
学修者への期待等	臨床実習で学んだことを醸成するためには、積極的に学ぶ姿勢が大切である。国家試験にも関連する内容のため欠席せずに受講してもらいたい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	発声発語器官の解剖				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				櫻庭 ゆかり	
2	発声発語器官の神経				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				櫻庭 ゆかり	
3	発声発語器官の感覚				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				櫻庭 ゆかり	
4	発声発語器官の感覚・運動障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				櫻庭 ゆかり	
5	発声発語器官の運動障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				櫻庭 ゆかり	
6	聴覚障害の評価① 外耳・中耳 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
7	聴覚障害の評価② 内耳 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
8	聴覚障害の対応① 補聴器 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
9	聴覚障害の対応② 人工内耳 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
10	失語症① 病巣、症状 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
11	失語症② 検査・評価、分析、訓練 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
12	高次脳機能障害 病巣、症状 評価・検査、訓練 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				渡邊 弘人	
13	小児の発達 言語機能、運動、心理				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				江畑 綾	
14	言語発達遅滞① 疾病分類、病態				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				江畑 綾	
15	言語発達遅滞② 評価、分析、検査、訓練				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分				江畑 綾	
教科書	なし									
参考文献	『最新版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』 言語聴覚士国家試験対策委員会 編 大揚社									
備考	授業内課題は、採点后に返却し、フィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●		●		ST-2-AHB-02					
科目名	高次脳機能系総論					単位 認定者	平山 和美 櫻庭 ゆかり		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位				
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	「失語症概論」、「高次脳機能障害概論」、「失語症・高次脳機能障害Ⅰ」、「失語症・高次脳機能障害Ⅱ」で学修した各論的内容を総括する。高次脳機能障害は脳の病変によって生じる多様な障害である。これらの障害を呈することは、日常・社会的コミュニケーションを行う上で大きな影響を与え、QOLの低下に密接にかかわる。人の認知・行動と高次脳機能の関係について学修するとともに、それぞれの、あるいは合併した障害が対象者の生活にどのような弊害を及ぼすか、脳の局在も含めて総合的に理解する。										
到達目標	高次脳機能障害領域の症状や機序、評価法について説明できる。病態に応じたリハビリテーションを立案できる。										
学修者への期待等	各病態を大きな枠の中に整理し直して、よく理解することに務めてください。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	総論（基本的な考え方と注意点）					教科書第1章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
2	視覚認知の障害（対象認知）					教科書第17章から26章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
3	視覚認知の障害（空間、行為関わる認知）					教科書第27章から31章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
4	聴覚認知の障害					教科書第32章から37章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
5	体性感覚認知の障害					教科書第38章から43章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
6	身体意識・病態認知の障害					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				平山 和美	
7	行為の実行の障害					教科書第44章から51章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
8	行為の抑制の障害					教科書第52章から59章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
9	出来事記憶の障害					教科書第60章から61章および63章から68章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
10	言語性短期記憶・意味記憶、記憶障害の診察					教科書第62章および69章から72章を読んでおくこと（30分程度）				平山 和美	
11	器質的な疾患に伴う幻覚と錯覚					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				平山 和美	
12	器質的な疾患に伴う妄想					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				平山 和美	
13	前頭葉関連症状：感情・意欲・遂行機能の障害					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				平山 和美	
14	失語以外の高次脳機能障害の総括					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				平山 和美	
15	失語症の総括 適宜グループワークを行う					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				櫻庭 ゆかり	
教科書	「高次脳機能障害の理解と診察」 平山 和美編著 中外医学社										
参考文献	言語聴覚士国家試験 ST専門基礎科目 医歯薬出版										
備考	課題やレポートがある場合は、次の授業内でフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高次脳機能障害を中心とした医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果						科目ナンバリング													
1 基礎力						2 実践力		3 人間関係力		4 生涯学習力		5 地域理解力							
						●				●		●							
科目名						聴覚障害学総論				単位 認定者		渡邊 弘人		評価 の方法	試験（筆記）		70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科		必修		3 年		開講時期		後期		単位数		1 単位		小テスト （中間）		30 %		
											授業時間数		30 時間						
							授業形態		講義		授業回数		15 回						
授業の概要						各聴覚障害領域の総まとめとして、今まで学んできた各論をつなげて横断的に学修し、聴覚障害領域についての理解を深める。聴覚障害を引き起こす疾患が聴器のどの部分に影響を及ぼすのか、解剖学的、生理学的に理解を深める。特に伝音難聴や感音難聴では原因による症状が異なるため、聴器メカニズムの深い理解を要する。聴覚障害を補償するための方法として補聴器や人工内耳が挙げられるが、年代によって聴覚障害者への支援が異なるため、総合的な聴覚領域のリハビリテーション支援について理解を深めていく。													
到達目標						聴覚領域を理解するためには欠かすことのできない解剖生理と疾患を結び付けて理解を深める。													
学修者への 期待等						国家試験領域でもよく出題される領域なので復習をしっかりと行い、積極的に受講してほしい。													
回						授業計画						準備学修							
1						伝音機構① 外耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
2						伝音機構② 外耳の音響的效果 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
3						伝音機構③ 中耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
4						伝音機構④ 中耳の音響的效果 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
5						伝音機構⑤ 外耳・中耳の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
6						伝音機構⑥ 外耳・中耳の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
7						伝音機構⑦ 伝音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
8						感音機構① 内耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
9						感音機構② 内耳の音響的效果 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
10						感音機構③ 後迷路の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
11						感音機構④ 後迷路の音響的效果 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
12						感音機構⑤ 内耳・後迷路の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
13						感音機構⑥ 内耳・後迷路の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
14						感音機構⑦ 感音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
15						伝音難聴と感音難聴のまとめ 適宜ディスカッションを行う						関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分							
教科書						『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必修ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版													
参考文献																			
備考						授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う													

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果						科目ナンバリング															
1 基礎力						2 実践力		3 人間関係力		4 生涯学習力		5 地域理解力		ST-2-HDS-07							
						●				●											
科目名						音と聴力				単位 認定者		渡邊 弘人				評価の 方法	試験（筆記）		70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科				必修		3 年		開講時期		後期		単位数		1 単位		小テスト （中間）		30 %		
									<td colspan="2"></td> <th colspan="2">授業時間数</th> <td colspan="2">30 時間</td> <td colspan="2"></td>				授業時間数		30 時間						
									授業形態		講義		授業回数		15 回						
授業の概要																					
聴覚検査の構成は、音刺激を耳が受信し、その反応を計測することで得られる。すなわち音の性質と耳の性質の両方の特性を利用したものである。そのため両方の理解を深めることで臨床像の把握ができる。本講義では、外耳・中耳・内耳に音が入力されたときの増強作用と聴覚フィルタ理論、強音に対する防御作用、後迷路性で起こる音の周波数分析とカクテルパーティー効果、両耳聴効果などについての理解を深め、音と聴力を双方向的に総括する。																					
到達目標																					
聴覚機構の解剖生理と各種聴覚検査、聴覚心理学的現象との関係を明確にし、理解を深める。																					
学修者への期待等																					
国家試験にもよく出題される領域なので、積極的な受講を望む。																					
回																					
授業計画										準備学修											
1 純音聴力検査① 気道聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
2 純音聴力検査② 骨導聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
3 純音聴力検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
4 中耳機能検査① ティンパノメトリ検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
5 中耳機能検査② 耳小骨筋反射検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
6 中耳機能検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
7 内耳機能検査① SISI検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
8 内耳機能検査② ABLB検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
9 内耳機能検査③ 自記オージオメトリ検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
10 内耳機能検査と聴覚生理との関係～場所説と頻度説～ 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
11 内耳機能検査と聴覚生理との関係～聴覚フィルタ～ 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
12 聴性脳幹反応聴力検査の役割と意義 適宜ディス カッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
13 聴性定常反応聴力検査の役割と意義 適宜ディス カッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
14 聴覚機構の解剖生理と聴覚心理学的現象の関係 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
15 まとめ（重要ポイントの振り返り） 適宜ディスカッションを行う										関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分											
教科書																					
「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目」医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目」医歯薬出版																					
参考文献																					
備考																					
授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う																					

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLT-03				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾 小松 有希		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価： 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。									
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画										
1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 5月3週～6月4週の間で4週										
2. 実習の目的 学内において、グループワークを通じて、評価内容や訓練プログラムを深め、より良い訓練内容、支援について考察する。臨床施設においては、診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。										
3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。 2) 問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。 3) 長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。 4) 臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。 5) 治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。										
4. 実習計画 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 9) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。										
教科書	特に設定しない。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-2-CLT-04				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾 小松 有希		評価 の方法	臨床実習施設 評価	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。									
学修者への 期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。									
授業計画										
1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 6月5週～7月5週の間で4週 2. 実習の目的 「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、臨床実習施設では、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、学内において、症例報告作成及び発表・ディスカッションを通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。 2) 症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。 3) 臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。 4. 実習計画 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 再評価と再評価の考察を実施する。 9) 再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。 10) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 11) 実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。										
教科書	使用しない									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-02				
		●	●	●						
科目名	生命科学の基礎				単位認定者	渡邊 弘人 中村 裕子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト（中間）	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。									
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけながら学修する									
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということ深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
4	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
5	言語聴覚障害に関わる神経領域①（高次脳機能障害）（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
6	言語聴覚障害に関わる神経領域②（構音障害、嚥下系）（適宜ディスカッションを行う。）					関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
7	身体の役割① 循環関連（ペアワーク・ディスカッションを行う）					講義の内容について復習をすること（60分）			小松 有希	
8	身体の役割② 代謝について（ペアワーク・ディスカッションを行う）					講義の内容について復習をすること（60分）			小松 有希	
9	身体の役割③ 遺伝について（ペアワーク・ディスカッションを行う）					講義の内容について復習をすること（60分）			小松 有希	
10	解剖生理のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う）					講義の内容について復習をすること（60分）			小松 有希	
11	病理学のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う）					講義の内容について復習をすること（60分）			小松 有希	
12	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは？言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。					講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
13	職業倫理と倫理綱領 職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには					講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
14	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法 倫理的解決の原則					講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
15	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法－実習時に経験した事例を通して学ぶ					講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
教科書	①『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』藤田郁代他 編 医学書院 ②『言語聴覚障害療法シリーズ 改定 言語聴覚障害総論Ⅰ』倉内紀子 編著 建帛社									
参考文献	臨床家のための生命倫理学 中村裕子監訳 協同医書出版									
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-03				
		●		●						
科目名	口腔顔面の感覚・運動障害総論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 中川 大介		評価の方法	試験(筆記・ レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数 <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数 <td>15 回</td> <td></td> <td></td>		15 回	
授業の概要	実習を通して職務の理解が進んだ3年次に、口腔顔面の感覚・運動に関する総括を行う。口腔顔面の運動は自ら視認できない特徴を持つことから感覚への依存度が高いと言われている。解剖学、生理学を基礎として耳鼻咽喉科学、嚥下障害、運動障害性構音障害などの領域で縦断的に学んできた感覚運動障害を、神経学的側面、器質的側面、機能的側面から見つめ直し、横断的に総括する。									
到達目標	発声発語器官の特徴が説明でき、適切なリハビリテーションプログラムが立案できる、									
学修者への期待等	断片的に学んできた知識を、ここで総まとめとして整理してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	口腔顔面の神経機構 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
2	運動障害と構音障害 1 運動障害性構音障害の種類 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
3	運動障害と構音障害 2 運動障害性構音障害の評価と訓練 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
4	構音と発達① 機能性構音障害について グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
5	構音と発達② 機能性構音障害の評価と訓練 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
6	器質性構音障害① 器質性構音障害の種類 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
7	器質性構音障害② 器質性構音障害の手術と訓練 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
8	摂食嚥下障害① 正常の摂食嚥下機能 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
9	摂食嚥下障害② 摂食嚥下機能の評価 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
10	摂食嚥下障害③ 摂食嚥下機能の障害 グループ学習を含む				授業後、資料と問題を復習すること (30分)			櫻庭 ゆかり		
11	摂食嚥下障害④ 摂食嚥下機能の訓練 グループ学習を含む				【事後】資料を復習すること (30分)			中川 大介		
12	咽喉頭の筋・骨格の神経支配、感覚・運動				【事後】資料を復習すること (30分)			中川 大介		
13	咽喉頭の感覚・運動障害				【事後】資料を復習すること (30分)			中川 大介		
14	音声障害・運動障害性構音障害のリハビリテーション まとめ				【事後】資料を復習すること (30分)			中川 大介		
15	嚥下障害のリハビリテーション まとめ				【事後】資料を復習すること (30分)			中川 大介		
教科書	言語聴覚士国家試験 ST専門科目2025年 医歯薬出版社									
参考文献	『病気がみえるvol.7 脳と神経 (第2版)』医療情報科学研究所 編 メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-04				
		●		●	●					
科目名	地域リハビリテーション論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 江畑 綾	中川 大介 綾	評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	地域リハビリテーションとは障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動である。現在、国は「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」など複数の医療・福祉サービスが連携することで、誰もが安心して自立した暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。これは先に述べた地域リハビリテーションを包含し、その理念や目標は共通していると言ってよい。本講義では、先に学んだリハビリテーション論を基礎として、地域包括ケアシステムのなかで言語聴覚士に求められる役割、マネジメントについて学修する。									
到達目標	障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動と支援システムについて学修する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の専門性を活かした活動が日々広がりを見せている。視野を広く持った活動が臨床現場で求められている。臨床に向けて大変重要な内容となるため、積極的な受講を望む。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	地域リハビリテーションとは何か 適宜グループ討議を行う					関連資料を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり	
2	地域包括ケアシステムについて 適宜グループ討議を行う					関連資料を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり	
3	地域の支援事業について 適宜グループ討議を行う					関連資料を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり	
4	自立支援推進について 適宜グループ討議を行う					関連資料を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり	
5	地域における言語聴覚士の役割 適宜グループ討議を行う					関連資料を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり	
6	地域リハビリテーションにおける機能評価 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
7	地域リハビリテーションにおけるADLとその評価 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
8	地域リハビリテーションにおけるADLと言語聴覚障害適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
9	地域包括ケアシステムと言語聴覚療法 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
10	地域包括ケアシステムと言語聴覚療法のICF 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
11	訪問リハビリテーションの動向(適宜ディスカッションを行う)					【事後】資料を復習しておくこと(30分)			中川 大介	
12	原因疾患や病期による対応の仕方(適宜ディスカッションを行う)					【事後】資料を復習しておくこと(30分)			中川 大介	
13	地域リハビリテーションにおける摂食嚥下障害者とのかわり方(適宜ディスカッションを行う)					【事後】資料を復習しておくこと(30分)			中川 大介	
14	地域リハビリテーションにおける高次脳機能障害者とのかわり方(適宜ディスカッションを行う)					【事後】資料を復習しておくこと(30分)			中川 大介	
15	地域リハビリテーションにおける失語症者へのかわり方(適宜ディスカッションを行う)					【事後】資料を復習しておくこと(30分)			中川 大介	
教科書	なし									
参考文献										
備考	課題・小テストは、採点後に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

						科目ナンバリング	
						ST-3-SOC-05	
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力		
		●		●			
科目名	認知症のリハビリテーション				単位 認定者	江畑 綾 中村 裕子	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間
						授業回数	15 回
授業の概要	これまで高次脳機能障害をはじめとする失語・高次脳機能障害学の一分野として学修してきた認知症の症状は、複合的で複雑である。また、一般的な検査バッテリーを遂行できず、行動観察による評価が重視される場合も多い。実習を通して総合的な視点を持つことの重要性を経験した3年次において、認知症を独立して扱い、認知症の定義・原因疾患・症状・評価・訓練をはじめ、言語聴覚士としての支援や家族への情報伝達の方法を学修する。						
到達目標	言語聴覚領域において、認知症の定義、原因疾患、評価、訓練をはじめ、関わり方や家族指導の方法などを身に付ける。						
学修者への期待等	少子高齢化が進む世界情勢のもと、今後ますます増えていくと考えられる認知症者、及びそのご家族様への適切な支援や助言は何かを考える。また、随時、事例を紹介していく。						
回	授業計画				準備学修		担当
1	認知症の概念・定義・医学的診断手順				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP214-220		江畑 綾
2	認知症の症状、MCIについて				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP215-225		江畑 綾
3	アルツハイマー病、血管性認知症				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP215-225		江畑 綾
4	レビー小体型認知症、前頭側頭型変性症				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP215-225		江畑 綾
5	認知症の評価とリハビリテーション				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP228-245		江畑 綾
6	認知症リハビリテーションと認知症の特異性				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
7	従来の認知症の定義と新たな定義（DSM5版）の理解				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
8	認知症に認める「中核症状」の特徴と生活困難への影響（具体的状況）				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
9	認知症リハビリテーションに与える「中核症状」の影響と残存機能の評価				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
10	BPSD（行動心理症状）発現の原因と症状の理解				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
11	BPSD症状発現の予防と認知症リハビリテーションの関係				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
12	認知症リハビリテーションの現状と限界				【事後】講義内容について1時間復習すること		中村 裕子
13	老年期の様々な障害と認知症（グループワーク）				講義の内容について復習をすること (60分)		江畑 綾
14	高齢者の心身の加齢変化（グループワーク）				講義の内容について復習をすること (60分)		江畑 綾
15	社会環境・資源				講義の内容について復習をすること (60分)医学書院テキストP246-247		江畑 綾
教科書	『認知症ケア実践学』 中村裕子著（2023）中央法規出版 標準言語聴覚障害学『高次脳機能障害学』第3版 編集 阿部晶子 吉村貴子 医学書院						
参考文献							
備考	課題・小テストは、採点后に返却し、フィードバックを行う。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	疾病論				単位認定者	渡邊 弘人 江畑 綾		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト （中間）	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	各疾患の特徴から疾病の成り立ちや治療までをより深く理解することに重点を置く。これまで学修してきた基礎医学及び臨床医学、リハビリテーション概論、言語聴覚障害学と本講義を総合的・体系的に学ぶことにより、個々の対象者に適したリハビリテーションの選択ができる言語聴覚士を目指す。本講義では、臨床の現場で出会うことの多い循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢・末梢神経疾患、自己免疫疾患について、言語聴覚士がリハビリテーションを行う際に考慮すべき事柄、さらには支援について考える。									
到達目標	各種疾患と言語聴覚障害との関係を明確にし、理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が対峙する患者、利用者は少なからず合併症を有している。時には合併症がリハビリテーションに影響することもあるため、臨床で大変重要な知識である。ぜひ積極敵に受講してもらいたい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	腎臓、泌尿器の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
2	内分泌・代謝疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
3	自己免疫疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
4	循環器疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
5	言語聴覚障害と各種内科的疾患の関係 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
6	神経系の解剖・生理、神経学的検査					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
7	神経症候学（意識、脳神経系、運動系、感覚系、反射、髄膜刺激症候）					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
8	臨床神経学各論 1 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、中枢神経系感染症					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
9	臨床神経学各論 2 神経変性疾患、認知症、水頭症、脱髄疾患					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
10	臨床神経学各論 3 末梢神経障害、筋疾患および神経筋接合部疾患、代謝性疾患、その他疾患					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
11	循環器疾患① 心疾患について 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
12	循環器疾患② 脳血管疾患について 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
13	呼吸器疾患① 肺がん COPD 肺炎 など 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
14	呼吸器疾患② 呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群など 適宜ディスカッションを行う					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
15	消化器疾患 食道炎、胃・十二指腸潰瘍・胃炎・過敏性腸症候群					関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾	
教科書	『2026年版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』言語聴覚士国家試験対策委員会 大揚社 2025年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版									
参考文献										
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-10				
		●		●						
科目名	リハビリテーション栄養学				単位 認定者	鈴木 裕一 江畑 綾		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	栄養とは、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。人は適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。摂食嚥下障害を担当する専門職の一つとして、言語聴覚士には栄養とその障害に関する理解と、結果としての飢餓やフレイル、サルコペニアの理解が求められる。本講義では、栄養に関する基礎事項と栄養障害の理解、さらには、栄養状態の適正な評価及び栄養不良時の適正なリハビリテーションプログラムについて学んでいく。									
到達目標	栄養、栄養障害の基礎、栄養障害がきたす対象者への影響を理解し、リハビリテーションへ繋がられる。									
学修者への期待等	対象者の栄養、栄養障害を評価ができるようになり、リハビリテーションプログラムを立案、実施できることを期待します。また、栄養チームの他、他職種とも対象者の栄養状態・対策についてできるように知識を身につけてほしいです。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	STにおける栄養知識の重要性、栄養と栄養素				小テスト（１）：栄養の基礎知識、に対する準備をすること（週１回２時間程度）				鈴木 裕一	
2	エネルギー産生の仕組み								鈴木 裕一	
3	糖質の栄養								鈴木 裕一	
4	脂質の栄養								鈴木 裕一	
5	タンパク質・アミノ酸の栄養								鈴木 裕一	
6	三大栄養素の相互関係				小テスト（２）：食の基礎知識、に対する準備をすること（週１回２時間程度）				鈴木 裕一	
7	ビタミンの栄養								鈴木 裕一	
8	ミネラルの栄養								鈴木 裕一	
9	機能性成分								鈴木 裕一	
10	味覚・嗅覚、食欲								鈴木 裕一	
11	リハビリテーションと栄養 適宜ディスカッションを行う				小テスト（３）：リハビリテーション栄養、に対する準備をすること（週１回２時間程度）				江畑 綾	
12	栄養ケアプロセス 適宜ディスカッションを行う								江畑 綾	
13	低栄養と栄養管理 適宜ディスカッションを行う								江畑 綾	
14	フレイル/サルコペニアと栄養管理 適宜ディスカッションを行う								江畑 綾	
15	摂食・嚥下障害と栄養管理 適宜ディスカッションを行う								江畑 綾	
教科書	特に指定しない									
参考文献										
備考	毎回講義資料を渡す。また講義の初めに、前回の講義の復習問題を解いてもらう。課題・小テストは、採点后に返却し、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床経験５年以上あり

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-S0C-12					
		●		●							
科目名	視覚言語論				単位 認定者	山本 はづき		評価 の方法	試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科		選択	3 年	開講時期	後期	単位数		1 単位		
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
							授業回数		15 回		
授業の概要	通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」による言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。一般によく使われる手段に手話がある。より多くのコミュニケーション手段を駆使し、提案できるという意味で、言語聴覚士が手話を理解できることには意義がある。本講義では手話による基本的な挨拶と日常的表現を学ぶ。										
到達目標	①手話を通して聴覚障害者についての理解を深める、②基礎的な手話表現を学ぶ、 ③聴覚障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ										
学修者への 期待等	前半は座学と手話演習を行います。手話演習では手技能検定5級程度の手話を取り扱っていきたいと 思います。 後半の演習ではSLTAやS-S法を聴覚障害者へ実施すると仮定して手話及びその他の手段での伝達の仕方を 実際に考えていただきたいと思います。										
回	授業計画					準備学修					
1	座学：手話とは 手話演習：名前					シラバスをご確認ください。					
2	座学：ろう教育の歴史 手話演習：基本的な手話表現					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
3	座学：きこえのはたらきとしくみ 手話演習：あいさつ					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
4	座学：難聴の種類と程度 手話演習：数字					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
5	座学：補聴器と人工内耳 手話演習：動詞					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
6	座学：人工内耳のマッピング 手話演習：形容詞					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
7	座学：聴覚障害と遺伝子 手話演習：病院で使える手話					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
8	座学：聴覚障害者とのコミュニケーション 手話演習：小児施設等で使える手話					前回の手話演習の内容をご確認ください。					
9	演習「SLTA①」										
10	演習「SLTA②」					演習課題の提出をお願いします。					
11	演習「SLTA③」					演習課題の提出をお願いします。					
12	質疑応答 演習「S-S法①」										
13	演習「S-S法②」					演習課題の提出をお願いします。					
14	演習「S-S法③」					演習課題の提出をお願いします。					
15	質疑応答 当事者へのインタビュー										
教科書	なし										
参考文献	中村公枝：標準言語聴覚障害学 聴覚障害 医学書院 山田弘幸：言語聴覚療法シリーズ⑤ 改定聴覚障害Ⅰ―基礎編 建帛社										
備考	オンデマンドのためリアルタイムでの質疑応答ができません。 座学内容については12回目に質疑応答の時間を設けます。いただいたご質問はそちらで回答します。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		ST-3-SOC-13				
科目名	補綴・補装具論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 小松 有希 中川 大介 高橋 慧		評価 の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。									
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。									
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	補綴について 補綴とはなにか				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり		
2	義歯の適合、顔面補綴について				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり		
3	顎義歯・軟口蓋挙上装置など				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭 ゆかり		
4	聴覚補償システム① 補聴器のフィッティング 適宜グループワークを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
5	聴覚補償システム② 各種補聴器の機能とその適応 適宜グループワークを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
6	聴覚補償システム③ 人工内耳マッピング 適宜グループワークを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
7	乳幼児の補綴・装用の必要性とは				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分			小松 有希		
8	乳幼児の補綴・装用 Hotz床・スピーチエイド等				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分			小松 有希		
9	補装具と構音障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分			小松 有希		
10	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介		
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介		
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介		
13	義肢・装具① 基本構造・分類（ディスカッション・ペアワーク含む）				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧		
14	義肢・装具② 歩行補助具、車椅子（ディスカッション・ペアワーク含む）				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧		
15	義肢・装具③ 介助方法、リハビリテーション、指導（ディスカッション・ペアワーク含む）				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧		
教科書	なし									
参考文献										
備考	授業内課題は、採点后に返却しフィードバックを行う									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-14				
	●	●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義 I				単位 認定者	渡邊 弘人 小松 有希 中川 大介 江畑 綾 須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。 専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。									
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める									
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	医学総論					STテキストP2～7、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
2	解剖学・生理学 運動器系・循環器系					STテキストP8～14、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
3	解剖学・生理学 呼吸器系・消化器系 内分泌系					STテキストP14～27、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
4	解剖学・生理学 神経系・感覚系					STテキストP29～36、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
5	病理学 炎症、遺伝、免疫					STテキストP37～43、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
6	内科学 循環器疾患 など					STテキストP45～55、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
7	内科学 呼吸器疾患 など					STテキストP45～55、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
8	小児科学 小児神経疾患、神経筋疾患					STテキストP56～69、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
9	精神医学					STテキストP70～79、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
10	リハビリテーション医学					STテキストP80～85、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
11	耳鼻咽喉科学 耳科学 適宜グループワークを行う					STテキストP86～90、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			渡邊 弘人	
12	耳鼻咽喉科学 口腔・咽頭科学					STテキストP93～102、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
13	耳鼻咽喉科学 喉頭科学、気道食道科学					STテキストP93～102、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			江畑 綾	
14	臨床神経学 神経系の解剖・生理					STテキストP103～108、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	
15	臨床神経学 神経学的検査 神経症候学					STテキストP103～110、国家試験問題を復習すること（概ね60分）			中川 大介	

回	授業計画	準備学修	担当
16	臨床神経学 脳血管障害など	STテキストP110～123、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川 大介
17	形成外科学 口唇・口蓋裂	STテキストP124～133、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川 大介
18	臨床歯科医学、口腔外科学	STテキストP134～143、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑 綾
19	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)(視覚、記憶の効果) 適宜グループワークを行う	STテキストP146～154、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	渡邊 弘人
20	臨床心理学	STテキストP155～159、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑 綾
21	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	STテキストP160～167、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松 有希
22	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	STテキストP160～167、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松 有希
23	心理測定法	STテキストP168～172、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松 有希
24	言語学；言語構造，意味論など	STテキストP174～189、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑 綾
25	音声学	STテキストP190～202、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑 綾
26	音響学	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
27	聴覚心理学 適宜グループワークを行う	STテキストP213～218、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	渡邊 弘人
28	言語発達学	STテキストP219～224、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松 有希
29	言語発達学(学童期期)のまとめ	STテキストP219～224、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松 有希
30	教育制度関連	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版 『2026年版 言語聴覚士国家試験過去3年間の問題と解説』大揚社 2025年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』 医歯薬出版 編著大森孝一		
参考文献			
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-15			
		●	●	●	●				

科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 小松 有希 江畑 綾 平山 和美 野口 美雪 須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	講義	授業回数	30 回			

授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解すべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。									
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。									
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。									

回	授業計画	準備学修	担当
1	言語聴覚障害学総論	STテキストP251～258、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭 ゆかり
2	失語症 症状とメカニズム	STテキストP259～273、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
3	失語症 評価と訓練	STテキストP259～273、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
4	高次脳機能障害 症状とメカニズム	STテキストP275～290、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
5	高次脳機能障害 評価と訓練	STテキストP275～290、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
6	脳画像の見方（大脳の脳葉、基底核、視床、脳幹の各部位の同定、脳画像の種類）。	事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。	平山 和美
7	脳画像の見方（重要な脳回や構造の同定、病変の映り方）ご入力ください。	事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。	平山 和美
8	言語発達障害 病態、検査法（言語機能検査）	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松 有希
9	言語発達障害 検査法（発達検査、知能検査）	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松 有希
10	言語発達障害 訓練法(言語発達遅滞訓練)	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松 有希
11	言語発達障害 訓練法(指導・支援)	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松 有希
12	成人聴覚検査 適宜グループワークを行う	STテキストP319～328、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊 弘人
13	小児聴覚検査 適宜グループワークを行う	STテキストP328～331、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊 弘人
14	補聴器人工内耳 適宜グループワークを行う	STテキストP332～348、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊 弘人
15	視覚聴覚二重障害	STテキストP349～364、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松 有希

回	授業計画	準備学修	担当
16	機能性・器質性構音障害	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
17	吃音	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
18	発達障害（全般）	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
19	学習障害	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
20	ADHD	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
21	ASD	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川 芳夫
22	音声障害	STテキストP365～376、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭 ゆかり
23	運動障害性構音障害 タイプ分類と特徴	STテキストP386～391、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭 ゆかり
24	運動障害性構音障害 タイプ分類と訓練法	STテキストP386～391、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭 ゆかり
25	摂食嚥下障害 メカニズム	STテキストP404～418、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
26	摂食嚥下障害 評価・訓練	STテキストP404～418、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑 綾
27	社会福祉関係法規① 社会福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
28	社会福祉関係法規② 生活保護法、児童福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
29	社会福祉関係法規③ 老人福祉法 介護保険法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
30	社会福祉関係法規④ 障害者総合支援法、精神保健福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版 『2026年版 言語聴覚士国家試験過去3年間の問題と解説』大揚社 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 編著大森孝一		
参考文献			
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

言語聴覚学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員の科目一覧

言語聴覚学科のナンバリングの見方（2024年度以前入学生科目ナンバリング）

【例】ST-1-〇〇〇-01

ST	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

言語聴覚学科：ST

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門独自科目：3

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	BAM	Basic Medicine
		臨床医学	CLM	Clinical Medicine
		臨床歯科医学	CLD	Clinical Dentistry
		音声・言語・聴覚医学	SLH	Speech, Language, Hearing Medicine
		心理学	PCL	Psychology
		言語学	LGS	Linguistics
		音声学	PNT	Phonetics
		音響学	ACS	Acoustics
		言語発達学	LDS	Language Development Studies
		社会福祉・教育	SWE	Social Welfare and Education
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	LHD	Language Hearing Disability Studies General
		失語症・高次脳機能障害学	AHB	Aphasia, Higher Brain Function Disability Studies
		言語発達障害学	LDS	Language Development Disability Studies

分野 専門教育	専門科目展開	発声発語・嚥下障害学	VDY	Vocalization and Dysphagia
		聴覚障害学	HDS	Hearing Disability Studies
		臨床実習	CLT	Clinical Training
	専門独自科目		SOC	Specialized Original Course

④ 連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	CO-0-HCU-01	
			英語Ⅰ	CO-0-HCU-02	
			英語Ⅱ	ST-0-HCU-01	
			英文抄読	ST-0-HCU-02	
			基礎英会話	ST-0-HCU-03	
			歴史と文化	CO-0-HCU-03	
	人間と社会		現代の社会	CO-0-HSO-03	
			暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02	
			大学生活論	CO-0-HSO-01	
	人間と科学		情報処理	CO-0-HSC-01	
			統計学	ST-0-HSC-01	
			健康スポーツ学Ⅰ	ST-0-HSC-02	
			健康スポーツ学Ⅱ	ST-0-HSC-03	
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学		医学概論	ST-1-BAM-01
				病理学	ST-1-BAM-02
				解剖学	ST-1-BAM-03
				生理学	ST-1-BAM-04
		臨床医学		内科学	ST-1-CLM-01
				臨床神経学	ST-1-CLM-02
				小児科学	ST-1-CLM-03
				精神医学	ST-1-CLM-04

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門支持科目	臨床医学	リハビリテーション医学	ST-1-CLM-05
			耳鼻咽喉科学	ST-1-CLM-06
			形成外科学	ST-1-CLM-07
		臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	ST-1-CLD-01
		音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-01
			聴覚系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-02
			神経系の構造・機能・病態	ST-1-SLM-03
		心理学	臨床心理学	ST-1-PCL-01
			生涯発達心理学	ST-1-PCL-02
			神経心理学	ST-1-PCL-03
			心理測定法	ST-1-PCL-04
			福祉心理学	ST-1-PCL-05
			認知・学習心理学	ST-1-PCL-06
			心理学系総論	ST-1-PCL-07
		言語学	言語学	ST-1-LGS-01
			日本語文法学	ST-1-LGS-02
		音声学	音声学	ST-1-PNT-01
			音声表記・分析学	ST-1-PNT-02
		音響学	音響学	ST-1-ACS-01
			聴覚心理学	ST-1-ACS-02
		言語発達学	言語発達学	ST-1-LDS-01
		社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	ST-1-SWE-01
			リハビリテーション論	ST-1-SWE-02
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	ST-2-LSG-01
			言語聴覚障害診断学	ST-2-LSG-02
			言語聴覚障害学総論	ST-2-LSG-03
			言語聴覚障害学臨床応用	ST-2-LSG-04
		失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	ST-2-AHB-01
			高次脳機能障害概論	ST-2-AHB-02
			失語症・高次脳機能障害Ⅰ	ST-2-AHB-03
			失語症・高次脳機能障害Ⅱ	ST-2-AHB-04
			高次脳機能系総論	ST-2-AHB-05
		言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	ST-2-LDS-01
			言語発達障害Ⅱ	ST-2-LDS-02
			脳性麻痺・運動発達の障害	ST-2-LDS-03
			学習障害・発達障害	ST-2-LDS-04
			拡大・代替コミュニケーション	ST-2-LDS-05

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	発声発語・嚥下障害学	音声障害	ST-2-VDY-01
			器質性・機能的構音障害	ST-2-VDY-02
			運動障害性構音障害Ⅰ	ST-2-VDY-03
			運動障害性構音障害Ⅱ	ST-2-VDY-04
		発声発語・嚥下障害学	吃音概論	ST-2-VDY-05
			摂食嚥下障害Ⅰ	ST-2-VDY-06
			摂食嚥下障害Ⅱ	ST-2-VDY-07
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	ST-2-HDS-01
			聴能・発語訓練演習	ST-2-HDS-02
			聴力検査	ST-2-HDS-03
			視覚聴覚二重障害・重複障害	ST-2-HDS-04
			補聴器・人工内耳	ST-2-HDS-05
			聴覚障害学総論	ST-2-HDS-06
			音と聴力	ST-2-HDS-07
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	ST-2-CLT-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ST-2-CLT-02
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	ST-2-CLT-03
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	ST-2-CLT-04
	専門独自科目		自然科学概論	ST-3-SOC-01
			生命科学の基礎	ST-3-SOC-02
			口腔顔面の感覚・運動障害総論	ST-3-SOC-03
			地域リハビリテーション論	ST-3-SOC-04
			認知症のリハビリテーション	ST-3-SOC-05
			神経の診かた	ST-3-SOC-06
			動作分析の基礎	ST-3-SOC-07
			疾病論	ST-3-SOC-08
			口腔衛生論	ST-3-SOC-09
			リハビリテーション栄養学	ST-3-SOC-10
			保険診療・介護保険制度	ST-3-SOC-11
			視覚言語論	ST-3-SOC-12
			補綴・補装具論	ST-3-SOC-13
			言語聴覚学特別講義Ⅰ	ST-3-SOC-14
			言語聴覚学特別講義Ⅱ	ST-3-SOC-15

言語聴覚学科のナンバリングの見方（2025年度以降入学生科目ナンバリング）

【例】ST-1-〇〇〇-01

ST	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

言語聴覚学科：ST

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門独自科目：3

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の仕組み・ 疾病と治療	HDT	Human Body Systems, Disease and Treatment
		心の働き	WOM	Working of the Mind
		言語とコミュニケーション	LAC	Language and Communication
		社会保障・教育と リハビリテーション	SER	Social Welfare, Education and Rehabilitation
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	LHD	Language Hearing Disability Studies General
		言語聴覚療法管理学	LHM	Language Hearing Therapy Management Studies
		失語・高次脳機能障害学	AHB	Aphasia, Higher Brain Function Disability Studies
		言語発達障害学	LDS	Language Development Disability Studies
		発声発語・摂食嚥下障害学	VDS	Vocalization and Dysphagia Studies

		聴覚障害学	HDS	Hearing Disability Studies
		地域言語聴覚療法学	CLH	Community Language Hearing Therapy Studies
		臨床実習	CLT	Clinical Training
	専門独自科目		SOC	Specialized Original Course

④ 連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	人間関係論	ST-0-HCU-01
		英語	CO-0-HCU-02
		日本語表現法	CO-0-HCU-01
		歴史と文化	ST-0-HCU-02
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
		学習の基礎	ST-0-HSO-01
		倫理学	ST-0-HSO-02
	人間と科学	統計と疫学	ST-0-HSC-01
		数理リテラシー	CO-0-HSC-02
		情報処理	CO-0-HSC-01
		自然科学概論	ST-0-HSC-02
専門教育分野	専門支持科目	医療概論	ST-1-HDT-01
		病理学	ST-1-HDT-02
		解剖・生理学	ST-1-HDT-03
		内科学	ST-1-HDT-04
		栄養学	ST-1-HDT-05
		臨床神経学	ST-1-HDT-06
		小児科学	ST-1-HDT-07
		精神医学	ST-1-HDT-08
		リハビリテーション医学	ST-1-HDT-09

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門支持科目	人体の仕組み・ 疾病と治療	耳鼻咽喉科学	ST-1-HDT-10
			形成外科学	ST-1-HDT-11
			臨床歯科医学・口腔外科学	ST-1-HDT-12
			呼吸発声発語系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-13
			聴覚系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-14
			神経系の構造・機能・病態	ST-1-HDT-15
		心の働き	臨床心理学	ST-1-WOM-01
			心理学	ST-1-WOM-02
			生涯発達心理学	ST-1-WOM-03
			聴覚心理学	ST-1-WOM-04
			神経心理学	ST-1-WOM-05
			心理測定法	ST-1-WOM-06
			認知・学習心理学	ST-1-WOM-07
		言語と コミュニケーション	言語学	ST-1-LAC-01
			日本語文法学	ST-1-LAC-02
			音声学	ST-1-LAC-03
			音声・言語学総論	ST-1-LAC-04
			音声表記・分析学	ST-1-LAC-05
			音響学	ST-1-LAC-06
			言語発達学	ST-1-LAC-07
			拡大・代替コミュニケーション	ST-1-LAC-08
			視覚言語論	ST-1-LAC-09
		社会保障・教育と リハビリテーション	社会保障・教育と リハビリテーション	ST-1-SER-01
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	ST-2-LHD-01
		言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学Ⅰ	ST-2-LHM-01
			言語聴覚療法管理学Ⅱ	ST-2-LHM-02
		失語・高次脳機能 障害学	失語症概論	ST-2-AHB-01
			高次脳機能障害学	ST-2-AHB-02
			言語聴覚障害診断学	ST-2-AHB-03
			失語症・高次脳機能障害	ST-2-AHB-04
		言語発達障害学	言語発達障害総論	ST-2-LDS-01
			言語発達障害評価学	ST-2-LDS-02
			小児の構音障害	ST-2-LDS-03
			脳性麻痺	ST-2-LDS-04
			学習障害・発達障害	ST-2-LDS-05

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	発声発語・ 摂食嚥下障害学	音声障害	ST-2-VDS-01
			吃音概論	ST-2-VDS-02
			運動障害性構音障害Ⅰ	ST-2-VDS-03
			運動障害性構音障害Ⅱ	ST-2-VDS-04
			摂食嚥下障害Ⅰ	ST-2-VDS-05
			摂食嚥下障害Ⅱ	ST-2-VDS-06
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	ST-2-HDS-01
			聴能・発語訓練演習	ST-2-HDS-02
			聴力検査Ⅰ	ST-2-HDS-03
			聴力検査Ⅱ	ST-2-HDS-04
			視覚聴覚二重障害・重複障害	ST-2-HDS-05
			補聴器・人工内耳	ST-2-HDS-06
			聴覚障害学総論	ST-2-HDS-07
		地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学Ⅰ	ST-2-CLH-01
			地域言語聴覚療法学Ⅱ	ST-2-CLH-02
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	ST-2-CLT-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ST-2-CLT-02
			臨床能力評価実習	ST-2-CLT-03
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	ST-2-CLT-04
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	ST-2-CLT-05
	専門独自科目		医療英会話と英文抄読	ST-3-SOC-01
			手話	ST-3-SOC-02
			言語聴覚障害学特別講義Ⅰ	ST-3-SOC-03
			言語聴覚障害学特別講義Ⅱ	ST-3-SOC-04
			音と聴力	ST-3-SOC-05
			運動生理学の基礎	ST-3-SOC-06
			言語聴覚障害学の基礎	ST-3-SOC-07

言語聴覚学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	さくらば 櫻庭 ゆかり	共同 研究室	022-302-5591	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	すずき ゆういち 鈴木 裕一	鈴木 研究室	022-302-5480	yi_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	わたなべ ひろと 渡邊 弘人	共同 研究室	022-302-5591	h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	なかがわ だいすけ 中川 大介		022-302-5591	d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	すずき まさひろ 鈴木 将太		022-302-5591	ms_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	こまつ ゆき 小松 有希		022-302-5591	yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	えばた あや 江畑 綾		022-302-5591	a_ebata@seiyogakuin.ac.jp

言語聴覚学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
人間関係論	1	櫻庭 ゆかり	講師は臨床現場で言語聴覚士としての経験をもちスタッフや患者・患者家族との関係を構築してきた
法律入門	1	鈴木 一樹	公認会計士として上場企業などの法定監査、税理士として税務業務に従事。□
学習の基礎	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
医療概論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
病理学	1	三木 康宏	東北大学大学院 医学系研究科 病理診断分野 准教授、東北大学病院勤務
小児科学	1	峯岸 直子	医師として10年以上の経験あり
臨床歯科医学・口腔外科学	1	川村 仁	大学教員として、30年以上口腔科学教育の経験あり。歯科医師として、30年以上臨床の経験あり。
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有する。
聴覚系の構造・機能・病態	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
神経系の構造・機能・病態	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
心理学	1	真覚 健	大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり
認知・学習心理学	1	真覚 健	大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり
音声表記・分析学	1	小松 有希	臨床経験5年以上の言語聴覚士が担当する。
言語聴覚療法学Ⅰ	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
失語症概論	1	中川 大介	言語聴覚士として、臨床現場にて15年以上の経験あり。
脳性麻痺	1	千木良 あき子	歯科医師として臨床に30年以上携わっている
学習障害・発達障害	1	須賀川 芳夫	言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。
運動障害性構音障害Ⅰ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
摂食嚥下障害Ⅰ	1	江畑 綾	言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。
成人・小児の聴覚障害	1	坂本 幸	小児聴覚障害児への直接的支援を30年以上行っている。
聴力検査Ⅰ	1	渡邊 弘人	臨床経験10年以上の言語聴覚士が担当する。
視覚聴覚二重障害・重複障害	1	三科 聡子	視覚聴覚二重障害児・者及び重度重複障害児・者への教育的指導及び情報保障を担う通訳・介助員として35年以上携わっている
地域言語聴覚療法学Ⅰ	1	渡邊 弘人	臨床経験10年以上の言語聴覚士が担当する。
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
言語聴覚障害学の基礎	2	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
健康スポーツ学Ⅰ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
臨床神経学	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
精神医学	1	菊地 史子	看護師として臨床5年以上携わっている。
リハビリテーション医学	1	水尻 強志	医師として、臨床に30年以上携わっている
耳鼻咽喉科学	1	松谷 幸子	医師として、臨床に30年以上携わっている
形成外科学	1	佐藤 顕光	医師として、臨床に10年以上携わっている。
生涯発達心理学	1	小松 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
心理測定法	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
福祉心理学	1	小松 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
聴覚心理学	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
リハビリテーション論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
言語聴覚障害診断学	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
失語症・高次脳機能障害Ⅱ	2	中川 大介	言語聴覚士として、臨床に15年以上の経験あり。
言語発達障害Ⅱ	2	小松 有希	言語聴覚士。小児に関する施設における臨床の実務経験を有する。
音声障害	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
器質性・機能的構音障害	1	須賀川 芳夫	言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。
運動障害性構音障害Ⅱ	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
吃音概論	1	藤島 省太	教育相談業務、スーパー・バイズおよび吃音者のセルフ・ヘルプ・グループの立ち上げから運営まで長年携わっている。
摂食嚥下障害Ⅱ	2	江畑 綾	言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
聴能・発語訓練演習	1	坂本 幸	小児聴覚障害児への直接的支援を30年以上行っている。
補聴器・人工内耳	1	松谷 幸子	医師として、臨床に30年以上携わっている
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
神経の診かた	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
動作分析の基礎	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
口腔衛生論	1	中川 大介	言語聴覚士として、臨床にて15年以上の経験あり。
保険診療・介護保険制度	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
健康スポーツ学Ⅱ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
神経心理学	1	中川 大介	言語聴覚士として、15年以上の臨床経験あり。
心理学系総論	1	小松 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
言語聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。
言語聴覚障害学臨床応用	1	江畑 綾	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
高次脳機能系総論	1	平山 和美	高次脳機能障害を中心とした医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
音と聴力	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	4	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	4	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
生命科学の基礎	1	中村 裕子	言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。
口腔顔面の感覚・運動障害総論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
地域リハビリテーション論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
認知症のリハビリテーション	1	中村 裕子	言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。
疾病論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。
リハビリテーション栄養	1	江畑 綾	言語聴覚士として、臨床経験5年以上あり。
視覚言語論	1	山本 はづき	言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。
補綴・補装具論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
言語聴覚学特別講義Ⅰ	2	渡邊 弘人	言語聴覚士として10年以上の臨床経験あり。
言語聴覚学特別講義Ⅱ	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
	86	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数（旧カリキュラム）	
	101	設置基準上の標準単位数（新カリキュラム）	